

第二部 帝室御用度、神社ノ諸費

第三部 各廳ノ經費

第三條 此規則ニ於テ納入ト稱スルハ戶長、各納稅者、其他政府ニ對シ仕拂ノ義務ヲ有スル者ヲ云

第四條 此規則ニ於テ受取人ト稱スルハ官吏、會社、一私人ノ別ナク總テ政府ヨリ仕拂ヲ受クヘキ權利ヲ有スル者ヲ云

第五條 此規則ニ掲クル金庫トハ大藏省金庫局其出張所及國庫金取扱所若クハ現金仕拂所ヲ云

第六條 金庫ノ出納ハ臨時急施ヲ要スルモノヲ除クノ外總テ大藏大臣ノ指定スル開庫時間ニ限ル

第七條 此規則ニ稱スル收支命令官トハ明治十四年第三十六號達及特別ノ制規ニ據リ定メタル金錢物品收支命令ノ權ヲ有スル當該官ヲ云

分任收支命令官トハ同達ニ據リ收支命令ノ權ヲ分任セラレタル當該官ヲ云

第八條 帝室御用度ハ内藏頭ノ請求ニ依リ現金ヲ内藏寮ニ交付シ其出納ハ別段ノ規則ニ據ルモノトス

第二章 出納ノ開閉

第九條 一會計年度 毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日マテニ屬スル歳入歳出ノ出納ハ第十條第十一條第十二條ノ場合ヲ除キ總テ毎年四月一日ヲ以テ開始ス

第十條 特別ノ制規ニ據リ俸給等ノ前渡ヲ要スルトキハ出納ノ開始前ニ於テ支出ヲ爲スコトヲ得

第十一條 在外各廳ノ經費、現金仕拂所ナキ地方各廳ノ經費、外國派出官吏及留學生等ノ經費送付ノ爲メ前年度十二月一日以降特ニ支出ヲ爲スコトヲ得

第十二條 前二條ノ外旅費手當ノ如キ支給ノ方法ニ由リ前年度内ニ支出スルノ必要ナルモノアルトキハ出納開始前ニ支出ヲ爲スコトヲ得

第十三條 各廳ニ於テ會計年度内ニ於テ歳出ノ仕拂ヲ了セサルモノハ整理ノ爲メ翌年度八月三十一日マテ該會計年度ニ屬スル支出ヲ爲スコトヲ得

第十四條 在外各廳及現金ヲ出納スル各廳ハ三月三十一日以後ハ該會計年度ニ屬スル收支ヲ執行スルコトヲ得メ但概算支出ノ精算ノ爲メニ必要ナルトキハ翌年度五月三十一日マテ特ニ收支ヲ爲スコトヲ得

第十五條 金庫ニ於テハ毎年度會計整理ノ爲メ翌年度十一月二十日マテ出納ヲ爲スコトヲ得

第三章 歳入

第十六條 歳入ニ係ル現金ノ收納ハ總テ大藏大臣之ヲ管理シ各廳ノ收支命令官ハ其徵收ヲ監理シ現金ハ直ニ金庫ニ收納スルモノトス但左ニ掲クル各項ノ收入ハ現金ヲ各廳ニ收納

第十一類 租稅貨紙幣公債區町村費

十四年第三十六號達及特別ノ制規ニ據リ定メタル金錢物品收支命令ノ權ヲ有スル當該官ヲ云

スルコトヲ得

第一項 郵便収入

第二項 電信収入

第三項 公賣處分ニ依リ収入スル税金、過料、沒收金、手数料ノ類

第四項 在外各廳ノ收入金

第五項 諸寄付金ノ類

第十七條 前條但書ノ外臨時非常ノ場合若クハ特別避クヘカラサル場合ニ於テハ現金ヲ各廳ニ收納スルコトヲ得但其場合ニ於テハ即時其旨ヲ收支命令官ヨリ大藏大臣ニ報告スヘシ

第十八條 歳入ハ徵稅令書若クハ納額告知書ヲ發シテ之ヲ徵收スルモノトス但第十六條但書ノ收入ニシテ各廳ニ現金ヲ收納スルトキハ此限ニアラス

第十九條 第一部歳入中内國稅ヲ徵收スルトキハ北海道廳長官若クハ府知事縣令ノ命令ニ據リ郡區長ヨリ戶長若クハ各納稅者ニ對シ徵稅令書ヲ發スルモノトス

第二十條 戶長ハ徵稅令書ヲ受タルトキハ其町村一人別納額元帳ニ據リ各納稅者ニ徵稅傳令書ヲ發スルモノトス

第二十一條 第一部歳入中關稅及第二部歳入中稅關ノ諸收入ヲ徵收スルトキハ大藏大臣ノ命令ニ據リ稅關長ヨリ各納人へ納額告知書ヲ發スルモノトス

第二十二條 第二部歳入稅關ノ諸收入ヲ除クヲ徵收スルトキハ各廳ノ收支命令官ノ命令ニ據リ會計主務官ヨリ各納人へ納額告知書ヲ發スルモノトス

第二十三條 第一部歳入中納期ヲ豫定シタルモノハ納期ノ十五日以前納期日ノ數日ニ涉ル日以前以下同シニ其隨時納期ヲ定ムルモノハ其都度徵稅令書若クハ納額告知書ヲ發スヘシ但納期ヲ豫定シタルモノト雖モ稅則ニ因リ十五日ノ猶豫ナキモノハ此限ニアラス

第二十四條 戶長ハ徵稅令書ヲ受領シタルトキハ納期日以前ニ各納稅者ニ徵稅傳令書ヲ發シ税金ヲ取纏ムヘシ

第二十五條 第二部歳入中納期ヲ豫定シタルモノハ納期ノ十日以前ニ其隨時納期ヲ定ムルモノハ其都度納額告知書ヲ發スルモノトス

第二十六條 關稅、稅關ノ諸收入及物品ヲ以テ徵收スルモノ又ハ第十六條但書ニ屬スルモノヲ除キ其他ノ歳入ハ總テ納人ヲシテ現金ヲ金庫ニ納付セシムヘシ

第二十七條 第十六條但書ノ第一項第二項第三項第五項及第十七條ノ如キ各廳ニ現金ヲ收納スルモノハ毎日之ヲ取纏メ歳入ノ各目ニ區別シタル納付書ヲ添ヘ翌日マテニ其取扱主任官ヨリ金庫へ納付スヘシ但金庫ニ遠隔ナル地方ノ各廳ニ收納スル現金納付ノ方法ハ大藏大臣特ニ之ヲ定ムヘシ

第二十八條 第二十六條ニ據リ納人ヲシテ現金ヲ金庫ニ納付セシムルニハ同時ニ徵稅令書若クハ納額告知書ヲ持參セシムヘシ

第二十九條 金庫ニ於テ納人ヨリ歳入ヲ領收スルトキハ其持参シタル徵稅令書若クハ納額告知書ニ領收ノ證ヲ記シ之ヲ納人ニ交付スヘシ但第二十七條ノ場合ニ於テハ納付書ニ領收ノ證ヲ記シ還付スルモノトス

第三十條 戶長ニ於テ取經メタル稅金ハ翌日マテニ之ヲ金庫ニ納付スヘシ但相當ノ保護法ヲ設ケルトキハ納期前ニ限リ一千圓以下五百圓マテハ五日間五百圓未滿ハ七日間之ヲ其役場ニ留ムルコトヲ得

第三十一條 關稅及稅關ノ諸收入ハ納人ヲシテ現金ヲ金庫ニ預ケシメ其預リ證書ヲ以テ稅關ヘ納付セシムヘシ

第三十二條 稅關長ハ其領收シタル關稅及稅關ノ諸收入ヲ取經メ毎月三回之ヲ金庫ヘ送納スヘシ

第三十三條 各廳ノ收支命令官ハ歳入ノ過納、誤納若クハ印紙類ノ返納ニ由リ既納ノ歳入下戻ヲ要スルトキハ其事由ヲ具シ其拂戻ヲ大藏大臣ニ請求スヘシ

第三十四條 物品ヲ以テ歳入ヲ徵收スル方法ハ別ニ之ヲ定ム

第四章 歳出

第三十五條 歳出ニ係ル現金ノ仕拂ハ總テ大藏大臣之ヲ管理シ其所管金庫ニ於テ仕拂ヲ執行スルモノトス但左ニ掲ケル各項ノ經費ハ各廳ノ請求ニ依リ大藏大臣ハ現金ヲ各廳ニ交付スルコトヲ得

第一項 在外各廳ノ經費

第二項 陸軍ノ行軍費

第三項 海軍ノ航海費

第四項 外國ニ於テ使用スル各廳ノ經費

第五項 燈臺巡回船ノ航海費

第六項 機密費

第七項 運輸通信ノ便少ナキ島嶼其他金庫ノ設置ナキ地方ニ在ル各廳ノ經費

第三十六條 前條但書ノ外臨時非常ノ場合若クハ特別避ケヘカラサル場合ニ於テハ大藏大臣ハ現金ヲ各廳ニ交付スルコトヲ得

第三十七條 毎年豫算ノ裁定アルトキハ各廳ノ收支命令官ハ一週年度中ニ係ル經費ノ月額ヲ豫定シ仕拂場所ノ仕譯書ヲ製シ豫算裁定ノ達ヲ受タル後十五日以内ニ之ヲ大藏大臣ヘ送付シ其承認ヲ受クヘシ但其支出期節ノ豫定シ難キモノ及第一部第二部歳出ハ此限ニアラス

第三十八條 前條歳出仕譯書ノ承認ヲ受タル後期節若クハ金額ノ變更ヲ要スルトキハ更ニ大藏大臣ノ承認ヲ受クヘシ

第三十九條 第三十七條但書中支出期節ノ豫定シ難キモノハ其支出ヲ要スル毎ニ大藏大臣ノ承認ヲ受クヘシ

第十一類 租稅貨紙幣公債區町村費

第四十條 各廳ノ收支命令官ハ第三十七條第三十八條第三十九條ノ承認ヲ受クル後ニアラサレハ支出ヲ命令スルコトヲ得ス但毎會計年度ノ初メ一箇月分毎年四ハ各目ノ豫算金額十二分ノ一ニ超エサレハ承認ヲ受ケサルモ支出ヲ命令スルコトヲ得

第四十一條 各廳ニ於テ支出スル所ノ經費ハ第三十五條但書第三十六條ノ場合ヲ除キ總テ仕拂切符ヲ以テ之ヲ仕拂フモノトス

第四十二條 前條ノ經費ヲ仕拂フトキハ收支命令官ノ命令ニ依リ會計主務官ハ各受取人ニ對シ仕拂切符ヲ發シテ之ヲ交付スルモノトス

第四十三條 仕拂切符ノ仕拂期限ハ振出ノ日ヨリ滿九十日ヲ超ユヘカラス

第四十四條 仕拂切符ハ一日毎ニ之ヲ發シ數目ヲ合スルコトヲ得ス

第四十五條 仕拂切符ヲ發付シタル會計主務官ハ其切符ヲ發スルト同時ニ該仕拂切符ニ指名シタル金庫へ案内書ヲ發スヘシ

第四十六條 仕拂切符ニ指名セラレタル金庫ハ其切符持參人ニ對シテ即時ニ表面ノ金額ヲ仕拂フモノトス但仕拂切符ノ日付後九十日ヲ過キタルモノハ第四十七條第四十八條ニ據リ之ヲ處分スヘシ

第四十七條 金庫ニ於テ仕拂切符ノ日付後九十日ヲ過キタルモノヲ發見シタルトキハ該仕拂切符所有者ヲシテ其發行廳ニ仕拂切符ノ交換ヲ請求セシムヘシ

第四十八條 各廳ハ前條ノ請求ヲ受ルトキハ更ニ仕拂切符ヲ發シテ之ヲ交付スルモノトス

第四十九條 金庫ハ仕拂ヲ請求セラレタル仕拂切符若シ成規ニ違フコトアルカ若クハ案内書ト符合セサルコトアリト認ムルトキハ其事由ヲ該仕拂切符持參人ニ告ケ預リ證書ヲ發シテ該切符ヲ留置キ即時ニ其旨ヲ該切符ニ記名ノ會計主務官ニ通牒スヘシ

第五十條 前條ノ場合ニ於テ金庫ハ會計主務官ニテ仕拂切符又ハ案内書ヲ訂正スルカ若クハ其切符ノ正當ナルヲ保證スルニアラサレハ之ヲ仕拂フコトヲ得ス

第五十一條 第二十五條ノ第一項第四項第七項ノ經費金遞送ヲ要スルトキハ各主管廳ノ收支命令官ヨリ請求書ヲ大藏大臣へ送付シテ送金ヲ請求スヘシ

第五十二條 前條ノ經費ハ一回ニ年額四分ノ一以内ヲ交付スルモノトス但臨時ノ費途ニシテ一時ニ支出ヲ要スルモノハ此限ニアラス

第五十三條 豫算ノ裁定前ニ於テ第五十一條ノ經費發送ヲ要スルトキハ前年度ノ豫算額ニ據リ送付ノ金額ヲ定ムルモノトス但臨時ノ費途ハ此限ニアラス

第五十四條 大藏大臣ハ第五十一條ノ請求ヲ受クルトキハ金庫ヲシテ一箇月以内ニ其指定セラレタル出納主任官へ現金ヲ發送セシムルモノトス

第五十五條 第三十五條ノ第二項第三項第五項第六項ノ經費金ヲ受取ントスルトキハ各主管廳ノ收支命令官ハ請求書ヲ大藏大臣へ送付シ其交付ヲ請求スヘシ

第五十六條 大藏大臣ハ前條ノ請求ヲ受クルトキハ金庫ヲシテ其指定セラレタル出納主任官へ現金ヲ交付セシムルモノトス

第五十七條 各廳ノ收支命令官ハ第十條第十二條ノ支出ヲ爲サントスルトキハ事由ヲ具シテ其任拂ヲ大藏大臣ニ請求スヘシ

第五十八條 各廳ノ本廳外ノ地ニ在ル小支部局若クハ出張官吏等へ經費金ヲ遞送セントスルトキハ會計主務官ヨリ任拂切符ヲ發シ金庫へ送付シ送金ヲ請求スヘシ

第五十九條 國庫常用部ヨリ會計ノ取扱ヲ異ニスルモノハ支出スル經費ハ主管廳ノ請求ニ據リ大藏大臣ハ直ニ金庫ヨリ現金ヲ任拂ハシムルモノトス

第六十條 國債元利ノ任拂ヲ爲ストキハ大藏大臣ハ其豫定金額ヲ北海道廳府縣廳へ達シテ其任拂ヲ執行セシムルモノトス但銀行ヲシテ取扱ハシムル國債元利ノ任拂ハ其取扱銀行へ金額ヲ交付シテ之ヲ執行セシム

第六十一條 國庫常用部ヨリ國庫中他ノ部準備部へ支出スルモノハ裁定ノ豫算ニ基キ大藏大臣ノ命令ニ據リ直ニ之ヲ移スモノトス

第六十二條 各廳ノ收支命令官ハ會計年度經過後ニ於テ其會計年度ノ支出ニ屬スヘキ契約ヲ爲スコトヲ得ス

第六十二條 各廳ニ於テ既ニ任拂タル金額ノ内返納ヲ要スルトキ若クハ第三十五條但書及第三十六條ニ據リ現金ヲ受取リ任拂殘餘アルトキハ即日之ヲ金庫へ納付シ廳中ニ留ムルコトヲ得ス但第三十五條第一項第七項ノ場合ハ此限ニアラス

第六十四條 金庫ハ大藏大臣ノ命令ヲ受クルニアラサレハ一切任拂ヲ執行スルコトヲ得ス

第五章 報告

第六十五條 毎年豫算ノ裁定アルトキハ各廳ノ收支命令官ハ一週年度中ニ係ル歳入ノ月額豫算表ヲ製シ豫算裁定ノ達ヲ受タル後十五日以内ニ之ヲ大藏大臣へ報告スヘシ但收入期節ノ豫定シ難キモノハ此限ニアラス

第六十六條 郡區長ハ第十九條ニ據リ徵稅令書ヲ發シタルトキハ之ヲ北海道廳長官若クハ府知事縣令へ報告スヘシ

第六十七條 北海道廳長官、府知事、縣令ハ前條郡區長ノ報告ニ據リ其徵稅額表ヲ製シ納期ヲ豫定シタル租稅ハ徵稅令書發付後十五日以内ニ隨時納期ヲ定ムルモノハ毎月取經メ翌月十五日マテニ之ヲ大藏大臣へ報告スヘシ

第六十八條 金庫ハ各納人ヨリ收入金ヲ領收シタルトキハ毎日之ヲ其徵稅令書若クハ納額告知書ヲ發シタル廳へ報告スヘシ但官廳ヨリ收入金ヲ領收シタルトキハ此限ニアラス

第六十九條 稅關長ハ第三十二條ニ據リ關稅及稅關ノ諸收入ヲ送付スルトキハ同時ニ之ヲ大藏大臣へ報告スヘシ

第七十條 各廳ノ收支命令官ハ毎月其徵收セシメタル歳入ノ報告書ヲ製シ翌月十五日マテニ之ヲ大藏大臣へ送付スヘシ但關稅及稅關ノ諸收入ハ此限ニアラス

第七十一條 各廳ノ收支命令官ハ毎月其支出セシメタル歳出ノ報告書ヲ調製シ翌月七日マテニ之ヲ大藏大臣へ送付スヘシ

第七十二條 在外各廳ノ分任收支命令官ハ每會計年度初月ヨリ三箇月毎ニ歳出報告書ヲ主管廳長官ヘ送付スヘシ

第七十三條 本廳外ニ在ル支部局ノ分任收支命令官ハ第七十一條ノ期日マテニ毎月ノ歳出報告書ヲ主管廳長官ヘ送付スヘシ

第七十四條 前二條ニ據リ送付シタル歳出報告書ハ主管廳ノ收支命令官ヨリ其到達後三日以内ニ之ヲ大藏大臣ヘ送付スヘシ

第七十五條 現金ヲ出納スル所ノ出納主任官ハ現金ノ受拂ヲ大藏省王計局長ヘ報告スヘシ

第七十六條 前條ノ報告期節ヲ定ムルコト左ノ如シ  
一 在外各廳ノ收入及經費機密費及現金仕拂所ナキ地方各廳ノ經費ノ報告ハ毎月分ヲ翌月十日マテニ發送ス

一 陸軍ノ行軍費ノ報告ハ行軍終ル後十五日以内ニ發送ス  
一 海軍ノ航海費燈臺巡回船ノ航海費ノ報告ハ航海終ル後十五日以内ニ發送ス

第七十七條 各廳ノ收支命令官ハ會計年度内ニ於テ歳入ノ徵收若クハ歳出ノ仕拂ヲ完了セサルモノアルトキハ其報告書ヲ製シ年度後十五日以内ニ之ヲ大藏大臣ヘ送付スヘシ但所在地ノ隔離スル郡區役所若クハ支部局ニ係ルモノハ年度後一箇月内ニ取纏メ之ヲ送付スヘシ

第七十八條 各廳ノ收支命令官ハ會計ノ整理期限翌年度八月三十一日内ニ於テ歳出ノ支出ヲ完了セサルモノアルトキハ其報告書ヲ製シ翌年度十月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ヘ送付スヘシ

第七十九條 各廳ノ收支命令官ハ翌年度十一月三十日マテニ歳入ノ徵收ヲ完了セサルモノアルトキハ其報告書ヲ製シ十二月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ヘ送付スヘシ

第八十條 會計主務官ハ會計ノ整理期限マテニ概算支出ノ精算未済ノモノアルトキハ其報告書ヲ製シ翌年度九月三十日マテニ之ヲ大藏省及會計檢査院ヘ送付スヘシ

第八十一條 郡區役所又ハ支部局ノ所在地遠隔ニシテ第六十七條第七十條及第七十七條但書ノ報告期節ニ其報告ヲ取纏メ難キ場合ニ於テハ其旨ヲ大藏大臣ニ開申シ追表ヲ製シテ別ニ之ヲ報告スヘシ

第六章 雜則

第八十二條 此規則ニ掲クル仕譯書、請求書、月額豫算表、計算書、報告書、徵稅令書、納額告知書、仕拂切符等ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ム

第八十三條 此規則ニ關スル事務取扱ノ手續ハ大藏大臣之ヲ定ム

第八十四條 現行法規中此規則ニ抵觸スル條項ハ廢止ス  
○歳入取扱順序ヲ定ム十九年三月十八日 大藏省令第四號

閣令第三號歳入歳出納規則第八十三條ニ據リ歳入取扱順序別冊ノ通之ヲ定ム  
別冊

歳入取扱順序

第一章 主管廳及支部局

内國稅

- 第一條 北海道廳長官府知事縣令ハ毎年達セラレタル豫算額ニ據リ前々年度以前三ヶ年間該當月ニ收入シタル平均額ト其豫算額トヲ標準トシ一週年度中ニ係ル内國稅ノ月額豫算表ヲ第十七號甲書式ニ據リ調製シ規則第六十五條ニヨリ之ヲ大藏省ヘ送付ス
- 第二條 北海道廳長官府知事縣令ハ規則第十九條ニヨリ徵收命令ヲ郡區長ヘ下スニハ租稅ノ種類ニ依リ其額ノ便宜ニ從ヒ或ハ豫算ニ基キ豫メ之ヲ發シ或ハ隨時ニ之ヲ發ス
- 第三條 北海道廳長官府知事縣令ハ郡區長ヨリ規則第六十六條ノ報告ヲ得タルトキハ之ヲ取纏メ第十八號書式ニ據リ徵收額表ヲ製シ規則第六十七條ニヨリ之ヲ大藏省ヘ送付ス
- 第四條 北海道廳長官府知事縣令ハ郡區長ヨリ順序第四十八條ノ徵收清報告書ヲ得タルトキハ毎月分ヲ取纏メ第二十號甲書式ノ歳入報告書ヲ製シ規則第七十條ニヨリ大藏省ヘ送付ス
- 第五條 北海道廳長官府知事縣令ハ郡區長ヨリ順序第五十條ノ既納歳入下戻ヲ請求スルトキハ第六號書式ニヨリ計算書ヲ製シ規則第三十三條ニヨリ其下戻ヲ大藏省ニ請求ス
- 第六條 北海道廳長官府知事縣令ハ大藏省ヨリ既納金拂戻證ノ交付ヲ受クルトキハ之ヲ郡區長ニ交付シ其旨ヲ大藏省ヘ報告ス
- 第七條 北海道廳長官府知事縣令ハ會計年度内ニ於テ内國稅ノ徵收ヲ完了セサルモノアルトキハ第二十三號甲書式ニヨリ會計年度内徵收未済報告書ヲ製シ規則第七十七條ニヨリ之ヲ大藏省ヘ送付ス
- 第八條 北海道廳長官府知事縣令ハ翌年度十一月三十日迄ニ内國稅ノ徵收ヲ完了セサルモノアルトキハ第二十三號甲書式ニ據リ出納閉鎖前不納報告書ヲ製シ規則第七十九條ニヨリ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第九條 規則第八十一條ニヨリ成規ノ期限後ニ製スル所ノ報告書ハ各第十八號書式第二十號甲書式第二十三號甲書式ニ準ス

第二部 歳入 稅關ノ諸收

- 第十條 主管廳ノ收支命令官ハ毎年達セラレタル豫算額ニ基キ第十七號書式ニヨリ各所管内ノ歳入月額豫算表ヲ調製シ規則第六十五條ニヨリ之ヲ大藏省ヘ送付ス
- 第十一條 收支命令官又ハ分任收支命令官ハ規則第二十二條ニ據リ會計主務官又ハ其代理官ニ命令ヲ下スニハ歳入ノ性質ニ依リ其額ノ便宜ニ從ヒ或ハ豫算ニ基キ豫メ之ヲ發シ或ハ隨時ニ之ヲ發シテ其徵收ヲ取扱ハシム
- 第十二條 會計主務官又ハ其代理官ニ於テ規則第二十二條第二十五條ニ據リ納額告知書ヲ發スルハ總テ納額告知書ニヨリ第四號書式ノ納額告知書ニ納人ノ姓名金員納期告知書番號所屬年度科目所屬曆年納期ノ數回アル納付先ヲ記載シ又其告知書ニ接續シタル上納書ノ正副共右同一ノ記入ヲナシ納額告知書ニハ發付ノ年月日及發付者ノ官姓名ヲ記シ之ニ官印ヲ捺シ第四號書式三印ノ處ヘ蓋帳ト割印シテ之ヲ納人ヘ交付ス
- 第十三條 規則第二十六條第二十八條ニ據リ納人ヲシテ現金ヲ納付セシムルトキハ納額告知書ニ接續シタル上納書正副共ニ年月日ヲ記入シ記名捺印シ(見認印又ハ花押等ニテモ差支ナシ)納額告知書ト共ニ之ヲ現金ニ添テ金庫ヘ持参セシム
- 第十四條 規則第十六條但書及第十七條ニ據リ現金ヲ各廳ヘ收入スルトキハ其取扱主任官ハ規則第二十七條ニヨリ第五號書式ノ納付書ヲ添ヘ現金ヲ金庫ヘ納付ス
- 第十五條 納人收多アリテ其組合代理ヲ撰ミ之ニ委託シテ納金ヲサントスルモノアルトキハ代理納人ニ對シテ納額ヲ集計シタル納額告知書ヲ發ス
- 第十六條 納人ノ隔地ニ散在スルカ爲メ他廳ニ主管廳ヲ異ニスル官衙ニ徵收ヲ委託スル場合ニ於テハ收支命令官ヨリ受託廳ノ收支命令官ニ徵收額調書ヲ送リテ其徵收ヲ託ス

第十一類 租稅貨紙幣公債區町村費

第十七條 前條ノ委託ヲ受ケタル收支命令官ハ分任收支命令官ノ地位ニアルト均シク徵收ヲ取扱フモノナレモ處務ノ便宜上必要トスレハ更ニ部下ノ官吏ニ收支ノ命令ヲ分任ス

第十八條 納人ノ隔地ニ散在スルカ爲メ部下ノ廳ヲシテ徵收ヲ監督セシムル場合ニ於テハ收支命令官ハ會計主務官ヲシテ順序第十二條ニヨリ調製シタル納額告知書ヲ其廳ヘ送付セシメ其廳ニ於テ各納人ヘ配付セシム

第十九條 前條ニ據リ主管廳ヨリ納額告知書ノ配付ヲ命セラレタル部下ノ廳ハ主管廳ノ定メタル帳簿式ニ據リ徵收監査簿ヲ備ヘ置キ之ニ登記シ其納額告知書ノ裏面ニ配付ノ年月日ヲ記入シ廳印ヲ捺シ上納正副簿用紙ノ裏面ニハ廳印ノミヲ捺シ之ヲ納人ヘ交付ス

第二十條 納額告知書ノ配付ヲ命セラレタル廳ニ於テハ金庫ヨリ順序第八十三條ニ據リ送付シタル上納副書ヲ受クルハ之ヲ徵收監査簿ニ照合シ納額ヲ記入ヲナス

第二十一條 納額告知書ヲ配付シタル廳ハ金庫ヨリ送付シタル上納副書ヲ取鑑メ主管廳ノ定メタル期節ニ之ヲ主管廳ヘ送付ス

第二十二條 會計主務官又ハ其代理官ハ金庫ヨリ順序第七十四條ニ據リ上納副書ヲ送付マラレ又ハ上納副書ヲ取鑑メタル廳ヨリ前條ニ據リ上納副書ヲ送付セラレタルトキハ之ヲ納額告知書ニ照合シ該告知書ニ納額ヲ記入ヲナス

第二十三條 會計主務官又ハ其代理官ハ毎月納額ノ金額ヲ取調ヘ放入徵收簿調書ヲ製シ之ヲ收支命令官又ハ分任收支命令官ニ報告ス

第二十四條 收支命令官ハ前條ノ報告ニ據リ第二十號シ書式ノ放入報告書ヲ製シテ規則第七十條ニ據リ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第二十五條 分任收支命令官ハ順序第二十三條ノ報告ニ據リ第二十號シ書式ニ準シ放入報告書ヲ製シテ之ヲ主管廳ヘ送付ス

第二十六條 主管廳ノ收支命令官ハ前條ノ報告書ヲ受クルトキハ査問ノ後之ニ記名捺印シテ大藏省ヘ送付ス

第二十七條 收支命令官ハ既納ノ放入下戻ヲ要スルトキハ第六號書式ニ準シ計算書ヲ製シテ規則第三十三條ニ據リ其下戻ヲ大藏省ニ請求ス

第二十八條 分任收支命令官ハ既納ノ放入下戻ヲ要スルトキハ事由ヲ具シテ主管廳ノ收支命令官ニ開申ス

第二十九條 收支命令官ハ大藏省ヨリ既納金拂戻證ノ交付ヲ受クルトキハ會計主務官又ハ其代理官ヲシテ之ヲ受取人ニ交付セシメ其旨ヲ大藏省ニ報告ス

第三十條 會計主務官又ハ其代理官ハ金庫ヨリ上納副書若クハ領收ヲ證シタル納付書ヲ受タルトキ年度又ハ科目ノ誤記ヲ發見スルトキハ收支命令官又ハ分任收支命令官ニ具申シ其命令ニヨリ即時金庫ニ照會シテ之カ訂正ヲ請求ス

第三十一條 在外各廳ニ於テ現金ヲ出納スル所ノ出納主任官ハ放入放入ノ現金ヲ合セテ取扱タルトキハ第二十二號申書式ニ據リ放入ノ取扱タルトキハ第二十二號シ書式ニ據リ規則第七十五條第七十六條ニ據リ報告書ヲ製シテ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第三十二條 前條ノ出納主任官ハ其收入シタル現金ヲ監守シ大藏省ノ指押ニ從テ之ヲ處分ス

第三十三條 收支命令官ハ會計年度内ニ於テ放入ノ徵收ヲ完了セサルモノアルトキハ第二十三號シ書式ニ據リ會計年度内徵收未済報告書ヲ製シ規則第七十七條ニ據リ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第三十四條 收支命令官ハ翌年度十一月三十日マテニ放入ノ徵收ヲ完了セサルモノアルトキハ第二十三號シ書式ニ據リ出納閉鎖前不納報告書ヲ製シ規則第七十九條ニヨリ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第三十五條 規則第八十一條ニ據リ成規ノ期限後ニ製スル所ノ報告書ハ各第二十號シ書式第二十三號シ書式ニ準ス

第二章 郡區役所

第三十六條 郡區長ハ規則第十九條第二十三條ニ據リ戶長若クハ各納稅者ニ對シテ徵稅令書ヲ發スルトキハ總テ徵稅令書ニ據リ徵稅令書ニ納人(納稅者若クハ戶長)ノ姓名、金員納期、令書番號、所屬年度、科目、所屬歷年、納期ノ數回アル納付先ヲ記載シ又其令書ニ捺印スル上納書ノ正副共同一ノ記入ヲナシ(金員ヲ)徵稅令書ニハ發付ノ年月日及發付者ノ官姓名ヲ記シ之ニ官印ヲ捺シ第一號書式イ印ノ如ク蓋帳卜割印シテ之ヲ納人ヘ交付ス規則第十七條ニ據リ現金ヲ徵

第十一類 租稅貨紙幣公債區町村費



收スルトキハ上納副書用紙ヲ交付セス

第三十七條 前條中各納稅者ニ對シテ發スル徵稅令書ハ第二號書式ニ據リ戶長ニ對シテ發スル徵稅令書ハ第一號書式ニ據ル

第三十八條 各納稅者ニ對シテ發スル徵稅令書ハ郡區役所ノ便宜ニ依リ戶長ニ交付シテ之ヲ配付セシメ又ハ直ニ之ヲ各納稅者ニ交付ス

第三十九條 戶長ニ徵稅令書ヲ交付シテ配付セシムル場合ニ於テハ戶長ヲシテ税金ヲ取纏メ之ヲ金庫ニ納付セシメ又ハ各納稅者ヲシテ直ニ税金ヲ金庫ニ納付セシムルハ徵稅上ノ便宜ニ依リ郡區役所ニ於テ之ヲ命付ス

第四十條 規則第二十六條第二十八條ニ據リ納人ヲシテ現金ヲ納付セシムルニハ徵稅令書ニ接續シタル上納書正副共ニ年月日ヲ記入シ記名捺印シ(見認印又ハ花押等ニテモ差支ナシ)徵稅令書ト共ニ之ヲ現金ニ添テ金庫(持替セシム)ニ納付ス

第四十一條 郡區長ハ徵稅令書ヲ發シタルトキハ規則第六十六條ニ據リ其報告書ヲ製シテ北海道廳長官府知事縣令ノ定メタル期節ニ之ヲ主管廳ヘ送付ス

第四十二條 公賣處分ヲ以テ徵收シタル税金ヲ規則第十六條但書ニ據リ郡區役所ニ收納シタルトキハ別ニ其以收證書ヲ製シ處分濟徵收ノ違書ト共ニ之ヲ納稅者ニ交付ス但戶長ニ對シテ徵稅令書ヲ發シタルモノニ係ルトキハ本文ノ領收證書及ヒ違書ヲ戶長ニ交付シテ之ヲ納稅者ニ傳ヘシム

第四十三條 規則第十七條ニヨリ税金ヲ郡區役所ニ納付セシメタルトキハ郡區役所ハ徵稅令書ニ領收ノ年月日ヲ記入シ役所印ヲ捺シ其傍ニ取扱主任者ノ印ヲ捺シ上納書ト接續ノ處ヘ割印ノ後之ヲ切斷シ該令書ハ之ヲ納人ヘ還付ス

第四十四條 戶長ニ對シテ徵稅令書ヲ發シ税金ヲ郡區役所ニ徵收スル場合ニ於テ税金ノ内納不納等ノトキ戶長ニ對スル處務ノ順序ハ總テ金庫ノ取扱ニ準ス

第四十五條 規則第十六條但書及第十七條ニ據リ税金ヲ郡區役所ニ收入スルトキハ郡區長ハ税金取扱主任官ヲシテ規則第二十七條ニ據リ第五號書式ノ納付書ヲ添ヘ現金ヲ金庫ヘ納付セシム

第四十六條 郡區長ハ金庫ヨリ順序第七十四條ニ據リ上納副書ヲ送付セラレタルトキハ之ヲ徵稅令書ニ照合シ該證帳

ニ納濟ノ記入ヲナス

第四十七條 郡區役所ニ於テ税金ヲ徵收スル場合ニ於テハ現金ヲ收納シタル際即時ニ徵稅證帳ニ領收濟ノ記入ヲナス

第四十八條 郡區長ハ毎月徵收濟ノ金額ヲ一ヶ月毎ニ取調徵收濟報告書ヲ製シ北海道廳長官府知事縣令ノ定メタル期節ニ之ヲ主管廳ヘ送付ス

第四十九條 郡區長ハ徵稅證帳及金庫ヨリ送付シタル不納報告書ニ據リ會計年度内徵收未濟報告書并ニ出納閉鎖前不納報告書ヲ製シ北海道廳長官府知事縣令ノ定メタル期節ニ之ヲ主管廳ヘ送付ス

第五十條 郡區長ハ既納ノ税金下戻ヲ要スルトキハ之レカ計算書ヲ製シテ其下戻ヲ北海道廳長官府知事縣令ニ請求ス

第五十一條 郡區長ハ主管廳ヨリ既納金拂戻證ヲ交付セラレタルトキハ其領收證ヲ主管廳ヘ發送シ其拂戻證ハ受取人ニ交付シ其領收證ヲ徵ス

第五十二條 郡區長ハ税金徵收濟ノ後徵收不足ヲ發見スルトキハ更ニ徵稅令書ヲ發シ其理由ヲ裏面ニ記載シテ之ヲ納入ニ交付ス

第五十三條 郡區長ハ金庫ヨリ上納副書分納副書若クハ領收ヲ證シタル納付書ヲ受ケタルトキ年度又ハ科目ノ誤記ヲ發見スルトキハ即時金庫ニ照會シテ之カ訂正ヲ請求ス

第五十四條 郡區長ハ順序第十八條ニ據リ主管廳ヨリ納額告知書ノ配付ヲ命セラレタルトキハ北海道廳長官府知事縣令ノ定メタル帳簿式ニ據リ徵收監査簿ヲ備置キ之ニ登記シ其納額告知書ノ裏面ニ配付ノ年月日ヲ記入シ郡區役所ノ印ヲ捺シ上納正副書用紙ノ裏面ニハ郡區役所ノ印ノミヲ捺シテ之ヲ納入ヘ交付ス

第五十五條 郡區長ハ前條ノ場合ニ於テ金庫ヨリ順序第八十三條ニ據リ送付シタル上納副書ヲ受クルトキハ之ヲ徵收監査簿ニ照合シ納濟ノ記入ヲナス

第五十六條 郡區長ハ順序第五十四條ノ場合ニ於テ納金ヲ領收シタル金庫ヨリ送付シタル上納副書ヲ取纏メ主管廳ノ定メタル期節ニ之ヲ主管廳ヘ送付ス

第三章 戶長役場

第十一類 租稅貨紙幣公債區町村費

第五十七條 戶長ハ郡區長ヨリ徵稅令書ヲ以テ町村ノ税金取纏メヲ命セラレタルハ規則第二十條ニ據リ概テ附記ノ  
 雖形ニ準シ徵稅傳令書ヲ製シ納稅者ニ配付シ納稅者ヲシテ現金ニ徵稅傳令書ヲ添ヘ戶長役場ニ納付セシム  
 第五十八條 戶長ハ各納稅者ヨリ税金ヲ領收スルハ徵稅傳令書ニ接續シタル税金領收證明紙ニ金員及領收ノ年月日  
 ヲ記入シ姓名ノ下ニ捺印シ傳令書ト領收書ト接續ノ處ヘ割印シテ之ヲ切斷シ傳令書ヲ役場ニ留メ領收書ヲ納稅者ニ  
 交付ス  
 第五十九條 納期末日前ニ於テ税金ノ内納ヲナサンコトヲ請フモノアルハ徵稅傳令書ニ内納ノ金額并ニ其領收年月日  
 ヲ記入シ捺印シテ納稅者ニ交付シ完納ニ至リ前條ノ手續ヲナス但戶長ニ於テ内納金ヲ領收スル毎ニ別ニ領收證明書ヲ  
 發スルヲ便トスルハ別ニ假領收證明書ヲ交付シ完納ノ際前條ノ手續ヲナシテ假領收證明書ト交換ス  
 第六十條 戶長ハ規則第二十四條ニ據リ取纏メタル税金ヲ納付スルトキハ郡區長ヨリ受タル徵稅令書ニ接續シタル上  
 納書用紙ニ第一號書式第一例ノ如ク金員年月日ヲ記入シ記名捺印シテ徵稅令書ト共ニ之ヲ現金ニ添ヘ金庫ヘ納付ス  
 第六十一條 戶長ハ其取纏メタル税金未ク徵稅令書ノ金額ニ滿サルカ爲メ内納ヲナサントスルハ第三號書式ノ分納  
 書ニ式ノ如ク所屬年度科目所屬年納期ノ數回ナル其受ケタル徵稅令書ニ記載シタル如ク記入シ之ニ内納ノ金額  
 及納付年月日ヲ記入シ記名捺印シテ現金并ニ徵稅令書ト共ニ之ヲ納書用紙ハ白文ノ儘ト共ニ之ヲ金庫ヘ納付ス  
 第六十二條 前條分納ノ場合ニハ徵稅令書ニ記載シタル納金ノ全額ニ滿ルマテハ前條ノ手續ニヨリ最後完納ノ時ニ至  
 レハ分納書ヲ用ヒ第一號書式第二例ノ如ク徵稅令書ニ接續シタル上納書ニ其納金額年月日等ヲ記入シ記名捺印シ  
 テ徵稅令書ト共ニ之ヲ現金ニ添ヘ金庫ヘ納付ス  
 第六十三條 戶長ニ於テ税金ヲ分納シタル後納期末日ニ至リ徵稅令書ノ金額ヲ完納スル能ハサルハ徵稅令書ニ接續  
 シタル上納書用紙ノ上納文ヲ朱書ヲ以テ第一號書式第三例ノ如ク改記シ不納報告書トナシ不納金額及年月日ヲ記入  
 シ記名捺印シテ之ヲ徵稅令書ニ金庫ニ送付ス  
 第六十四條 前條ノ不納報告ヲナシタル後不納處分中戶長ニ於テ税金ノ上納ヲ取扱フコトキハ順序第六十一條ノ  
 如ク第三號書式ノ分納書ヲ以テ換ニ金庫ヨリ返付セラレタル徵稅令書ト共ニ現金ヲ金庫ニ納付ス

第六十五條 戶長ハ郡區長ヨリ各納稅者ニ對シテ發シタル徵稅令書ヲ交付セラレタルトキハ直ニ之ヲ各納稅者ニ配付  
 ス  
 第六十六條 戶長ハ前條ノ場合ニ於テ順序第三十九條ニ據リ郡區長ヨリ税金ノ取纏メヲ命セラレタルトキハ納稅者ヨ  
 リ税金ヲ領收シ之ニ對シテ假領收證明書ヲ發付シ其持參シタル徵稅令書並ニ之ニ接續シタル上納書ヲ預ル  
 第六十七條 戶長ハ前條領收シタル税金ヲ其預リタル徵稅令書上納書ト共ニ金庫ニ納付ス  
 第六十八條 戶長ハ金庫ヨリ領收ヲ證シタル徵稅令書ノ還付ヲ受ルトキハ之ヲ各記名ノ納稅者ニ交付シ發付シ  
 タル假領收證明書ト交換ス  
 第六十九條 成規又ハ納稅者ノ望ニ據リ徵稅令書發付ニ先チ税金ヲ納ムル場合ニ於テハ戶長ハ其預リ證書ヲ納稅者  
 ニ交付シ郡區長ニ報告シテ徵稅令書ノ發付ヲ請求ス  
 第七十條 前條ノ場合ニ於テハ戶長ハ徵稅令書ヲ受ケタルトキ納稅者ヲシテ上納書用紙ニ年月日ヲ記入シ記名捺印セ  
 シメ數ニ預リタル現金ト共ニ金庫ニ納付シ徵稅令書ニ領收ノ證ヲ受ケ之ヲ納稅者ニ交付シテ預リ證書ト交換ス但戶  
 長ニ對シテ發シタル徵稅令書ヲ受ルハ其傳令書ヲ發セス戶長ヨリ領收證明書ヲ發シテ預リ證書ト交換ス  
 第七十一條 戶長ニ於テ既納ノ税金下戻ヲ要スルトキハ事由ヲ具シテ之ヲ郡區長ニ請求ス  
 第七十二條 戶長ハ郡區長ヨリ税金ノ拂戻證ヲ交付セラレタルトキハ其領收證明書郡區役所ヘ發送シ金庫ニ於テ現金ヲ  
 受取リ之ヲ配付ス  
 第四章 金庫  
 第七十三條 納人ヨリ現金ヲ上納書ニ添ヘ徵稅令書若クハ納預告知書ト共ニ納付スルトキハ金庫ハ其令書若クハ告知  
 書ニ規則第二十九條ニ據リ書式ノ如ク領收ノ年月日ヲ記入シ金庫ノ印ヲ捺シ上納書ト接續ノ處ヘ割印ノ後之ヲ切斷  
 シ其令書若クハ告知書ハ之ヲ納人ヘ還付ス  
 第七十四條 金庫ハ前條ノ手續ヲナシタル後正副上納書ニ書式ノ如ク納期ノ年月日ヲ記入シ金庫ノ印ヲ捺シ正書ニハ  
 納期年月日ノ傍ニ取扱主任者ノ印ヲ捺シ正副書接續ノ處ヘ割印レテ之ヲ切斷シ正書ニ據リテ帳簿ニ記入シ副書ハ規

則第六十八條ニ據リ即日前條ノ令書若クハ告知書ヲ發シタル處ヘ送付ス

第七十五條 戶長ヨリ税金ノ内納ヲナス爲メニ分納書ヲ添テ現金ヲ納付スルトキハ金庫ハ徵稅令書ノ裏面ニ第一號書式第二例ノ如ク内納ノ金額年月日ヲ記入シ捺印シタル上之ヲ戶長ニ還付ス

第七十六條 金庫ハ前條ノ手續ヲナシタル後ハ分納書ニ書式ノ如ク納濟ノ年月日ヲ記入シ金庫ノ印ヲ捺シ正副捺印ノ處ニ割印シテ之ヲ切斷シ副書ハ即日其徵稅令書ヲ發シタル郡區役所ヘ送付シ正書ニヨリテ帳簿ニ記入ス

第七十七條 戶長ヨリ税金ノ分納ヲナシタル未完納ニ至ルトキハ金庫ハ第一號書式第二例ノ如ク徵稅令書裏面ニ記載シタル領收濟ノ金額ヲ合計シテ之ヲ表面ニ移記シ其次行ニ最後領收ノ金額年月日ヲ記入シ金庫ノ印ヲ捺シ上納書ト捺印ノ處ヘ割印シテ之ヲ切斷シ該徵稅令書ハ之ヲ戶長ニ還付ス

第七十八條 戶長ヨリ税金ノ分納ヲナシタル未徵稅令書ノ金額ヲ完納シ雖キトキ其旨ヲ報告シ來ルトキハ金庫ハ第一號書式第三例ノ如ク徵稅令書裏面ニ記シタル領收濟ノ金額ヲ合計シテ之ヲ表面ニ移記シ其次行ニ未書ヲ以テ不納金額ヲ記載シ金庫ノ印ヲ捺シ不納報告書ト捺印ノ處ヘ割印シテ之ヲ切斷シ該徵稅令書ハ之ヲ戶長ニ還付ス

第七十九條 金庫ハ前條ノ手續ヲナシタル後不納報告書正副書捺印ノ處ヘ割印シテ之ヲ切斷シ副書ハ即日其徵稅令書ヲ發シタル郡區役所ヘ送付ス

第八十條 不納處分中上納ノ税金ヲ戶長ヨリ納付シ來ルトキハ金庫ハ第一號書式第三例ノ末ニアル雛形ニ據リ領收證箋ヲ製シ領收ノ金額年月日ヲ記入シ金庫ノ印ヲ捺シ徵稅令書ノ下端ニ書式ノ如ク貼付シ契印ヲ捺シテ之ヲ戶長ニ還付ス幾回ニモ右ノ如キ收納アルトキハ都テ領收證箋ヲ徵稅令書ノ下端ニ并貼シ餘地ナキニ至レハ徵稅令書裏面ノ餘白ニ貼付ス

第八十一條 前條ノ手續ヲ終ル後分納書取扱ノ手續キハ第七十六條ニ同シ

第八十二條 金庫ハ現金取扱ノ主任官ヨリ現金ノ納付ヲ受ルトキ規則第二十九條但書ニ據リ第五號書式ノ如ク納付書ノ正書ニ領收ノ年月日ヲ記入シ副書ニハ納濟ノ年月日ヲ記入シ共ニ金庫ノ印ヲ捺シ正副書捺印ノ處ヘ割印シテ之ヲ

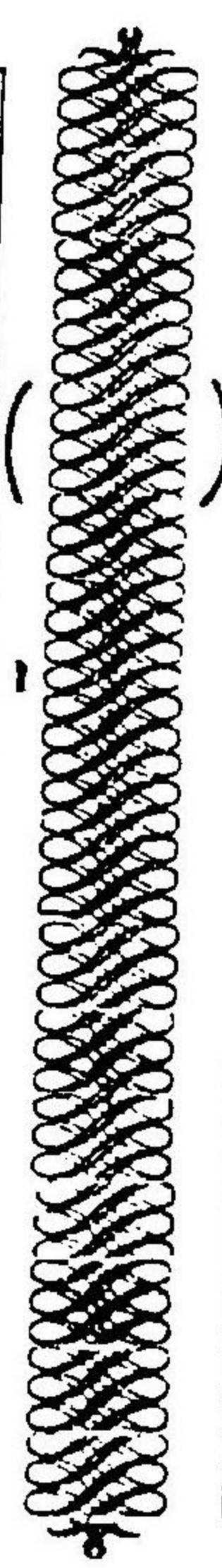
切斷シテ正書ハ之ヲ納付人ヘ還付シ副書ニハ金庫印ノ傍ニ取扱主任者ノ印ヲ捺シ之ニ據リテ帳簿ニ記入ス

第八十三條 順序第十九條若クハ第五十四條ノ納額告知書ト共ニ現金ヲ領收シタル場合ニ於テハ金庫ハ順序第七十三條第七十四條ノ手續キニ據リテ之ヲ取扱ヒ其上納副書ハ該告知書ヲ配付シタル處ヘ送付ス

徵稅傳令書雛形

(寸法用紙適宜)

第何號	何ノ誰	納	
一金何圓何錢			
明治何年第何期分地租			
右明治何年何月何日限リ上納			
年	月	日	戶長何ノ誰印



一金何圓何錢	地租
右正ニ領收候也	
年 月 日	戸長何ノ誰印
	何ノ誰殿

○歳出取扱順序ヲ定ム 十九年三月十八日 大蔵省令第五號

閣令第三號歳入歳出納規則第八十三條ニ據リ歳出取扱順序別冊ノ通之ヲ定ム

別冊

歳出取扱順序

第一章 各廳普通ノ經費

- 第一條 主管廳ノ收支命令官ハ規則第三十七條ニ據リ毎年逢セラレタル豫算額ニ基キ經費ノ支出月額ヲ定メ仕拂場所ヲ區別シ第八號書式ニ據リ仕譯書ヲ製シテ之ヲ大蔵省ヘ送付ス
- 第二條 大蔵大臣ノ承認ヲ得タル支出仕譯書中ニ於テ規則第三十八條ニ據リ月額又ハ仕拂場所ヲ改訂セントスルトキハ第九號書式ニヨリ訂正仕譯書ヲ製シテ之ヲ大蔵省ヘ送付ス
- 第三條 支出期節ノ豫定シ難キモノニシテ其期節并ニ仕拂場所ノ定マルトキハ第十號書式ニ據リ追仕譯書ヲ製シテ規則第三十九條ニヨリ之ヲ大蔵省ヘ送付ス
- 第四條 各廳ニ於テ經費ノ支出ヲ要スル毎ニ會計主務官又ハ其代理官ハ支出スヘキ金額由ヲ具シテ收支命令官又ハ

分任收支命令官ノ裁可ヲ請フ

- 第五條 會計主務官又ハ其代理官ハ前條ノ裁可ヲ得タルトキハ第十一號書式ニヨリ仕拂切符元帳ニ金員由ヲ記載シ仕拂切符ニ番號金員 要用ナレハ貨 仕拂場所受取人姓名切符發行ノ年月日等ヲ記入シ記名捺印シ案内書ニハ番號所屬年度科目金員 要用ナレハ貨 受取人姓名切符發行ノ年月日ヲ記入シ記名捺印シ元帳仕拂切符案内書ト接續ノ所ヘ割印シ之ヲ切斷シ案内書ハ金庫ヘ送付シ仕拂切符ハ受取人ニ交付シテ其領收證ヲ徴ス
- 第六條 會計主務官又ハ其代理官ノ在勤セサル地ノ金庫ニ宛テ仕拂切符ヲ發行セントスルトキハ仕譯書ヲ以テ承認ヲ得タル地方ナレハ會計主務官又ハ其代理官ハ前條ノ手續ニヨリ其地ノ金庫ニ宛テ仕拂切符ヲ製シ同時ニ案内書ヲ該金庫ヘ送付シ仕拂切符ハ之ヲ受取人ヘ送付シテ其領收證ヲ徴ス
- 第七條 規則第五十八條ニ據リ會計主務官又ハ其代理官ノ在勤セサル地方ニ經費金ヲ送付セントスルトキハ仕譯書ヲ以テ豫メ承認ヲ得難キ場合ニ於テハ會計主務官又ハ其代理官ハ仕譯書ヲ以テ承認ヲ得タル地ノ金庫ニ宛テ仕拂切符ヲ發行シ切符ノ裏面ニ受取人ノ住所姓名并ニ現金ノ送送ヲ請求スル旨ヲ記載シテ該金庫ヘ送付ス
- 第八條 會計主務官又ハ其代理官ハ前條ノ請求ヲナシ金庫ヨリ送金ノ手形ヲ交付セラレタルトキハ之ヲ以テ受取人ヘ送付シ其領收證ヲ徴ス
- 第九條 會計主務官又ハ其代理官ハ順序第六條第七條第八條ノ手續キニ據リ仕拂切符ヲ發行スルトキハ仕拂切符元帳ニヨリ帳簿ニ登記ス
- 第十條 金庫ヨリ仕拂切符ノ書式等成規ノ如クアラサルカ又ハ案内書ト符合セサルカアルカヲ通知スルハ該切符ヲ發シタル會計主務官又ハ其代理官ハ其理由ヲ審査シ該切符若シ證書ノ効力ヲ失ナフニ至ラサル場合アルカ又ハ案内書ノ誤謬ナレハ其切符ノ正當ナル保證金ヲ金庫ヘ送付シテ仕拂ヲ請求シ該切符若シ證書ノ効力ヲ有シ難キ場合ニ於テハ其旨ヲ金庫ニ報シテ仕拂切符ヲ持參人ヘ返付セントシテ請求シ其偽造變造等ニ係ルトキハ法ニ據リテ取扱ハシム
- 第十一條 前條金庫ヨリ受取人ニ仕拂切符ヲ返付シタル場合ニ於テ其所有者ヨリ該仕拂切符ノ書換ヲ請求スルトキハ

第十一類 租稅貨紙幣公債 區町村費

會計主務官又ハ其代理官ハ書換ヲナスヘキ正當ノ理由アリト見認ルトキハ收支命令官又ハ分任收支命令官ノ裁可ヲ請ヒ更ニ仕拂切符ヲ製シテ舊仕拂切符ト交換ス

第十二條 仕拂期限ヲ經過シタル仕拂切符ノ書換ヲ請求セラルヘトキハ會計主務官又ハ其代理官ハ收支命令官又ハ分任收支命令官ノ裁可ヲ請ヒ更ニ仕拂切符ヲ製シテ舊仕拂切符ト交換ス

第十三條 會計ノ整理期限内ニ於テ仕拂切符ノ書換ヲナストキハ仕拂切符簿ハ大藏省ヨリ交付シタル仕拂切符元帳仕拂切符及案内書ノ用紙ニ於テ通常仕拂切符發行ノ手續キニヨリ仕拂切符并ニ案内書ヲ製シ元帳ニハ朱書ヲ以テ金額事由等ヲ記入シ割印シテ之ヲ切斷ス但金額ノ更正ヲ要スル場合ニ於テハ本文ノ手續ニ據ラス

第十四條 會計ノ整理期限ヲ經過シテ仕拂切符ノ書換ヲナストキハ過年度支出トシテ更ニ通常ノ手續ニヨリ仕拂切符ヲ發行ス

第十五條 會計主務官又ハ其代理官ハ順序第十二條第十三條ニヨリ仕拂切符ヲ再發シテ交換シタルトキハ舊仕拂切符ニ消印ヲナシ收支命令官又ハ分任收支命令官ニ之ヲ證明ス

第十六條 會計主務官又ハ其代理官ハ會計ノ整理期限前ニ於テ過渡金ノ追徴ヲナストキハ第十六號書式ニヨリ返納告知書ニ番號金員事由納期日返納場所返納人ノ姓名年月日ヲ記入シ記名捺印シ返納元帳ニハ番號金員事由納期日返納人ノ姓名告知書發付ノ月日ヲ記入シ元帳ト告知書ト接續ノ處ヘ割印ヲナシ切斷シテ之ヲ返納人ヘ交付シ返納人ヨリテ返納告知書ニ現金ヲ添テ金庫ヘ納付セシム

第十七條 會計主務官又ハ其代理官ハ會計ノ整理期限後ニ於テ過渡金ノ追徴ヲナストキハ撥入ヲ徵收スルト同一ノ手續ニヨリ納額告知書ヲ發シテ之ヲ返納人ヘ交付シ返納人ヨリテ通常ノ撥入ト同一ノ手續ニヨリ現金ヲ金庫ヘ納付セシム

第十八條 會計主務官又ハ其代理官ハ金庫ヨリ返納ノ通知ヲ得タルトキハ返納元帳ニ返納額ノ記入ヲナス

第十九條 主管廳ノ收支命令官ハ規則第五十一條ニヨリ送金ヲ請求セントスルトキハ第十二號書式ニ據リ送金請求書ヲ製シテ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第二十條 前條ノ請求ニヨリ經費金ノ送付ヲ受タル出納主任官ハ即時第十三號書式ニヨリ其領收證書ヲ製シテ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第二十一條 前條ノ出納主任官ハ該經費金ノ支出ヲ要スルトキハ收支命令官又ハ分任收支命令官ノ裁可ヲ請フテ之ヲ支出ス

第二十二條 主管廳ノ收支命令官ハ規則第五十五條ニヨリ經費金ヲ受取ントスルトキハ第十四號書式ニヨリ請求書ヲ製シテ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第二十三條 前條ノ請求ニ因リ經費金ノ交付ヲ受ケタル出納主任官ハ即時第十三號書式ニヨリ其領收證書ヲ製シテ之ヲ金庫ヘ送付ス

第二十四條 前條ノ出納主任官ハ其交付セラレタル現金ノ支出ヲ要スルトキハ該經費金ノ收支命令官又ハ分任收支命令官ノ裁可ヲ請フテ之ヲ支出ス

第二十五條 規則第三十六條ニ據リ現金ヲ受取ントスルトキハ主管廳ノ收支命令官ハ第十四號書式ニ準シ請求書ヲ製シ事由ヲ具シテ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第二十六條 前條ニ因リ現金ノ交付ヲ受ケタルトキハ出納主任官取扱ノ手續キハ總テ第二十三條第二十四條ニ進ス

第二十七條 規則第五十七條ニ據リ支拂ヲ請求セントスルトキハ主管廳ノ收支命令官ハ第十五號書式ニ據リ請求書ヲ製シテ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第二十八條 前條請求ノ承認ヲ得タルトキハ收支命令官ハ通常支出ノ手續キニ據リ會計主務官ヲシテ仕拂ヲ執行セシム

第二十九條 現金ヲ出納スル所ノ出納主任官ハ撥入撥出ノ現金ヲ合セテ取扱ヒタルトキハ第二十二號甲書式ニ據リ撥出ノ取扱タルトキハ第二十二號丙書式ニ據リ報告書ヲ製シ規則第七十五條ニ據リ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第三十條 規則第三十五條第一項第七項ニ屬スル經費金ヲ取扱ヒタル出納主任官ハ毎年度支出ノ後殘金アルトキハ之ヲ監守シ大藏省ノ指揮ニ從テ之ヲ處分ス

第十一類 租稅貨紙幣公債區町村費

第三十一條 收支命令官ハ毎月支出ヲ裁可シタル調書ニ基キ規則第七十一條ニ據リ第二十一號書式ノ提出報告書ヲ製シテ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第三十二條 分任收支命令官ハ毎月支出ヲ裁可シタル調書ニ基キ規則第七十二條若クハ第七十三條ニ據リ第二十一號書式ノ提出報告書ヲ製シテ之ヲ主管廳ヘ送付ス

第三十三條 主管廳ノ收支命令官ハ前條ノ報告書ヲ受クルトキハ査問ノ後之レニ記名捺印シ規則第七十四條ニ據リ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第三十四條 收支命令官ハ會計年度内ニ於テ其仕拂ノヘキ提出ノ支出ヲ完了セサルモノアルトキハ規則第七十七條ニ據リ第二十四號書式ノ會計年度内提出未済報告書ヲ製シテ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第三十五條 收支命令官ハ會計ノ整理期限内ニ於テ其仕拂ノヘキ提出ノ支出ヲ完了セサルモノアルトキハ規則第七十八條ニ據リ第二十四號書式ノ會計整理期限内提出未済報告書ヲ製シテ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第三十六條 會計主務官ハ會計ノ整理期限マテニ概算ヲ以テ支出シタル經費ノ精算未済ノモノアルトキハ規則第八十條ニ據リ第二十五號書式ノ精算未済報告書ヲ製シテ之ヲ大藏省及會計檢査院ヘ送付ス

第三十七條 收支命令官ハ大藏省ヘ提出ノ報告ヲ送付シタル後金額ヲ改メテ再度仕拂切符ヲ發行セシメタルトキ又ハ會計ノ整理期限ヲ過キ仕拂切符ヲ再發シ之ヲ交換セシメタルトキハ既ニ發送シタル提出報告中其事項ノ取消書ヲ毎月ノ提出報告書ト共ニ大藏省ヘ送付ス

第三十八條 收支命令官ハ出納閉鎖ノ期ヲ過キテ仕拂切符ノ仕拂請求アキ報告ヲ金庫ヨリ受タルトキハ十五日以内ニ前年度ノ提出報告中其事項ノ取消書ヲ大藏省ヘ送付ス

第二章 各省所管ノ府縣費

第三十九條 府知事縣令ハ經費所管廳ノ長官ヨリ費額ノ令達ヲ受ルトキハ順序第一條ノ手續ニ據リ仕譯書ヲ製シテ之ヲ經費所管ノ廳ヘ送付ス

第四十條 規則第三十八條第三十九條ノ場合ニ於テハ順序第二條又ハ第三條ノ手續ニ據リ訂正仕譯書又ハ追仕譯書ヲ經費所管ノ廳ヘ送付ス

ヲ經費所管ノ廳ヘ送付ス

第四十一條 經費所管廳ノ長官ハ前二條ノ仕譯書ヲ受ルトキハ査問ノ後捺印シテ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第四十二條 府知事縣令ハ毎月支出ヲ裁可シタル調書ニ基キ規則第七十一條ニ據リ第二十一號書式ノ提出報告書ヲ製シテ之ヲ經費所管ノ廳ヘ送付ス

第四十三條 府知事縣令ハ分任收支命令官ヨリ順序第三十二條ノ提出報告ヲ受クルトキハ査問ノ後之レニ記名捺印シテ經費所管ノ廳ヘ送付ス

第四十四條 經費所管廳ノ長官ハ前二條ノ報告書ヲ受クルトキハ査問ノ後捺印シテ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第四十五條 順序第三十四條第三十五條ニ屬スル報告書及順序第三十七條第三十八條ノ取消書ハ府知事縣令ヨリ其經費所管廳ヘ送付ス

第四十六條 經費所管廳ノ長官ハ前條ノ報告書又ハ取消書ヲ受タルトキハ査問ノ後捺印シテ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第四十七條 府縣ノ會計主務官ハ順序第三十六條ノ手續キニヨリ精算未済報告書ヲ大藏省及會計檢査院ヘ送付スルトキハ同時ニ副書一通ヲ經費所管ノ廳ヘ送付ス

第四十八條 府知事縣令ハ規則第三十六條ニヨリ現金ヲ受取ントスルトキハ第十四號書式ニ準シ事由ヲ具シテ之ヲ經費所管ノ廳ニ請求ス

第四十九條 經費所管廳ノ長官ハ前條ノ請求ヲ受ルトキハ之ヲ査問シ至當ノ請求ニシテ規則第三十六條ニ適合スルモノト見認ルトキハ請求書ホニ其旨ヲ副書シテ大藏省ニ請求ス

第五十條 府知事縣令ハ神社事務ノ經費ノ豫算定額ヲ十二分シ毎月順序第五條ノ手續キニヨリ會計主務官ヲシテ仕拂切符ヲ發シテ之ヲ受取人ヘ交付セシム

第五十一條 前條ニヨリ仕拂ヲ執行シ難キモノアルトキハ府知事縣令ハ事由ヲ具シ該經費所管ノ廳ニ特別ノ處分ヲ請求ス

第十一類 租稅貨紙幣公債區町村費

第五十二條 神社費所管ノ廳ハ前條ノ請求ヲ受ルトキハ其當否ヲ審査シ請求ノ至當ナルモノハ更ニ之ヲ大藏省ニ請求ス  
第五十三條 本章各條ニ懸擧シタル手續キノ外ハ總テ第四條ヨリ第二十一條マテ第二十六條ヨリ第三十條マテノ手續  
キニヨル

第三章 國債

第五十四條 國債元金償還ノ當籤ヲ大藏省ヨリ公布スルトキハ北海道廳長官府知事縣令ハ第八號書式ニ準シ其管内ニ  
於テ仕拂フヘキ金額ヲ定メ仕拂場所ノ仕譯書ヲ製シテ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第五十五條 國債利子及賦金ノ定期仕拂ニ係ルモノハ規則第六十條ニ據リ其支出額ヲ豫定シテ大藏省ヨリ北海道廳長  
官府知事縣令ニ達ス

第五十六條 北海道廳長官府知事縣令ハ前條ノ令達ヲ受クルトキハ第八號書式ニ準シ仕拂場所ノ仕譯書ヲ製シテ之レ  
ヲ大藏省ヘ送付ス

第五十七條 北海道廳長官府知事縣令ハ大藏省ヨリ順序第五十四條第五十六條ノ仕譯書ニ據リ仕拂ノ令達ヲ受クルト  
キハ其仕拂ヲ會計主務官ニ命ス但支應ニ於テ支出ヲ要スルモノアルトキハ其支出ヲナスヘキ旨ヲ支應ノ分任收支命  
令官ニ達ス

第五十八條 支應ノ分任收支命令官ハ北海道廳長官府知事縣令ヨリ前條ノ令達ヲ受ルトキハ其仕拂ヲ會計主務官又ハ  
其代理官ニ命ス

第五十九條 會計主務官又ハ其代理官ハ順序第五十七條若クハ第五十八條ノ命令ヲ受クルトキハ順序第五條ノ手續キ  
ニヨリ仕拂ヲ執行ス

第六十條 仕譯書ニ據リ大藏省ノ令達ヲ得タルヲ以テ會計主務官又ハ其代理官ノ在勤セサル地方ノ金庫ニ宛テ前條ノ  
仕拂切符ヲ發スルトキハ該地方ノ郡區役所ニ仕拂切符ヲ送付シテ之ヲ受取人ニ交付セシメ同時ニ案内書ヲ該金庫ヘ  
送付ス

第六十一條 國債元金ヲ償還スルトキハ公債證書ニ對シテ仕拂切符ヲ交付シ利子ノ仕拂ヲナストキハ利札ニ對シテ仕

拂切符ヲ交付シ賦金ノ支拂ヲナストキハ賦札ニ對シテ仕拂切符ヲ交付ス但記名公債證書及利札賦札ノ亡失等ニ罹リ  
定期ヲ過キテ元金利子若クハ賦金ヲ仕拂フトキハ其事由金預種類記號番號等ヲ詳記シタル領收證書ヲ徴シテ仕拂切  
符ヲ交付ス

第六十二條 國債元金利子若クハ賦金ノ仕拂願事故解融又ハ調査期限後轉入ノ爲メ大藏省ヨリ令達シタル金額ニ超過  
スルトキ及事故解融ノ爲メ會計ノ整理期限後ニ於テ元金利子若クハ賦金ノ仕拂ヲ請求スルモノアルトキハ北海道廳  
長官府知事縣令ハ其事由ヲ具シ支出ノ請求書從來ノ書式ニ據ルヲ製シテ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第六十三條 大藏省ハ前條ノ請求ヲ受ルトキハ之ヲ審査シ其仕拂ヲ達ス

第六十四條 北海道廳長官府知事縣令ハ前條ノ令達ヲ受ルトキハ第五十七條ヨリ第六十一條マテノ手續ニ據リ仕拂ヲ  
執行セシム

第六十五條 起業公債金札引換無記名公債中仙道鐵道公債外國公債ノ元利金ハ規則第六十條ニ據リ其支出額ヲ定メテ  
大藏省ヨリ各其取扱銀行ヘ現金ヲ交付シ其仕拂ヲ執行セシム

第六十六條 本章各條ニ懸擧スルモノノ外ハ總テ第十條ヨリ第十六條マテ第三十一條ヨリ第三十五條マテ及第三十七  
條第三十八條ノ手續キニ據ル

第四章 年金恩給諸條

第六十七條 北海道廳長官府知事縣令ハ年金恩給一時賜金ヲ除ク若クハ諸條ノ交付期節毎ニ其支出スヘキ金額及仕拂場所ヲ  
取調ヘ第八號書式ニ進シ其仕譯書ヲ製シ内譯明細書ヲ添付シ交付期月ノ三十日前ニ之ヲ大藏省ヘ發送ス

第六十八條 大藏省ハ前條仕譯書ニヨリ北海道廳長官府知事縣令二年年金恩給若クハ諸條ヲ交付スヘキ令達ヲナス

第六十九條 北海道廳長官府知事縣令ハ前條ノ令達ヲ受ルトキハ其仕拂ヲ會計主務官ニ命ス但支應ニ於テ支出ヲ要ス  
ルモノアルトキハ其支出ヲナスヘキ旨ヲ支應ノ分任收支命令官ニ達ス

第七十條 支應ノ分任收支命令官ハ北海道廳長官府知事縣令ヨリ前條ノ令達ヲ受クルトキハ其仕拂ヲ會計主務官又ハ

第十一類 租稅貨紙幣公債區町村費

其代理官ニ命ス

第七十一條 會計主務官又ハ其代理官ハ第六十九條若クハ第七十條ノ命令ヲ受クルトキハ第五條ノ手續ニヨリ仕拂ヲ執行ス

第七十二條 任譯書ニ據リ大藏省ノ令達ヲ得タルヲ以テ會計主務官又ハ其代理官ノ在勤セサル地方ノ金庫ニ宛テ前條ノ仕拂切符ヲ發スルトキハ案内書ヲ該金庫ヘ送付シ仕拂切符ヲ該地方ノ郡區役所ニ送付シテ之ヲ受取人ニ交付シ其額收證ヲ徴セシム

第七十三條 仕拂切符ヲ受取人ニ交付スルトキハ年金ノ仕拂切符ナレハ年金證ヲ檢閲シ恩給ノ仕拂切符ナレハ恩給證書及生存證書ヲ檢閲ス

第七十四條 恩給中一時賜金ハ其支出ヲ要スル毎ニ主管廳ノ收支命令官ヨリ第十五號書式ニ準シテ請求書ヲ製シ仕拂ノ場所ヲ記入シ本人ノ履歷書ヲ添付シ其支出ヲ大藏省ニ請求ス

第七十五條 大藏省ハ前條ノ請求ヲ受ルトキハ之ヲ審査シ其正當ナルトキハ即時承諾ノ旨ヲ通知ス

第七十六條 主管廳ノ收支命令官ハ前條ノ通知ヲ受クルトキハ其仕拂ヲ會計主務官ニ命ス

但支部局ニ於テ仕拂ヲ要スルモノハ其支拂ヲナスヘキ旨ヲ分任收支命令官ニ達ス

第七十七條 分任收支命令官ハ前條ノ令達ヲ受ルトキハ其仕拂ヲ會計主務官又ハ其代理官ニ命ス

第七十八條 會計主務官又ハ其代理官ハ順序第七十六條若クハ第七十七條ノ命令ヲ受ルトキハ第七十一條ノ手續キヲナス

第七十九條 年金ノ交付主管廳ハ出願期限後二年金支額者ノ奉職地ヲ轉シタルカ爲メ主管廳轉換願ヲ閉届ケタルトキハ其姓名新任地并ニ交付スヘキ金額ヲ詳記シ之ヲ大藏省及新主管廳ヘ報告ス

第八十條 大藏省ハ前條ノ報告ニヨリ新主管廳ニ該年金交付ノ令達ヲナス

第八十一條 新主管廳ハ前條ノ令達ヲ受ルトキハ第六十九條第七十條第七十一條ノ手續ヲナス

第八十二條 本章各條ニ應シテスルモノ、外ハ第十條ヨリ第十九條マテ第三十一條ヨリ第三十五條マテ及第三十七條第三十八條ノ手續キニ據ル

第五章 金庫 大藏省金庫局其出

第八十三條 金庫ハ仕拂切符ノ所有者ヨリ仕拂切符ヲ持參シテ現金ノ仕拂ヲ請求セラレタルトキハ即時之ヲ發シ其發行廳ヨリ送付ヲ受ケタル案内書ニ照合シ帳記ノ後直ニ仕拂切符表面ノ金額ヲ交付ス

第八十四條 金庫ハ前條ノ仕拂ヲ終ルトキハ即時引上タル仕拂切符及案内書ノ表面ニ仕拂済ノ印ヲ捺ス

第八十五條 金庫ニ於テ仕拂金ノ記帳ヲナスハ仕拂切符ニヨリ其所屬年度及科目ハ案内書ニ據テ判別ス

第八十六條 金庫ハ會計主務官又ハ其代理官ヨリ仕拂ノ案内書ヲ受ルトキ豫テ大藏省ヨリ命令セラレタル金額ニ超過スルトキハ即時其案内書ヲ返付シテ仕拂カタク旨ヲ通知ス

第八十七條 金庫ハ仕拂期限ヲ經過シタル仕拂切符ヲ以テ現金ノ仕拂ヲ請求セラルヘトキハ其仕拂ヲ謝絶シ仕拂切符ノ交換ヲ請求スヘキ旨ヲ該切符持參人ニ告ク

第八十八條 金庫ニ於テ仕拂ノ請求ヲ受クルトキハ規則第四十九條ニヨリ仕拂ヲナシ難シト見認ルトキハ該切符持參人ニ事由ヲ告ケ其在處姓名ヲ尋問シ該切符ノ金目番號記名者ノ姓名及ヒ預リ日限ヲ記載シタル預リ證書ヲ交付シテ其仕拂切符ヲ留置ク

第八十九條 金庫ハ前條ノ手續キニヨリ仕拂切符ノ留置ヲナストキハ即時其事由ヲ詳記シタル照會書ヲ該仕拂切符ニ記名ノ會計主務官又ハ其代理官ヘ發ス

第九十條 金庫ハ前條照會ニヨリ會計主務官又ハ其代理官ヨリ該切符ノ正當ナルヲ保證シ仕拂ヲ請求セラレタルトキハ直ニ之カ仕拂ヲナシ若シ該切符ヲ其持參人ニ返付セシムヲ請求セラレタルトキハ前日交付シタル預リ證書ニ引換ヘ之ヲ還付ス

第九十一條 仕拂切符ノ仕拂期限ヲ經過シテ尚仕拂ノ請求ナキトキハ金庫ハ豫テ受入レタル案内書ヲ一ヶ月三回ニ取

第十一類 租稅貨紙幣公債區町村費



經メ其送付シタル廳へ還付ス但會計主務官又ハ其代理官ノ請求アルトキハ其都府案内書ヲ送付ス  
 第九十二條 金庫ハ已ニ仕拂タル現金ノ返納ヲ受クルトキハ返納告知書ニ接續シタル領收證書用紙ニ第十六號書式ノ  
 如ク領收金額年月日等ヲ記入シ記名捺印シ返納告知書ト接續ノ處へ刺印シ之ヲ切斷シテ領收證書ハ返納人へ交付ス  
 第九十三條 金庫ハ前條ノ手續ヲナシタル後返納告知書ノ裏面ニ領收ノ年月日ヲ記入シ金庫印并ニ取扱主任者ノ印ヲ  
 捺シ記帳ノ上毎日取纏メ翌日迄ニ該返納告知書ヲ發シタル會計主務官又ハ其代理官へ送付ス  
 ○郡區役所戸長役場租稅徵收ニ關スル帳簿式ヲ定ム 十九年四月六日 大藏省令第十四號北海道廳府廳  
 郡區役所戸長役場租稅徵收ニ關スル帳簿式別冊ノ通之ヲ定メ明治十七年當省第六十三號達諸帳簿式ハ自今廢止ス  
 但帳簿式ハ別ニ之ヲ送付ス(別冊略ス)

○科料罰金徵收及民事刑事一時預リ金取扱方ヲ定ム 十九年四月七日 司法省令丙第一號大審院裁判所  
 十九年度以降科料罰金徵收及民事刑事一時預リ金取扱方左ノ通相定ム

一科料罰金ハ檢事ノ命令ニ據リ各納人直ニ國庫金取扱所若クハ現金仕拂所へ預ケスレ其預リ書ヲ以テ書記局へ上納  
 セシメ書記局取扱主任ハ開令第三號放入取出納規則第二十七條ニ據リ納付書 大藏省令第三  
 國庫金取扱所若クハ現金仕拂所へ納付シ其領收ヲ證シタル納付書ヲ以テ會計主務官へ送付報告ス會計主務官ハ大  
 藏省令第四號放入取扱順序第二十三條ニ據リ整理スルモノトス  
 一民事刑事其他一時預リ金ハ納人ヨリ現金仕拂所へ預ケスレ其預リ書ヲ以テ上納セシメ即日又ハ翌日マテニ現金仕  
 拂所へ納付シ管守證書ヲ發シ置ヘシ而シテ之ヲ拂戻ス時ハ會計主務官ヨリ振出ス支拂切符ヲ以テ支拂フ可シ  
 一前條ノ内所持金銀金等納人ヲシテ現金支拂所へ預ケスレ能ハサルモノハ合紙 書記會計現金  
 ヲ明記シ現金仕拂所へ之ヲ物品トシテ預ケスレ金預種類ヲ明記シタル預リ證書ヲ發シ置可シ而シテ之ヲ請戻ス時  
 ハ適宜ノ案内書ヲ發シ合紙者立會開封シ最前ノ預リ證書ト引換ニ授受スヘシ  
 但本條ノ封金大審院裁判所ニ於テハ之ヲ受寄金トシ帳簿ニ記載スヘシ

一前數條ニ於テ書記局元帳登記方法及會計課ト授受ノ手續ハ從前ノ通

○免許料手數料鑛山借區稅取扱順序ヲ定ム 十九年五月二十日(五月廿一日布告)  
 農商務省訓令第五號北海道廳府廳  
 當省所管免許料手數料鑛山借區稅取扱順序左ノ通相定メ明治十九年度ヨリ施行ス  
 但從前諸條ノ内此順序ニ抵觸スルモノハ廢止ス

免許料手數料鑛山借區稅取扱順序

- 第一條 免許料手數料鑛山借區稅ハ北海道廳府廳ニ於テ之ヲ徵收スルモノトス但取扱順序ハ明治十九年三 大藏省令  
 第四號放入取扱順序ニ據ル
- 第二條 各半度ノ豫算ハ左ノ書式ニ據リ明細書ヲ調製シ前年度五月五日迄ニ其地ヲ發シ當省へ差出スヘシ
- 第三條 前條豫算ノ認可ヲ得タルトキハ放入取扱順序第十七號乙書式ニ據リ月額豫算表ヲ調製シ七日以内ニ之ヲ當省  
 へ差出スヘシ
- 第四條 收入金年度編入方ハ明治十七年十二 大藏省第九十號達ニ據ル
- 第五條 報告書ハ左ノ期日迄ニ其地ヲ發シ當省へ差出スヘシ

放入報告書 翌月五日  
 會計年度内徵收未済報告書 翌年度四月五日  
 出納閉鎖前不納報告書 翌年度十二月十日  
 (書式略ス)

○森林諸收入取扱順序ヲ定ム 十九年五月二十日(五月廿一日布告)  
 農商務省訓令第六號府廳  
 明治十八年七月當省第二十九號達ヲ廢シ更ニ森林諸收入取扱順序別冊ノ通相定メ明治十九年度ヨリ施行ス  
 但別冊ハ山林局ヨリ送付スヘシ(別冊略ス)

○歳入徵收ノ委託ヲ受ケ發付スル納額告知書及納付書ニ捺印方 十九年五月二十六日 大藏省訓令第十九號北海道廳府

第十一類 租稅貸紙幣公債區町村費

歳入取扱順序第十六條ニ據リ歳入徴收ノ委托ヲ受タル場合ニ於テハ其發付スル納領告知書及納付書ニ「其總主管」ノ印ヲ押捺セシムヘシ

○戸長ニ於テ税金分納ノ片徴稅令書ヲ亡失シタル場合ニ於テ取扱方 十九年八月四日  
大蔵省訓令第三十七號北  
海道廳日本  
銀行府縣

歳入取扱順序第六十一條ニ據リ戸長ニ於テ税金ヲ分納スルトキ事故アリテ徴稅令書ヲ亡失シタル場合ニ於テハ左ノ通取扱フヘシ

一 水火災盜難等ニ罹リ徴稅令書ヲ亡失シタルトキハ戸長ハ其事由ヲ具シテ郡區長ニ開申スヘシ

一 郡區長ハ前項ノ開申ヲ得ルトキハ未納殘額ヲ取調ヘ其殘額ノ徴稅令書ヲ發スヘシ

一 前項未納殘額ノ徴稅令書ハ金額ノ右側ニ左ノ如ク記載スヘシ

金何圓何錢ノ内未納殘

○官有地諸收入金徴收規程 十九年八月十四日 (内務大臣連署)  
農商務省訓令第十三號北海道廳府縣

明治十八年九月農商務省第三十九號達官有地諸收入金徴收規程相應シ更ニ左ノ通相定メ明治十九年度ヨリ施行ス

但本規程ハ從前期限中ノモノニモ總テ適用スルモノトス

官有地諸收入金徴收規程

第一條 年ヲ以テ定メタル借地料土石堀採料諸產物拂下代ノ如キハ總テ其年ノ七月ニ於テ徴收ス但七月一日以後新ニ許可シタルモノハ初年分ニ限リ翌年一月ニ於テ徴收シ六月三十日以前滿期トナルモノハ期明ノ月ニ於テ徴收ス

借地及土石堀採ノ一月ニ於テ許可シタルモノ及十二月ニ於テ滿期トナルモノハ全年分ヲ徴收シ二月以後許可シタルモノ及十一月以前滿期トナルモノハ月割ヲ以テ徴收ス

諸產物拂下代ハ許可ノ月ニ拘ハラズ總テ全年分ヲ徴收ス

第二條 月ヲ以テ定メタル借地料ノ如キハ總テ許可シタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ徴收ス

十五日以前新ニ許可シタルモノハ至月分ヲ徴收シ十六日以後ニ許可シタルモノハ半月分ヲ徴收ス

第三條 日ヲ以テ定メタル借地料ノ如キハ總テ許可シタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ徴收ス

第四條 臨時拂下代ハ總テ許可シタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ徴收ス

第五條 年ヲ以テ定メタル借地料又ハ土石堀採ヲ官ノ都合ニヨリ取消シタルトキハ其月ヨリ料金ヲ徴收セス

借地又ハ堀採ヲ人民ノ都合ニヨリ取消シタルトキハ其月ノ料金ハ之ヲ徴收ス

第六條 月ヲ以テ定メタル借地料又ハ土石堀採ヲ官ノ都合ニヨリ取消シタルトキハ其達ノ日十五日以前ナレハ其月ノ料金ヲ徴收セス

十六日以後ナレハ其月ノ料金半額ヲ徴收ス

借地ヲ人民ノ都合ニヨリ取消シタルトキハ其指令ノ日十五日以前ナレハ其月ノ料金半額ヲ徴收シ十六日以後ナレハ其月ノ料金全額ヲ徴收ス

第七條 日ヲ以テ定メタル借地ノ取消ハ官民孰レノ都合ニヨルモ其達又ハ指令ノ日ヨリ其料金ヲ徴收セス

第八條 年ヲ以テ定メタル諸產物ノ拂下ヲ取消シタルトキハ其達又ハ指令ノ日物品ノ採取前ナレハ其年ノ代金ヲ徴收

セス採取後ナレハ採取シタル物品ニ應シ其代金ヲ徴收ス

第九條 第五條以下ノ場合ニ於テ既納金アルトキハ其過金ヲ返付シ既納金ナキトキハ其達又ハ指令ノ日ヨリ三十日以内

ニ之ヲ徴收ス

第十條 外國人ヨリ徴收スルモノハ總テ其定約ニ據ル

第十一條 此規程ニヨリ徴收シタル料金又ハ代金ハ總テ其徴收シタル時ノ年度ニ編入ス

● 伺指令

第十一類 租稅貨紙幣公債區町村費

●徵稅令書紛失ノ節取扱上ノ件 京都府ヨリ大藏省ヘ伺 十九年四月十三日 (十九年四月廿七日官報)

徵稅令書金額ニ對シ數回分納ヲ爲シタル後其令書紛失又ハ燒失流失セントキ戶長於テハ更ニ郡區長ニ令書ノ再渡方ヲ請求シ而シテ完納ノ都合ヲ爲スヘキ結果シテ然ラハ其令書ノ裏面ニ郡區長ハ再製ノ事由ヲ記載シ前令書ノ番號ト同一ノ號ヲ付シ可然裁將又右再製ノ分ヲ戶長金庫ヘ持參シ裁キニ領收ノ證アリシ分ヲ更ニ記入証印方ヲ請ヒ可然哉

指令 十九年四月廿二日  
伺ノ通

但郡區長ハ令書再調事由取書ヲ了スルト同時ニ其旨金庫ニ通知スル備ト心得ヘシ

●在府縣獄囚徒費任拂方ノ件ニ付岡山縣ヨリ内務省ヘ伺 十九年五月四日 (十九年五月二十日官報)

一押送費ハ豫メ期定シ難キ支出ニシテ從來各警察署ニ於テ一時繰換仕拂置一箇月分ツ、取極メ該署ヨリ請求セシメ任拂候處今般放入獄出納規則執行ニ付該規則ニ據ルルハ各受取人ニ對シ支拂切符ヲ發シテ之ヲ交付スヘキモ隔地ニシテ其時々執行シ難キ無止儀ニ付從來ノ通繰換サセ其請求人即チ警察署長ニ對シ仕切切符ヲ交付シ可然哉

一囚徒在監諸費ノ儀セ地方費監獄費ニ混一ニ仕附フヘキモノニテ之ニ對スル受取人區分シ難キニ由リ規則第五十九條ニ據リ現金支拂ヲ費省ヘ請求スヘキ儀ニ候哉

指令 十九年五月十四日

一移轉費正當受取人ニ對シ仕切切符發行シ難キ分ハ警察署ヘ概算ヲ以テ交付スヘシ

一囚徒在監費ハ本年四月二十八日訓令但書ノ通

但十九年度以降ハ押送費ヲ移轉費囚徒在監費ト改ム

●徵稅令書并歲入報告表記載方ノ件ニ付山形縣ヨリ大藏省ヘ伺 十九年五月廿一日 (十九年六月十四日官報)

歳入取扱ニ關スル徵稅令書第二號書式(第何期分ト)ニ依レハ一箇年前後ノ兩期ニ徵收スル管轄稅ノ如キハ都テ第一期第二期(新規ニ係ル分ハ)分ト記載スル儀ナルヤ果シテ然ラハ歳入報告表ノ如キモ同様(新規ト係ルキノ)記載スヘキヤ又徵稅令書(所屬曆年何期)ノ何月何日限ノ分ト納期ヲ記載スル儀ナラハ歳入報告表七同様記載スヘキヤ

指令 十九年五月二十一日

徵稅令書ニ關スル件ハ一期二期隨時收入ノ三箇ニ區別スヘシ

●官有地諸收入金徵收方ノ儀ニ付東京府ヨリ内務農商務兩省ヘ伺 十九年八月廿四日 (十九年九月十六日官報)

本年農商務省訓令第十三號ヲ以テ官有地諸收入金徵收規程御改定明治十九年度ヨリ施行スヘキ旨御訓令相成候ニ付テハ昨十八年九月第三十九號御達第三條ニ據リ人民ノ都合ヲ以テ返地セシモノ其返地當月ノ地料ヲ徵收セサリシ分夥多有之候處今般ノ改定規程ニ據リ夫々溯リテ徵收セサルヲ得ス然ルニ右等ハ舊規程施行中其規程ニヨリ處分ヲ了セシモノニテ今更新規程ニヨリ追徵候ハ頗ル不穩當ナル感ナキ能ハス又已ニ處分酒ノモノ多人數ノ内ニハ日今際路不分明ノ者モ可有之實際處分困難ニ有之勞改定規程ノ儀ハ管下ヘ告達ノ時ヨリ施行候儀致度

追テ府下河岸地々料ノ儀ハ昨十八年十月六日付ヲ以內務省ヘ相伺候通從前ノ如ク月々收入取計度

指令 十九年九月十三日  
伺ノ通

第三十三 地券

●伺指令

●地券記入方ノ件ニ付山形縣ヨリ大藏省ヘ伺 十九年八月十二日 (十九年八月廿八日官報)

第十一類 租稅貨紙幣公債區町村費

一 荒地ノ券狀ハ單ニ荒地何程ト記載シ元地目ヲ記入セサル雖形ニ付全額ノ荒地或ハ券面ニテ元地目視ル能ハス故ニ取扱上不便ヲ極候ニ付爾後地券發替ノ都度地番號ノ下ヘ元地目朱記シ苦シカラスヤ

一 免租地ハ地租條例第四條ノ地目ニヨリ地券相認メ候ニ付アハ鄉村社地(鄉村社)墳墓地(墓地)火葬場(用窓水路)發水路(水路)濠溝(下水路)ノ如キ地番號ノ下ヘ現地ノ名稱ヲ朱記シ然ルヘキヤ

指令 十九年八月二十日

書面ノ趣意見ノ通取計苦シカラス

第三十四 北海道諸產物出港稅則並各港船改所規則改正 十八年十二月四日 第貳拾壹號布達

北海道諸產物出港稅則並各港船改所規則第二條中渡島國上磯郡石別千島國振別郡振別ノ兩船改派出所ヲ廢シ更ニ左ノ二箇所ヘ船改派出所ヲ設置ス

後志國久遠郡久遠

千島國紗那郡紗那

右布達候事

第三十五 酒造稅則附則改正 十九年八月二日布告 勅令第六十號

朕酒造稅則附則改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治十九年七月二十八日

內閣總理大臣伯爵伊藤博文  
大藏大臣伯爵松方正義

勅令第六十號

明治十五年<sup>十二</sup>第六十壹號布告酒造稅則附則左ノ如ク改正シ明治十九年十月一日ヨリ施行ス

酒造稅則附則

- 第一條 自家用料ノ酒類<sup>飲料ニ用ヒ醬油等ニ混和シ</sup>及<sup>其他ノ用ニ供スルモノ</sup>ヲ製造セント欲スル者ハ其旨管廳ヘ届出免許鑑札ヲ受ケ鑑札料金八拾錢ヲ納ム可シ
- 第二條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日マテヲ以テ一期トス
- 第三條 自家用料ノ清酒ヲ製造スルヲ得ス
- 第四條 左ニ掲クル者ハ自家用料ノ酒類ヲ製造スルヲ得ス
- 一 酒類受<sup>小</sup>賣營業者
  - 一 飲食店又ハ旅籠屋營業者
  - 一 前二項ノ營業者ト同居ノ者
- 第五條 自家用料ノ酒類ハ一家内ニ於テ一期製造高膏石<sup>二種以上製造スル者</sup>ハ其總石數ヲ合算スヲ超ユルヲ得ス
- 第六條 自家用料ノ酒類ハ其住居セル一家外ニ於テ之ヲ製造シ又ハ他ノ委託ヲ受ケ之ヲ製造スルヲ得ス

第七條 自家用料ノ爲メ製造シタル酒類ハ之ヲ賣捌クヲ得ス  
 第八條 免許鑑札ハ賣買讓與貸借スルヲ得ス  
 第九條 自家用料ノ酒類ヲ製造スル者ハ主任官隨時之ヲ検査スヘシ  
 第十條 第一條第三條第四條第五條第六條第七條ヲ犯シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其製造酒類及ヒ容器ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴ス  
 第十一條 第八條ニ違ヒ鑑札ヲ貸渡讓渡タル者ハ其鑑札ヲ取揚ケ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ之ヲ借受買受讓受ケテ酒類ヲ製造シタル者ハ第十條ニ依リ處分ス其未タ酒類ヲ製造セサル者ハ其罰鑑札ヲ貸渡賣渡讓渡タル者ニ同シ  
 第十二條 此規則ヲ犯シタル者ニハ本則第三十七條及ヒ第三十八條ヲ適用ス

○朝鮮國ニ於テ製造シテ輸入スル日本酒ニ海關稅ヲ徵收ス 十九年八月二日布告

勅令第六十一號

朕朝鮮國ニ於テ製造シテ我國ニ輸入スル日本酒ニ海關稅ヲ徵收スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治十九年七月二十八日

内閣總理大臣 伊藤博文  
 外務大臣 伯耆井上 馨  
 大藏大臣 伯耆松方正義

勅令第六十一號

朝鮮國ニ於テ製造シテ日本國ニ輸入スル日本酒類ニハ當分ノ内左ノ割合ヲ以テ海關稅ヲ徵收ス

釀造酒一石ニ付 金四圓  
 蒸溜酒一石ニ付 金五圓  
 再製酒一石ニ付 金六圓

○自家用料酒類製造者心得ヲ定ム 十九年八月二十四日 大藏省令第二十七號

勅令第六十號ニ基キ自家用料酒類製造者心得左ノ通之ヲ定ム

- 第一項 酒造稅則附則第一條ノ届書ニハ該期造酒ノ種目及製造見込石高ヲ記シテ差出ヘシ
- 第二項 前項届出ノ後造酒種目ノ變換及ヒ製造高ヲ増減スルトキハ其時々管廳ヘ届出ヘシ
- 第三項 免許鑑札ヲ受ケタル者ハ自家用料酒製造ノ標札ヲ戶外ニ掲出スヘシ
- 第四項 免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ改名代替轉居セシトキハ其旨管廳ニ届出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ
- 第五項 第一項免許届書式第三項標札書式ハ府縣知事ノ定ムル所ニ據ル
- 第六項 第二項第三項第四項ヲ犯シタル者ハ壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十一類 租稅貨紙幣公債區町村費

● 伺指令

● 酒造稅則附則中疑義ノ件ニ付山形縣ヨリ大藏省ヘ伺 十九年八月十三日 (十九年八月廿七日官報)

勅令第六拾號改正酒造稅則附則中疑義ノ廉左ニ相伺フ

一規則第四條ニ飲食店トアルハ料理屋鮮魚屋肉獸肉魚分割店屋大菸雜屋其他水茶屋等ノ如キ來客ノ需メニ應

シ酒肴ヲ出スモノハ名稱ノ如何ニ拘ハラズ渾テ合蓄シタル儀ナルヤ

一同係旅籠屋トアルハ下宿屋船宿等モ合蓄シタル儀ナルヤ

指令 十九年八月二十四日

兩條共伺ノ通

但第二條下宿屋船宿等ニシテ單ニ其客室ヲ貸シ又ハ乘船ノ取扱ノミヲ業トスルモノハ此限ニテラス

第三十六 烟草稅

● 伺指令

● 烟草營業者標札ノ件ニ付岐阜縣ヨリ大藏省ヘ伺 十九年四月二日 (十九年四月十一日官報)

烟草稅則第二十九條ニ據リ擲出スヘキ標札ノ儀ハ菓子營業者標札ノ通其營業名ヲ併記セシメ可然哉

指令 十九年四月八日

伺ノ通

● 烟草稅則ノ件ニ付愛媛縣ヨリ大藏省ヘ伺 十九年四月二十二日 (十九年五月八日官報)

烟草稅則第六條ヲ犯シタル者ハ同則第三十八條ニ仍リ處斷スヘキ旨ノ處第六條ニハ烟草營業者自己又ハ家族雇人

(雇主ノ家ニア)ヲ以テ仕入又ハ出賣ヲナサシムルハ云々トアリテ仕入出賣ヲナスハ自己又ハ家族雇人ニ限ルノ明

交無之ニ付キ雇主ノ家ニ在ラサル其日雇ノ者及非雇ノモノヲ仕入又ハ出賣ヲ爲サシメタルモノアルモ第三十八條ノ限外トシ其營業本人ヲ稅則第五條ノ違犯者トシテ第三十四條ニ照シ告發シ然ルヘキヤ  
烟草營業人ニシテ他同業者ノ家族雇人(仕入出賣標札ニ依テ仕入出賣ヲナサシメタル者ハ準據スヘキ正條無之ニ付不問ニ置キ然ルヘキヤ  
指令 十九年五月四日

第一項 烟草營業者ニシテ非雇人若クハ其家ニ在ラサル雇人ヲ使用シ無標札仕入出賣ヲナサシメタル者ハ第六條ノ違犯トス

第二項 烟草營業者ニシテ同業者ノ家族雇人ニ其仕入出賣ヲナサシメタル者ハ亦第六條ノ違犯トス

● 非營業者無印紙刻煙草所持ノ件ニ付山形縣ヨリ大藏省ヘ伺 十九年四月三十日 (十九年五月十三日官報)

爰ニ非營業者ニシテ無印紙刻煙草(百目玉造百)ヲ所持セルモノアリ依テ其事由ヲ尋問セシニ相當利潤ヲ得賣捌クヘキノ目的ヲ以テ鹽陸十二尾ト(見取代金)賣易セシモ未タ賣捌ヲナサヘル旨陳述セテ右ハ既ニ賣捌クヘキノ目的ヲ以テ現品ノ仕入ヲナシタルモノナレハ賣捌タルト否トニ拘ラス稅則第三十四條ニ據リ告發シ可然ヤ又ハ未タ賣捌カサルモノハ自用者ト看做シ同則第四十三條ニ據リ告發シ然ルヘキヤ  
指令 十九年五月八日

伺ノ趣後段申出ノ通相心得ヘシ

● 烟草稅則適用ノ件ニ付岩手縣ヨリ大藏省ヘ伺 十九年五月二十六日 (十九年六月十日官報)

烟草非營業者ニシテ刻煙草(成規ニ據リ裝)ヲ買入之ヲ自用者ニ販賣セントシ店頭ニ陳列シ又ハ行商ノ途ニ登リタルモ未タ販賣セサルニ先テ發見シタルモノハ本月八日山形縣伺ニ對シ御指令(官報第八百)ノ趣ニ據ルルハ自用者ニ當ルヲ以テ適用スヘキ罰條ナキカ如シ然ルニ十六年六月十八日租第五號訓示ニ對照考察スルルハ唯稅目ノ異ナルノミニテ之ヲ不問ニ措クハ權衡上穩當ナラサルニ付烟草稅則第三十四條ニ據リ告發スヘキヤ

指令 十九年六月四日

伺ノ通

●酒保販賣ノ物品課税ノ件千葉縣ヨリ大藏省ヘ伺 十九年七月六日 (十九年七月廿七日官報)

東京鎮守府倉管所及ヒ國府警政團等ニ於テ酒保請負人ヲ選定シ酒類其他刻煙草菓子小間物等ニ至ル迄管内ニ於テ販賣セシメ且行軍ノ節ハ之レヲ隨ヘ兵士ノ需用ニ應セシムルノ命令ヲ爲シタル趣然ルニ其請負人ニ於テハ陸軍ノ命令ナルヲ以テ各種稅則ノ範圍外ト心得營業免許ヲ得サルモノ之レアルヤノ由ニ付收稅吏ヲシテ管所及教導團ヘ問合セシニ右ハ陸軍歩兵内務書中酒保ヲ置クノ條項ニ基キ適宜人選シテ販賣ヲ命シ尤モ日當ヲ給スルニ非ラス其仕入代價ヨリ幾分ノ利潤ヲ得セシムル方法ナル趣就テハ該用種即チ請負人ノ如キハ一己ノ營業ヲナスモノニ付國稅アルモノ地方稅アルモノハ之ヲ賦課スヘキハ勿論ニ之レアルヘク果シテ然ラハ該管所及教導團ヘ照會ノ上隨時檢査員ヲ派遣シ管内ノ販賣場ニ就キ物品ヲ檢査セシメ差支ナキヤ右ハ獨リ本縣下ノミナラス各鎮守府及兵營ニ於テモ同様ノ設ケアルモノト想像致ス依テ取扱方一應相伺フ

指令 十九年七月十四日

伺ノ趣酒保ニ於テ販賣スル物品ノ請負ヒヲ爲ス者ハ其居宅ニ就キ業體相當ノ鑑札下付スヘキ儀ト心得ヘシ但管内ニ立入り檢査ヲ爲スヲ要セス

第三十七 證券印稅

○證券印稅規則中當座預リ金引出小切手押印稅徵收方東京府各區役所ニ於テ取扱ハシム

十九年四月十日

大藏省告示第三十一號

證券印稅規則第二條第一類證券中當座預リ金引出小切手押印稅徵收方是迄當省ニ於テ取扱タル處明治十九年度以後右

徵收ハ當分ノ内東京府各區役所ニ於テ之ヲ取扱フモノトス  
右告示ス

●同指令

●積荷證書印紙貼用ノ件新潟縣ヨリ大藏省主稅局ヘ照會 十九年四月九日 (十九年四月廿三日官報)

海運營業者アリ荷主ヨリ貨物ノ運送ヲ依託セシトキ別紙一號二號ノ如キ證書ヲ發セリ然ルトキハ該證書ノ性質ノ專ラ運送ヲ目的トシテ依屬セシモノナレハ設令他ノ性質ヲ含有スルモ之ヲ送狀ノ部類ニ編入スヘキヤ又ハ其運送ヲ目的トスルモ貨物到達マテノ間ハ該社ハ荷主ニ對スル預リ主ナレハ之ヲ預證ノ部類ニ編入スヘキヤ別紙略ス

回答 十九年四月十九日

回漕營業者ヨリ發スル所ノ積荷證書印紙貼用ノ儀ハ其性質效用全ク送狀ト認メ取扱フヘシ

●證券印紙ノ件ニ付愛知縣ヨリ大藏省ヘ伺 十九年四月二十九日 (十九年五月十八日官報)

茲ニ木綿問屋業ノ者アリ自己ノ店頭ニ於テ木綿仲買人ヨリ木綿購求ノ際其品位ヲ鑑定シ價格相場ヲ約定ノ上其價格等遠約ナカラシメン爲メ買主ニ於テ一ノ帳簿ヲ製シ其初丁ニ直段決定ノ上ハ賣主ノ自筆ヲ以テ木綿ノ種目及直段ヲ記載シ買受人ニ差出シ檢印ヲ受ケタル後ハ何種ノ相違アルモ此帳簿ヲ確證トスヘキ旨ノ契約文書ヲ明記シ賣渡人數十名ヲシテ漸次記載セシメタル別紙寫ノ如シ斯ノ如キモノハ發ヨリ甲乙二名ノ間ヲ互交スル通帳ニアラサレハ一紙證書ニスヘキ性質ノモノト解釋セリ果シテ然ラハ假令便宜上ヨリ之ヲ帳簿ニナスモ每扉ニ賣渡人ヲシテ相當印紙ヲ貼用スヘキハ當然ナルニ之ヲ貼用セスシテ既ニ授受使用セシモノハ賣主買主トモ證券印稅規則第二類諸物品賣買證文ノ項ニ據リ同則第十九條ニ準據シ處分スヘキヤ

(別紙)

木綿賣附帳

此賣附帳簿ハ直段決定ノ上ハ自筆ヲ以テ種目及直段ヲ記載シ買受人ヘ差出シ檢印ヲ受ケ通帳ヲ添ヘ帳場ヘ可差出

第十一類 租稅貨紙幣公債區町村費

候事然ル上ハ何様ノ相違有之候トモ此帳簿ノ記載ヲ確認ト可致候者也

年月日

証

某村

何某印

年月日

一長九反

○打付圓ニ付二反六步替

「買受人ノ捺印

一同拾九反

同人印

○打付圓ニ付二反七步五厘替

(買印ナキモノモアリ)

右正ニ賣附候也

指令 十九年五月六日

同ノ趣稅則第二類第五項ノ諸物品賣買證文ヲ便宜ノ爲メニ豫メ帳簿トナス者ハ其附込見積金高ニ隨ヒ帳簿主ニ於テ使用以前相當印紙ヲ貼用セシムヘシ

但印紙不貼用ニテ使用セシモノ處分ノ儀ハ申出ノ通

●證券印紙貼用方ノ件ニ付神奈川縣ヨリ大藏省主稅局ヘ照會 十九年五月十九日 (十九年五月廿八日官報)

本月十八日官報中證券印紙貼用方ノ儀ニ付キ愛知縣ヨリ同ニ對スル指令ヲ問スルニ證券印紙規則第二類第五項諸物品賣買證文ヲ便宜ノ爲メ豫メ帳簿トナスモノハ其附込見積金高ニ隨ヒ帳簿主ニ於テ使用以前相當印紙ヲ貼用セシムヘシトアリ就テハ客歲五月二日本縣電報伺(證券印紙規則第一類第二類ノ證券帳簿トナシ收人ノ分ヲ附込トモノハ同稅則第三條ニ準據スヘキヤ)ニ對スル同月十六日電報御指令(本月二日電報證券印紙稅伺ハ應毎ニ稅率ニ照シ相當印紙貼用セシムヘシ)ハ自然消滅候儀ナルヤ

回答 十九年五月二十二日

本月十八日官報中證券印紙貼用方愛知縣伺并指令掲載アルニ付貴縣客年五月二日電報伺ニ對スル指令消滅云々了承右ハ愛知縣ヘノ指令ハ第二類ノ證券ニシテ同項同稅率ノモノニ限リ附込見積金高ニ隨ヒ使用以前相當印紙貼用セシムヘシトノ旨趣ニアリ就テハ昨年五月二日貴縣電報伺ニ對スル指令中前件旨趣ニ抵觸スル應丈ハ自ラ消滅シタル儀ナリ

●質取主ヨリ差出ス納稅證書ヘ印紙貼用ノ件ニ付滋賀縣ヨリ大藏省ヘ伺 十九年五月廿八日 (十九年六月十一日官報)

明治六年一月第十八號太政官御達地所質入書入規則第六條ニ質入ノ地所ハ金主ニテ其地所耕作可致答ニ付テハ地租節役トモ總テ金玉ニ於テ可相動但其段管轄廳ヘ届出證書差出スヘシト之アリ候處十七年三月第七號布告地租條例第十二條ニ質入ノ土地ハ其質取主ニ於テ地租相納ムヘキ旨ノ明文之アリ加フルニ本年三月間令第三號ヲ以テ廢入廢出納規則御制定ニ付部長ハ同則第十九條ニ依リ徵稅令書ヲ發シ戶長ハ同則第二十條ニ依リ徵稅傳令書ヲ發スヘキ順序ニシテ管轄ニ於テハ證書ヲ差出サシムル必要之ヲキニ付質入書入規則第六條但書ハ自ラ消滅ニ屬シタル儀ト心得然ルヘキヤ否ヤ相伺候處司法大臣ヨリ伺ノ趣地所質入書入規則第六條ノ但書ハ消滅シタルモノニ非サル旨指令之アリ然ルニ地租ハ質入主ニ於テ可相納旨地租條例ニ明文之アル以上ハ管轄ト質取主ト別ニ契約ヲナスニ及ハサルハ勿論ニ付規則第六條ニ證書可差出トアルモ該證書ハ契約ノ性質ヲ有スルモノニ非スシテ質地ヲ届出ルニ止マルモノナレハ證券印紙規則ノ範圍外トシ然ルヘキヤ

指令 十九年六月四日  
伺ノ通

●爲換手形ノ件ニ付愛知縣ヨリ大藏省ヘ伺 十九年六月十七日 (十九年七月一日官報)

明治十七年五月第十一號布告證券印稅規則第二類中約東爲換手形ハ金高五十圓未滿印稅登錄ト之レアリ然ルニ二十五



年十二月 第五十七號布告爲換手形約束手形條例第一章第四條ニ爲換手形ノ金額ハ五圓以上ニ限ル者ト之アリ然ラハ爲換金高五圓以下ナルモノハ發行相成ラサル儀ニ候々又ハ印稅規則改正ニ據リ自然條例中五圓以上ニ限ルノ明文ハ消滅シ假令二三圓ノ爲換手形ト雖モ五十圓未滿ノ爲換手形用紙ヲ用ユル儀ト心得然ルヘキヤ

指令 十九年六月二十五日  
伺ノ趣消滅セサル儀ト得心得ヘシ

第三十八 車稅

伺指令

●徵發物件運搬ノ件ニ付愛知縣ヨリ大藏省ヘ伺 十九年五月廿六日 (十九年六月廿二日官報)

町村ニ賦課セラレタル徵發物件ヲ臨時供給スルニ際シ荷稅車之ナキ場合ニ於テハ其町村ノ便宜ニ依リ免稅車ヲ用ヒテ該物件ヲ差出シ場所ヘ運搬セシムルモ妨ケナキ儀ナルヤ

指令 十九年六月四日  
伺ノ通

第三十九 賣藥稅

伺指令

●沒收物品公賣ノ件ニ付新潟縣ヨリ大藏省ヘ伺 十九年三月廿三日 (十九年四月九日官報)

第一條 稅則違犯ニ係ル沒收物件中賣藥規則第二十二、二十三、二十四、二十五條ニ該當シ沒收セラレタル物品ハ配劑

用法詳ナラサルモノニシテ公賣ニ付スルヲ得サルニ付キ廢棄スヘキヤ

第二條 賣藥規則第二十一條ニ該ル犯罪者ヨリ沒收シタル賣藥中無印紙ノモノハ直ニ需用者ニ拂下クルヲ得ス若シ之ヲ公賣セハ稅則上許多ノ不都合ヲ醸生スヘキモノト思考候間前條同様取扱フヘキヤ

指令 十九年四月五日  
伺ノ趣總テ申出ノ通可相心得事

第四十 菓子稅

伺指令

●菓子營業人製造稅怠納者處分方ノ件ニ付東京府ヨリ大藏省ヘ伺 十九年三月十二日 (十九年三月十三日官報)

菓子製造小賣ヲ兼業スルモノニテ其製造稅ヲ不納スルモノアリ之ヲ處分スルニ當リ稅則第八條但書ニ二種以上ヲ兼タルモノハ其稅額ノ多キモノニ就テ納稅スヘントアリテ其小賣營業ハ製造ニ附帶シテ免許ヲ得タルモノナレハ各營業ヲ停止シ可然モノ、如シ然リト雖稅則第一條ニ於テ各營業人ノ資格ヲ示メサレ第二條但書ニ於テ二種以上ヲ兼タルモノハ各別ニ鑑札ヲ受クヘントアリテ畢竟製造小賣各別ニ營業權ヲ得タルモノト解釋セサル能ハス然ルモ製造稅ノ意思納スルノ場合ニ於テ各營業ヲ停止スルハ不穩當ト相考候若シ各資格ノ異ナラサルモノトシ小賣ヲ併セテ營業ヲ停止シ公賣處分等ヲ爲スモノトセハ小賣人ノ資格ヲ以テ他ヨリ買入レタル菓子モ均シク公賣セサルヲ得ス然ルニ該菓子ハ毫モ自家製造ニ關係ナキ物品ナレハ之ヲ公賣スルハ頗ル穩當ナラサルモノト存候旁各資格ノ異ナリタルモノト見認メ處分シ可然哉

第十一類 租稅貨紙幣公債區町村費

追テ製造營業ノミ停止候ニ於テハ小賣營業ハ既ニ當初營業權ヲ得タルモノナレハ當季中ハ別段税金ハ徴收不致積  
ニ有之候此段添テ相伺候  
指令 十九年三月十八日

伺ノ趣總テ申出ノ通可相心得申  
但營業稅不納ニ係ルモノハ本文ノ限外ト心得ヘシ

●菓子稅則不納處分方ノ件長野縣ヨリ大藏省ヘ伺 十九年四月二十四日 (十九年四月六日官報)

第一條 菓子製造營業ニシテ卸小賣營業ノモノ當十九年分前半期營業稅上納濟ノ後十八年第二期七月ヨリ十二月三  
二係 製造稅徵收ニ方リ該稅不納ニ付キ成規ノ通直ニ處分ニ着手シ製造品並ニ器械鑑札等ヲ差押ヘ營業ヲ停止セリ  
然ルニ卸賣小賣等ヲ兼スル者ノ營業稅ハ稅額多キ分ニ引付ケ營業稅ヲ徵收スル儀ニ有之今營業稅ノ最多キ製造稅  
不納ノタメ製造營業ヲ停止スル片ハ營業モ之ト共ニ附帶シテ營業權消滅スル儀ナラヤ

第二條 單ニ製造稅ノ不納ニ係ルモノハ假令營業稅ハ重キ分ニ付キ徵稅スルモ製造營業ノミ停止シ卸小賣ノ營業ヲ  
不問ニ措クモノトスレハ卸小賣ノ營業稅ハ更ニ徵收セサルモ差支ナキヤ

第三條 卸小賣營業停止ノ限ニアラストスレハ兼業ニ屬スル卸小賣鑑札面朱書製造ノ文字ヲ塗抹シテ取扱主任之ニ  
認印スヘキヤ

第四條 前條製造稅不納處分ヲ受ケ物件ヲ公賣ニ付シ其金額ヲ納稅ニ充テ剩餘アル片ハ本人ニ還付シ不足アルハ官  
ノ損失ニ歸スルハ勿論假令公賣處分ヲ受クルモ納稅義務ヲ盡シタルモノハ重子テ營業スルヲ得ルモ若シ納稅義務  
ヲ了セサルモノ其不足稅ヲ完納シ營業出願スル場合ニ於テハ其年ノ前半期營業稅ハ已ニ納濟ナレハ直ニ營業セシ  
ムヘキヤ又ハ更ニ營業稅ヲ徵スヘキ哉  
指令 十九年四月一日  
伺ノ趣左ノ通可相心得申

第一條 兼業ハ消滅セズ

第二條 當期ノ營業稅ハ徵收スヘキモノニアラス

第三條 申出ノ通

第四條 卸小賣ノ兩業ニ對スル稅額ト製造業ノ稅額トヲ比較シ其増差アルモノハ其差額ヲ徵收シタル上差額ナ  
キモノハ直ニ營業ヲ許スヘシ

●菓子稅ノ件ニ付愛知縣ヨリ大藏省ヘ伺 十九年三月廿七日 (十九年四月八日官報)

菓子製造人ノ製造高ヲ帳簿ニ記載スルハ賣上高等ニ參照檢査上緊要ナルモノナレハ之カ記載ヲ忘リ又ハ詐偽ノ記載  
ヲ爲シタルモノハ稅則第十四條ニ包含スルモノト解釋シ該條違犯ノ廉ヲ以テ告發シ可然哉  
指令 十九年四月二日

伺ノ趣稅則第十四條ノ帳簿トハ稅則取扱心得書第十三項ノ菓子賣上帳及製造原品買入帳ニ限ル儀ト可相心得申

●菓子營業者轉業ノ節鑑札書換ノ件静岡縣ヨリ大藏省主稅局ヘ問合 十九年八月九日 (十九年八月廿一日官報)

菓子營業者ノ内營業ノ都合ニ因リ露店呼賣專業ヨリ普通營業ニ又ハ普通營業ヨリ露店呼賣ニ轉業スルモノハ鑑札ハ  
露店呼賣ノ廉加除訂正主任者捺印ノ上下與シ苦カラサヤ又ハ新鑑札書換下與スヘキヤ御明示相成度  
回答 十九年八月十八日  
御問合菓子營業者轉業ノ節鑑札書換ノ儀ハ後段御見込ノ通

第四十一 地方稅

○警察費警察廳舍建築修繕費豫算原按額屆出期限 十五年十月二十日 內務省第七號  
內務省令第七號  
雜報(部)官報  
第廿三參照

第十一類 租稅貨紙幣公債區町村費

ヲ除クハ達

本年第二號布告ニ依リ十六年度以降警察費并ニ警察廳舎建築修繕費ニ對スル國庫下渡金預算調整ノ都合有之ニ付右科  
目毎年府縣會ニ附スヘキ豫算原按額ハ前年十一月廿日限り其地發遣及該會議決額ハ認可次第左ノ書式ニ照準シ當省へ  
可届出此旨相達候事

但豫算外臨時費用ヲ議決シ又ハ豫備費ノ支出ヲ要セシトハ其事由ヲ具シ本文書式ニ倣ヒ届出ヘク且各年當省ノ第二  
十三號并ニ乙第五十六號達ハ相廢シ候事  
(用紙通常界紙ヲ以一通)

何年度警察費及警察廳舎建築修繕費原按額御届  
〔高金〕 爰ニ高金ヲ掲クルハ外書ニ  
記載スヘキ金額有之片ノ例

一金

内

金

地方税

國庫下渡金

右二項ハ十四年第十六號公布及第二十八號公達ニ屬スル金  
額ヲ掲クルモノニテ東京府ハ地方税二十萬圓ナレハ國庫下  
渡金ヲ三十萬圓トシ其他ハ地方税十萬圓ナレハ國庫下渡金  
ヲ三萬圓ト記載スルノ例

全別途金

〔此項ハ神奈川兵庫長崎高知鹿兒島ノ五縣ニ限ル〕

寄附金

〔此項ハ警察費工寄附金有之片ノ例尤此金額ニ對スル國庫下  
渡金ハ無之事〕

〔賣淫罰金〕

〔外金〕

金

金

金

金

警察費

〔 〕ノ内朱字

第十一類 租稅貨紙幣公債區町村費

〔金〕

内譯

金

〔高金〕 爰ニ高金ヲ掲クルハ外書ニ  
記載スヘキ金額有之片ノ例

金

〔外金〕

〔金〕

一金

内

金

地方税

國庫下渡金

〔右二項ハ警察費ト全シ割合ヲ以テ記載スルノ例〕

全別途金

〔此項ハ神奈川兵庫長崎ノ三縣ニ限リ従前警察費ニ屬スル別  
途金ヨリ分製スヘキ金額有之片ノ例〕

寄附金

〔此項ハ建築修繕費工寄附金有之片ノ例尤此金額ニ對スル國  
庫下渡金ハ無之〕

新築費

金

内譯

金

金

金

金

〔金〕

〔外金〕

金

金

〔賦金〕

俸給

〔右二項ハ警察探偵費ニ補充スル片外書ニ記載スルノ例〕

諸費

〔賣淫罰金〕

〔賦金〕

警察廳舎建築修繕費

金

右者何年度地方警察費及警察廳舎建築修繕費預算 原按前書之通ニ有之候也  
年月日

內務卿宛

府知事 名印  
縣令 氏名印

○警察費並警察廳舎建築修繕費届出方 十八年十月二十八日  
內務省甲第三十五號府縣(函館沖繩札幌根室ノ四縣ヲ除ク)ノ達  
警察費並警察廳舎建築修繕費ニ於テ豫算外ノ費用支出ヲ要セシ片十五年當省乙第五十六號達但書ニ據リ届出ノ俄國庫  
下渡金調理ノ都合有之自今該年度出納閉鎖ノ期三箇月以前可届出此旨相達候事

○警官練習所受業生ニ係ル費用支辨方 十八年九月七日 (大藏卿達書)  
內務省甲第三十號警視廳府縣(東京府沖繩縣ヲ除ク)ノ達  
警官練習所受業生ニ係ル費用ハ地方警察費ヨリ可致支辨此旨相達候事  
但警部ニ係ル旅費并寄宿舎附料ノ實費ハ警部給與ヨリ支辨スヘシ

○陸海軍軍法會議ニ於テ處斷ヲ受ケタル囚徒ノ費用支辨方 十九年一月二十九日  
內務省甲第一號警視廳府縣ノ達  
陸海軍軍法會議ニ於テ輕重懲役及剝官ヲ附加シタル禁錮ノ刑若クハ普通刑法ニ依リ懲役禁錮ノ處斷ヲ受ケ官職ヲ失  
ヒ軍籍ヲ除カレタル囚徒ニ係ル費用ハ來ル二十年度以後軍法會議所在地ノ地方稅ヲ以テ支辨ス可シ  
但從前陸海軍軍律ニテ處斷セラレタル囚徒ニ係ル費用ハ明治十四年三月第十七號公布ニ依リ區分シ陸海軍刑法ニテ  
徒刑流刑禁錮ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル費用ハ國庫費ヨリ支辨スヘキ儀ト心得ヘシ

右相達ス

●同指令

●在府縣獄囚徒費ノ件ニ付靜岡縣ヨリ內務省ヘ伺 十九年五月五日 (十九年五月廿八日官報)  
移轉費ノ儀ハ集治監入囚徒護送ノ都度管下沿道各警察署ニ於テ該署諸費ノ内ヲ以テ囚人賄料人力車賃棧棧賃等一

時錄替置其費費請求ニ依リ支出取計來リ候處十九年度以降ト雖モ右ニ取計可然哉若シ然ラサレハ他府縣ヨリ護送ノ  
囚人通行ニ際シ差支候ニ付該費ニ限リ豫メ沿道警察署ヘ概算ノ支出取計可然哉尤後段ノ如ク概算支出取計候片ハ正  
當受取證書ハ月々提出報告書ヘ添付致兼候ニ付一周年度決算ノ節ニ至リ取束手進達シ可然哉  
指令 十九年五月十五日

後段向ノ通取計正當受取人ノ領收證書報告書ト同時ニ送致シ雖キ分ハ支拂人ノ證券差出シ置其正當證書ハ翌月  
分ト俱ニ送致スヘシ

●在府縣獄囚徒費支辨方ノ件ニ付靜岡縣ヨリ內務省ヘ伺 十九年六月二十八日 (十九年七月二日官報)

- 一 徒刑ノ宣告ヲ受ケタル者裁判確定ノ上假留監(押送)後餘罪發覺ニ付原裁判所ヨリ呼戻シ候節警察傳票ヲ以テ押送途中費用ハ沿道警察費ヨリ支辨シ可然哉尤餘罪アルト雖モ原刑集治監ニ入ルヘキ囚徒ニ係ル費用ナルヲ以沿道國庫監獄費ヨリ支辨可致儀ニ有之候哉
  - 一 甲地重罪裁判所ニ於テ徒刑ニ處セラレタル者アリ然ルニ餘罪有之ニ付裁判確定ノ上ハ乙地重罪裁判所ヘ可引渡旨甲地裁判所檢事ヨリ照會ニ依リ送附候片ハ該囚ニ係ル費用最前刑名宣告ノ日ヨリ乙地ヘ發遣ノ日迄甲地國庫監獄費ヨリ(日額金二十錢ツ)支辨シ而シテ押送途中費用ハ沿道警察費ヲ以テ支附シ地ヘ到達ノ上ハ同日ヨリ該地國庫監獄費ヨリ支辨可致儀ト心得可然哉
  - 一 徒刑ノ宣告ヲ受ケタル者裁判確定ノ上餘罪發覺シ爲メニ未決監ヘ移ル者アリ右ハ未決在監中ト雖キヨリ集治監ニ入ルヘキ囚徒ニ付該囚ニ係ル費用ハ日額金二十錢ツ、國庫監獄費ヨリ支辨シ可然哉
  - 一 徒刑ノ宣告ヲ受ケタル者裁判不服ニテ本人上告ノ者在監中費用計算方ノ儀ハ裁判確定ノ上刑期ニ算入スヘキ日ヨリ國庫支辨ニ屬スルハ勿論ニ有之候得共右上告中會計年度(涉)候節ハ前年度經費決算方如何取計可然哉
- 指令 十九年六月二十八日  
第一項 前段向ノ通

第二項第三項 何ノ通

第四項 年度決算ノ場合ニ於テハ地方税監獄費ヲ以テ假拂ノ儘結算ヲ了シ他日裁判確定國庫支辨ニ歸スルハ該費ヨリ支出シ地方税雜收入ニ編入スヘシ

但國庫出納閉鎖後既往年度ニ屬スル賦額ノ仕拂ヲ要スル節ハ其金額事由ヲ詳悉シテ其時々何出ヘレ

●米商會所仲買人へ地方税賦課ノ件ニ付愛媛縣ヨリ内務省へ同 十八年十二月四日(電報) (十八年十二月十日官報)

三拾八號公布ニテ十五年六拾五號公布ハ廢セラレタルニ付米商仲買認許料アレトモ地方税ヲ課シ得ヘキヤ直ク御指

揮ヲ請フ

指令 十八年十二月十一日(電報)

本月四日米商仲買人地方税賦課ノ件何ノ通

第四十二 租税未納不納處分

○租税不納又ハ徵收シ能ハサル分稟申方 十八年六月十三日 大藏省第三十四號府縣へ達  
租税ノ内官損及勘定除却ヲ要スル金額稟申方ノ備明治十六年八月第五拾五號ヲ以テ相違置候處右ハ相廢シ更ニ取扱方左ノ通相定ム

一租税不納ノ者財産公賣處分ノ末官損トナソタル金額ハ全管取束子左ノ書式ニ倣ヒ調理シ毎稅納期後四十五日以内ニ稟申スヘシ

一荒地成檢査中又ハ非常ノ災害ニ罹リ備荒儲蓄金ヨリ補助或ハ貸與取調中ノ類ニシテ納期ニ際シ徵收シ能ハサル分ハ其調査完了時日ノ見込相立該稅納期以前廷納ノ義ヲ稟申スヘシ

一戸長云々 十九年五月大藏省訓令 第九號ヲ以テ廢止ス  
右相違候事

(書式略ス)

○諸營業稅不納ノ者財産所在不分明ニシテ公賣處分ヲ爲シ能ハサル者處分方并租税不納又徵收シ能ハサル分稟申方達中更正刪除ス 十九年五月三日 大藏省訓令第九號北海道廳府縣

明治十六年九月當省第五十九號達中公賣處分ヲ爲シ能ハサルモノハノ下「該稅決算期限六十日以前」トアルヲ「翌年度十二月一日以後同月三十一日マテ」ト更正同十八年六月當省第三十四號達第三項ヲ刪除ス

○内國稅未納追徵整理順序 十九年七月二十二日 大藏省訓令第三十三號北海道廳府縣(沖繩縣ヲ除ク)

内國稅未納追徵整理順序左ノ通相定メ十六年九月第五十九號及十七年七月第五十七號當省達ハ廢止ス但甲乙號樣式ハ別ニ之ヲ送付ス(甲乙號樣式略ス)

内國稅未納追徵整理順序

第一條 北海道廳長官府縣知事ハ甲號樣式ノ如ク内國稅未納簿帳ヲ調製スヘシ

第二條 内國稅ノ内事故アリテ翌年度十一月三十日マテニ徵收ヲ完了セサルモノハ其年度ノ未納元額トシ簿帳ニ登記スヘシ但後日追徵シタルトキハ其時々簿帳へ記載スヘシ

第三條 諸營業及船車稅不納者旅行又ハ失踪シ其財産ノ所在不分明ニシテ公賣處分ヲ爲シ能ハサルモノハ年々未納簿帳へ登記シ置キ而シテ他日本人籍籍又ハ所在發見シタルトキハ未納ニ係ル毎期ノ税金追徵スヘシ但未納ノ當初ヨリ滿三ヶ年ヲ經過シ尙完結セサルモノハ其際更ニ處分方稟議スヘシ

第四條 北海道廳長官府縣知事ハ毎年度ノ末ニ於テ乙號書式ノ如ク既往年度未納殘高任譯書ヲ製シ四月三十日限り大藏省へ送付スヘシ

第十一類 租稅貨紙幣公債區町村費



金 金

救助費  
災害豫防及整備費  
勸業費

(右ノ外別ニ指揮シタル費目アルハ記載スヘシ)  
右ハ何年度管内區町村費取調進達候也

府知事  
縣令

年月日

第四十四 備荒儲蓄

○備荒儲蓄金取扱順序ヲ定ム 十三年十一月二十二日(大藏卿連署)  
内務省第三十八號沖繩縣ヲ除ク府縣へ達  
本年第三十一號ヲ以テ備荒儲蓄法公布相成候ニ付テハ右取扱順序別冊ノ通相定メ候條此旨相達候事  
別冊

備荒儲蓄金取扱順序

- 第一條 備荒儲蓄金ハ毎年度府ヨリ配付スルモノヲ配付金ト稱シ人民ヨリ徴收スルモノヲ公儲金ト稱ス而シテ右配付金及ヒ公儲金ヲ合セテ府縣儲蓄金ト稱スヘシ
- 第二條 配付金ハ前年度ノ地租豫算高ニ據リ其額ヲ定メテ毎年三月以前ニ達スヘシ
- 第三條 府縣ニ於テハ配付金高ヲ以テ最下額トシ公儲金徴收ノ割合ヲ定メ而シテ其徴收期限ハ支出上差支ナキ爲メ適宜前收ノ方法ヲ設ケ府縣會ニ付スヘシ
- 第四條 公儲金不納處分又ハ免除等ヨリ生スル欠額ハ渾テ翌年度ニ於テ一般ニ賦課シテ之ヲ補充スヘシト雖モ其總額配付金ノ高ヨリ不足セサル場合ニ在テハ之ヲ補充セサルモ妨ケナシ

第五條 地租ノ貸與金事故ナクシテ返納ヲ怠ルモノハ其筋ノ裁判ニ付スヘシト雖モ不慮ノ災害ニ遭シ返納シ能ハサルモノハ之ヲ猶豫シ又ハ免除スルノ方法ヲ豫シメ府縣會ニ於テ議定セシムヘシ

第六條 備荒儲蓄法第五條ニ依リ内務大藏兩卿へ具申スル節部區ヲ區分シタル明細書ヲ製シ差出スヘシ大藏卿ハ配付金ヲ兩度 七月ニ交付スヘシ 明細書ハ第一號書式ニ據リ配付金ノ領收證書ハ第二號書式ニ據ルヘシ

第七條 府縣儲蓄金ノ内災害其他 相當ノ支出ニ充ツル爲メ現金ヲ備ヘ置クハ引出方ニ差支ナキニ於テハ之ヲ銀行等へ定期預ト爲スモ妨ケナシ

第八條 米穀ヲ貯積スル爲メ倉庫ヲ建築シ及ヒ借庫料番人給料等ニ係ル諸費用 官吏郡區吏旅費ノ如キハ此限ニアラス 并ニ米穀公債證書ノ賣買等ニ關スル諸雜費及ヒ損失ハ府縣儲蓄金ノ内ヨリ支辨スルノ方法ヲ設ケ豫シメ府縣會ニ付スヘシ 但倉庫ヲ建築スルハ給貸等ニ支障ナキヲ計リ府縣儲蓄金ノ餘裕アルヲ待テ之ニ着手スヘシ

第九條 府縣儲蓄金ノ三分ノ二 前年ヨリノ超過及ヒ其年ノ儲蓄金ヲ合セタル總額ニ對シ計算スヘシ 以上ヲ供用支出シ中央儲蓄金ヨリ補助ヲ要スルハ其額未詳記シテ内務大藏兩卿ニ具狀スヘシ此場合ニ於テハ時トシテ内務大藏兩省ノ官吏ヲ派遣シ實際ヲ査閱スルヲアルヘシ

第十條 中央儲蓄金ヨリ補助ヲ要シタル府知事縣令ハ其額未詳管下へ布達スヘシ

第十一條 凡ソ府縣儲蓄金ヲ集積シ分儲シ又ハ米穀及ヒ公債證書ヲ購入シタルハ三ヶ月毎ニ報告書ヲ作リ内務大藏兩卿へ差出スヘシ 收支科目ハ第三號ニ據リ報 告書式ハ第四號ニ據ルヘシ 中央儲蓄金ノ増減ハ大藏卿ヨリ三ヶ月毎ニ新聞紙ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

第十二條 府縣儲蓄金ノ出納ハ便宜ニ從ヒ出納簿 現金米穀公債證書等ノ受 拂ヲ總括スルモノヲ云フ 及ヒ内課簿 現金米穀公債證書ノ所在ヲ分チル帳簿ヲ云フヲ製シ置キ常ニ其會計ヲシテ明瞭ナラシムヘシ

第十三條 府縣儲蓄金ノ精算ハ地方稅出納決算ノ手續ニ倣ヒ府縣會ニ報告スヘシ 書式ハ第五號ニ據ルヘシ

第十四條 大藏卿ハ官吏ヲ派遣シ毎歲又ハ臨時ニ府縣儲蓄金或ハ貯積米ヲ檢査セシムヘキニ因リ府知事縣令ハ集積及

第十一類 租稅貨紙幣公債區町村費

分儲ノ所在并ニ米穀貯積ノ場所等ヲ三ヶ月毎ニ大藏卿ニ報告スヘシ報告書式ハ第六號ニ據ルヘシ  
第十五條 府縣儲蓄金或ハ貯積米ノ検査ハ大藏省派出官吏ノ便宜ニ因リ府知事縣令ヘ通牒セズ直ニ其所在ニ就キ検査スルコトアルヘシ尤此場合ニ於テハ派出官吏ハ大藏卿ノ命令書ヲ携帶スルモノトス  
(第一號乃至第六號書式略ス)

○備荒儲蓄金ヲ定期預ケト爲シ又ハ預ケ金ニ對スル抵當物件十五年四月十三日 内務省乙第七十五號府縣(沖繩縣及北海道三縣ヲ(大藏卿連署) 除ク)ヘ達

明治十三年乙第三十八號ヲ以テ相違候備荒儲蓄金取扱順序第七條儲蓄金ヲ以テ銀行等ヘ定期預ケト爲ス場合ニ於テハ其預ケ箇所ハ豫シメ府縣會ニ於テ議定セシメ必ス預ケ金額ニ對スル抵當取置候ハ勿論ニ候處右抵當ハ公債證書ニ限リ候儀ト心得ヘシ此旨相達候事

第四十五 預金

○預金取扱手續中ヲ改正ス十九年一月二十二日 大藏省告示第七號  
客城六月第八拾八號告示預金取扱手續中出納局トアルヲ金庫局ト改ム  
右告示ス

第四十六 貨幣條例中改正十八年十二月三日 第四十一號布告

明治八年六月第八號布告貨幣條例公差表中補助銀貨品位公差「純分千ニ付二」トアルヲ自今

純分千ニ付三ト改ム

右奉 勅旨布告候事

○舊金銀貨價格表ヲ改正ス十八年七月六日 大藏省第百三號告示  
舊金銀貨價格表別冊ノ通リ改正ス  
右告示候事  
(別冊零ス)

第四十七 紙幣漸次銀貨ニ交換ス十八年六月六日 第十四號布告

政府發行ノ紙幣ハ來明治十九年一月ヨリ漸次銀貨ニ交換シ其交換シタル紙幣ハ之ヲ消却スヘシ

但交換ノ手續ハ大藏卿之ヲ定メ日本銀行ヲシテ其事務ヲ取扱ハシムヘシ  
右奉 勅旨布告候事

○鑑定ヲ誤リ正貨紙幣斷截シ又ハ描改ノ正札等取扱方九年五月八日 大藏省乙第四十號府縣ヘ達  
太政官第五十七號公布新金銀銅貨紙幣等取扱規則第二條ニ掲叙ノ通リ鑑定ヲ誤リ正貨紙幣ヲ斷截シタル時ハ改人ヨリ其同等ノ品ト引換相渡其斷截シタル紙幣ハ事由ヲ詳記シテ管轄廳ヘ引換ヲ乞ハ、該廳ニ於テハ損傷札交換規則ニ照準豫備金ヨリ繰替引換遣シ追テ右改人ヨリ差出セシ雪面ヘ現札添紙幣寮ヘ交換申出ヘシ尤交換手数料ハ別段下與不致儀ニ付他損傷札ノ交換ト決テ不混雜區別可致候此旨相達候事  
但紙幣ノ數位ヲ描改シ五圓ヲ拾圓ニ拾錢ヲ貳拾錢ニ變換セシ類ハ假令正札ト雖モ廢換ノモノニ付右ハ廢札ヲ以テ處



分可致候

○銀行紙幣贖造描改處分

十四年十一月五日  
大藏省第七十四號府縣へ達

銀行紙幣贖造札描改札處分方之儀ハ明治九年四月第五拾七號布告及同年五月當省甲第十二號布達同年五月當省乙第四十號  
達ニ準據候儀勿論ニ候得共右處分方結了ノ上ハ該札相添銀行局へ可届出儀ト可相心得且又右第五十七號布告規則第二  
條等ニ據リ引換フヘキ正紙幣ヲ改入ヨリ差出候トキハ其接近ノ地ニ設立スル國立銀行本支店へ其紙幣ヲ發行セシ銀行  
ニアラサルモへ下付シテ交換セシメ代リ金ハ該銀行ヨリ直チニ其改入へ交付可爲致此旨相達候事

○銀行紙幣合同消却方法

十六年五月三十日  
大藏省番外日本銀行國立銀行へ達

國立銀行條例追加第十二條ニ據リ日本銀行ニ於テ各國立銀行紙幣ヲ消却スルニ付テハ別冊ノ通合同消却方相定候條  
右ニ準據シ不都合無之様處分可致此旨相達候事

銀行紙幣合同消却方法

- 第一條 日本銀行ニ於テ各國立銀行ノ紙幣ヲ消却スルハ毎季紙幣消却元資金ヨリ生スル利子ノ金額ヲ準據トシ總額ノ  
發行高ヲ合同シテ便宜之レヲ消却處分スルモノトス故ニ其年ノ都合ニヨリテハ一銀行ノ計算ニ於テ或ハ紙幣發行高  
ト其實際ノ消却高トニ過不足ヲ生スル事アルヘシト云レ終期ニ至リテ悉皆其消却ヲ完了スヘキモノトス
- 第二條 日本銀行ハ毎季紙幣消却元資金ノ利子ヲ管轄廳ヨリ受取ルルハ其金額ヲ各銀行紙幣發行高ニ對比シテ一行毎ニ  
其季ノ消却割付高ヲ算定シ其一覽表ヲ製シテ 六月十五日 迄ニ之レヲ大藏省ニ上呈シ各國立銀行へハ右期限迄ニ其  
計算書ヲ發付シテ當季ニ消却スヘキ銀行紙幣ノ割付高ヲ通知スヘシ
- 第三條 日本銀行ハ前第二條ニ掲クル利子金ヲ以テ消却シタル各銀行紙幣ノ合高ヲ取總メ其發行店毎ニ之レヲ區別シ  
其種類別額及記號番號ノ内譯書ヲ添ヘテ之レヲ大藏省へ納付シ大藏省ヨリ讀取書ヲ領收スヘシ
- 第四條 右ノ受取證書ヲ領受セハ日本銀行ハ各銀行紙幣消却證書(各行ノ紙幣實際ノ消却多寡ニ拘ハラズ第二條ノ割付

高ニ從フヘシ)及實際消却シタル紙幣ノ種類別記號番號ノ内譯書ヲ各國立銀行へ送付スヘシ

第五條 各國立銀行ハ右ノ消却證書ヲ得タルハ紙幣消却ノ旨ヲ大藏省へ届出テ紙幣下付高ノ内ヨリ該金額ヲ扣除シ  
元高消却ノ書面ヲ作リ之レヲ日本銀行へ送付スヘシ

第六條 各國立銀行ヨリ紙幣消却ノ旨ヲ大藏省へ届出タルハ大藏省ハ各銀行紙幣實際消却高ノ多寡ニ拘ハラズ第二  
條ノ割付消却高ニ從ヒ紙幣抵當公債證書ヲ直チニ各國立銀行ニ下付スルモノトス

第七條 各國立銀行中營業滿期ニ至リ發行紙幣尚殘存スルモノハ日本銀行ニ於テ命令書第三條ニ掲クル公債證書ヲ賣  
拂ヒ其代金ヲ以テ之ヲ消却シ尚殘額アルハ命令書第二條ニ掲クル公債證書ヲ賣拂其代金ヲ日本銀行ニ預リ置キ以テ右  
殘存紙幣消却ノ資ニ充ツルモノトス

第八條 各國立銀行中紙幣消却未タ完了セサル場合ニ於テ領店スルモノアルハ日本銀行ハ其銀行ヨリ預リタル紙幣  
消却元資ヲ還付シ而シテ其銀行ニ係ル實際消却高ト割付消却高トヲ比較シ割付消却高ノ方多額ナルハ大藏省ニ於  
テ割付消却高ノ殘額ヲ引換消却シ實際消却高ト割付消却高トノ差額ハ日本銀行ヨリ他ノ消却元資ヲ上納セシメ大藏  
省ニ於テ消却處分スルモノトス若又之ニ反シ實際消却高ノ方多額ナルハ大藏省ニ於テ實際消却高ノ殘額ヲ引換消却  
シ實際消却高ト割付消却高トノ差額ハ紙幣抵當公債證書ヲ賣却シ其代金ヲ日本銀行へ下付シ他ノ消却元資ニ充タシ  
ムヘシ

第四十八 日本銀行發行ノ兌換銀行券ノ贖造描改取扱方

號

十九年九月二日  
大藏省令第二十八

日本銀行ニ於テ發行セシ兌換銀行券ノ贖造及描改ニ係ル分取扱方ノ儀ハ渾テ明治九年四月第  
五十七號布告贖造金銀銅貨紙幣等取扱規則及同年五月當省甲第十二號布達ニ準據スヘシ

第十一類 租稅貨紙幣公債區町村費

但第五十七號布告取扱規則第二條ノ場合ニ於テハ日本銀行本支店ヘ引換ヲ請フヘシ  
○日本銀行發行廢造描改ノ兌換銀行券取扱方 十九年九月二日 大藏省訓令第四十二號北海道廳府廳  
當省令第二十八號廢造及描改ニ係ル兌換銀行券取扱方ノ儀ハ尙本明治十四年十一月當省令第四十號達ニ準據スヘシ

第四十九 大藏省證券

○大藏省證券條例ニ據リ證券發行ノ事務 十九年八月三日 大藏省令第二十六號  
明治十七年九月第二十四號布告大藏省證券條例ニ據リ證券ヲ發行スルトキハ日本銀行ヲシテ其事務ヲ取扱ハシム

第五十 諸記名公債ノ元利賦金渡方日本銀行ニ於テ取扱ハシム 十九年七月八日 大藏省令第二十四號

北海道廳又ハ府縣廳ニ於テ取扱來候諸記名公債ノ元利賦金拂渡方ノ儀來十一月一日ヨリ總テ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ之ヲ取扱ハシム但其代理店ハ日本銀行ヨリ廣告スヘシ  
○諸公債證書ノ元金拂渡期限ヲ經過シ受取方不申出所有主ノ損失ニ歸シタル證書取扱方 十九年一月九日 大藏省第二號府縣令  
諸公債證書ノ元金其條例ニ定メアル拂渡期限ヲ經過シ受取方申出テス所有主ノ損失ニ歸シタル證書ハ當省ニ於テ該

證書ノ無効タルヘキ旨ヲ告示スヘキニ付右ノ證書コレアルルハ公債簿冊ニ據リ該證書ノ種類金高記號番號等其年十二月末日ノ現狀ヲ以テ取調翌年一月三十一日限リ其地發還當省ヘ届出ヘシ  
右相違候事

○諸記名公債元利賦金支拂方取扱順序 十九年七月八日 大藏省訓令第三十號  
諸記名公債元利賦金支拂方取扱順序

- 第一條 管轄ハ諸記名公債元利賦金支拂期節ニ臨ミ其支拂期前月一日 沖繩縣ハ前々月一日 (ノ) 越爲即其日ノ所管高表ヲ左ノ第一號書式ノ如ク取調日本銀行本店ヘ又債主一人毎ニ其支拂ヘキ利賦札ノ金高ヲ左ノ第二號書式ノ如ク取調左ノ期日迄ニ其支拂ヲ爲スヘキ日本銀行本支店又ハ代理店ヘ報告スヘシ
  - 一新公債 毎年 五月十五日
  - 一舊公債 毎年 十一月十五日
  - 一金札引換公債 毎年 四月十五日
  - 一金祿公債 毎年 四月十五日
- 第二條 諸記名公債當議又ハ滿期償還ノトキ其償還スヘキ金高ヲ左ノ第三號書式ノ如ク取調日本銀行本店ヘ又其債主ノ姓名證書ノ金高ヲ左ノ第四號書式ノ如ク取調其支拂ヲ爲スヘキ日本銀行本支店又ハ代理店ヘ報告スヘシ
- 第三條 來ル十一月一日以前ニ係ル未渡ノ元利賦金ヲ請求スルモノアルトキハ第一條第二條ニ據リ日本銀行本支店又ハ代理店ヘ報告スヘシ
- 第四條 諸記名公債證書ノ所有者ヲシテ來ル十月十五日迄ニ其所有證書取扱店ヲ指定セシメ届出サシムヘシ又其姓名住所印鑑ヲ戶長(戶長ナキトキハ郡區長)ノ保證ヲ得テ日本銀行本支店又ハ代理店ヘ届出サシムヘシ但姓名代替リ改印等ノトキ并ニ新ニ公債ヲ讓受買入タルモノモ本文同様其印鑑ヲ差出サシムヘシ

第五條 管廳ニ於テハ前條届出ニ依リ其取扱店毎ニ帳簿ヲ設クル乎又ハ數店ヲ一帳簿トスルモ適宜タルヘシ  
第六條 日本銀行代理店ハ一管廳下便宜ノ場所ニ之ヲ定メ同行ヨリ廣告セシムヘシ  
(書式略之)

● 伺指令

● 諸記名公債元利賦金支拂方取扱方順序ノ件ニ付滋賀縣ヨリ大藏省ヘ伺  
(十九年七月三十一日官報)

- 第一 來ル十一月三十一日以前ニ係ル未渡ノ元利賦金請求スルモノアルトキハ順序第三條ニ據リ取扱而シテ其旨ヘハ報告ニ及ハサルヤ
- 第二 右元利賦金ハ日本銀行本店及ヒ取扱店ヘ報告ノ上ハ直チニ支拂相成ルヘキヤ又ハ後日取扱店ヨリ請求者ヘ仕拂期日ヲ報告スルヤ債主ヘ指示スヘキニ付豫テ發本知度
- 第三 來ル十一月一日以後ニ係ル未渡ノ元利賦金事故解除ノ上ハ兼テ債主ノ指定セル取扱店ヘ直チニ請求セシムヘキヤ
- 第四 以往相當年度後ノ未拂元利賦金ハ日本銀行ヨリ證書所管ノ廳ヘ報告シ爾後支拂ノ都度之ヲ亦タ報告スルヤ然ラサレハ客歳<sup>三</sup>貴省第八號本年<sup>一</sup>貴省第二號御達ニ據リ五箇年經過後ノ御届スヘキコト能ハス若シ或ハ同店ヨリ御届ニ及候ニ付右兩度ノ御達ハ來ル十一月以後相當ノ元利賦金ニ關シテハ適用セサル儀ト心得然ルヘキヤ  
但後段ノ如クナレハ新舊公債證書發行條例第五條第五節認可ノ都度該取扱店ヘ報告スヘキヤ
- 第五 前項ノ所管廳ヘ報告ナキモノナレハ證書亡失ニ方リ届出ノ際利賦金拂濟未済ノ區分本人ノミノ申立ニテ證明スルモノナシ是ノ場合ニハ該届書ニ對シ取扱店ノ保證ヲ要セシメ而シテ受理處分致スヘキヤ
- 第六 利賦札ヲ亡失シタル旨届出タルトキモ前項ノ通り保證ヲ要セシメ受理ノ上ハ之ヲ取扱店ヘ報告シ貴省ヘ御届

ニハ及ハス候ヤ爾後七箇月經過發見セサルニ由リ該金拂渡方ハ總テ同店ヘ放任シ其後發見シタル利賦札ハ同店ヘ回付スヘキヤ

第七 元利賦金未拂ノモノ轉居又ハ都合ニ寄リ申ヒ取扱店ヲ變換スルトキ債主<sup>一</sup>店ヘ順序第四條ニ據リ手續ヲ爲スモ甲店ヘ報告スルノ責任ナキモノニ付此ノ場合ニハ所管廳ヨリ日本銀行本店ヘ増減報告シ而シテ甲店ヘ減額ヲシ店ヘ更ニ書式ニ準シ増額ノ報告ヲナスヘキヤ

但他管ヘ轉出セルトキモ本條ニ準ヒ減額ヲ報告シ且轉入ノ管廳ヘモ通知スヘキヤ

第八 新舊公債證書發行條例第六條第四節ノ但書アリト雖モ追加増額スルトキハ其都度順序書式ノ通り報告スヘキヤ

第九 公債證書利賦札等又ハ所有者身分ニ關シ阿訕或ハ故障中ノ趣ヲ以テ元利賦金ノ渡方停止ヲ請願スルモノアルトキ日本銀行并代理店ニテ之ヲ許否スレハ必ス紛紜ノ絶ヘサランヲ豫想セリ因テ是ノ請願ハ所管廳ノ指令ヲ得テ願人之ヲ取扱店ニ證明シ以テ其停止ヲ要請セシメ解釋ノトキモ亦同シク致サセ然ルヘキヤ

指令 十九年七月二十九日  
伺ノ趣左ノ通り相心得ヘシ

- 第一項 第三項 第七項 第八項 第九項 伺ノ通り
- 第二項 後段伺ノ通り

第四項 未拂ノ元利賦金ニシテ其拂渡スヘキ年ノ翌年ヨリ五箇年ヲ經過スルモノハ日本銀行ヨリ其廳ヘ報告スヘキニヨリ客歳<sup>三</sup>當省第八號及ヒ本年<sup>一</sup>當省第二號達ニ據リ取扱儀ト心得ヘシ

但本文ノ報告中豫テ難受取事由ヲ認可シタル分有之トキハ其旨同銀行ヘ報告スヘシ

第五項 第四項前段ノ報告ナキモノハ伺ノ通り  
第六項 前段ハ伺ノ通り後段七箇月經過發見セサルトキハ其旨取扱店ヘ報告シ拂渡方取扱ハシムヘシ  
但利賦金拂渡後發見シタル利賦札ハ當省ヘ還納スヘシ

第十一類 租稅貨紙幣公債區町村費

●當籤公債證書ノ件ニ付群馬縣ヨリ大藏省ヘ伺 十九年八月六日 (十九年八月十八日官報)

記名當籤公債證書ハ從來元金ト交換買還納ノ月ヲ以所轄高ヲ減額致來リ候處本年十一月一日以後元利賦金拂渡方ハ日本銀行又ハ代理店ニ於テ取扱候儀ニ付當籤證書ハ其當籤ノ月ヲ以テ所轄高ヲ減額スル儀ト相心得然ルヘキヤ  
指令 十九年八月十四日

伺ノ趣本年七月三十一日官報ヘ掲載滋賀縣ヨリ當省第三十號訓令ニ關スル伺第四項ニ對シ指令ノ趣ニ據リ日本銀行ヨリ未拂ノ報告ヲ得サルモノハ所轄高ノ減少ニ立ル儀ト相心得ヘキ事

●諸記名公債元利賦金支拂方取扱順序ノ件ニ付滋賀縣ヨリ大藏省ヘ伺指令追加 十九年九月廿四日 (十九年九月十七日官報)

本年七月二十九日付第四七〇八號ヲ以テ指令候訓令第三十號ニ關スル伺指令中第七項第八項ヘ左ノ但書ヲ追加ス  
但日本銀行本店ヘノ報告ヲ要セス

第五十一 諸公債證書亡失

○亡失ノ諸公債證書發見ノ節復手ノ手續及該證書引上處分方 十四年十二月十五日 大藏省第七十五號府廳ヘ達  
諸公債證書ノ内盜難紛失等届出當省ノ布達ヲ經タル證書他ノ管轄内ニ於テ發見當省ヘ届出候節記名證書ハ所轄廳(無記名ノ分ハ最前届出ノ廳)ヘ直ニ右發見ノ次第明細ニ通知シ該證書ヲシテ記名者(無記名證書ハ所有者)ニ復手ノ手續可取計儀ト相心得此旨相達候事

但記名證書ハ成規ノ七ヶ月ヲ經過シテリ證書ヲ記名者ヘ交付後ニ發見ノ分ハ直ニ警察官ヘ通告シ他管轄ノ證書ナレバ該證書引上ノ處分ニ可及儀ト相心得候事

○公債證書亡失ニ關スル取扱手續ヲ定ム 十七年四月二十二日 大藏省第二十三號府廳ヘ達

凡公債證書亡失ニ關スル告示ハ急遽ヲ要スルモノニ付本年四月第四十八號告示ニ據リ亡失ノ届出アル片其取扱手續左ノ通之ヲ定ム

公債證書亡失ニ關スル取扱手續

- 第一條 他管轄所轄ノ證書亡失ノ届出アル片ハ本管轄所轄ノ證書同一ノ取扱ヲ以テ該届出ヲ受理シ其旨速ニ管内ヘ告示シ詳細書ヲ以テ同時ニ大藏省ヘ届出且證書所轄廳ヘ通知スヘシ
- 第二條 前條ノ場合ニ在リテ證書所轄廳ヨリ亡失地ノ管轄ヘ證書ノ送達書已ニ到達シアレハ所持人ノ届書ヲ該送達書ニ照シ第一條ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第三條 證書所轄廳ノ送達書未タ亡失地ノ管轄ヘ到達セスシテ證書ノ種類記號番號金高枚數及ヒ記名等證明シ難キ片ハ届出人ヨリ實際取引授受ノ證據物或ハ手記等ノ如キ書類ヲ提出セシメ左ニ掲載スル各項ニ據リテ篤ト取糾シ相違ナキモノト認定シ得ル證據アルモノハ第一條ノ手續ヲ爲スヘシ
- 一 證書ノ所轄廳
- 二 證書ノ種類記號番號金高枚數
- 三 前記名所有者ノ氏名族籍住所
- 四 證據物等ニ關スル取引授受ノ證據物若シクハ證據物無之トキハ其年月日並授受取引ノ場所及ヒ原由
- 五 利賦札被斷現金交換濟之分何年何月迄リ迄ノ分界
- 第四條 證書所轄廳ヘ往復セサレハ證書ノ種類記號番號金高枚數及ヒ記名等證明シ難キ片ハ直ニ證書所轄廳ヘ照會シ確報ヲ得テ第一條ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第五條 無記名公債證書亡失シタル片モ亦第一條ノ如ク管内ヘ告示ヲ爲シ大藏省ヘ届出ヘシ

右相達候事

第五十二 中山道鐵道公債

○中山道鐵道敷設ヲ廢シ工事ヲ東海道ニ起シ中山道鐵道敷設ノ爲メニ募集ノ公債殘額ハ東海道鐵道工事ニ使用ス 十九年七月十九日 閣令第二十四號

中山道鐵道工事既ニ前後數里ノ間竣功ヲ告ケ漸ク其中部ニ着手セントスルニ當リ之カ實測ヲ經ルニ其地形タル峻峻崎嶇ニシテ之ヲ東海道ノ平夷ニ比スレハ帝ニ迂路ヲ取ルノ不利アルノミナラス其工費ノ如キモ自ラ多キヲ加ヘ隨テ其功ノ期亦大ク遲速ノ差アルヲ發見シタル旨別紙甲乙號ノ通鐵道局長官ヨリ具狀シタルヲ以テ今般中山道鐵道敷設ヲ廢シ更ニ工事ヲ東海道ニ起スニ決定ス依テ明治十六年十二月第四十七號布告ノ中山道鐵道敷設ノ爲メ募集シタル公債ノ現在殘額ハ轉シテ之ヲ東海道鐵道工事ニ使用スヘシ 甲號

中山道鐵道ノ儀ニ付上申

中山道鐵道敷設ノ令出シヨリ其建築工事ノ順序ヲ經畫シ之ヲ東西二部ニ分チ高崎大垣ノ兩端ヨリ相進シテ中央ニ會シ速カニ之ヲ聯絡セントス乃チ尾ノ半田港ニ一線ヲ布設シテ資材運搬ノ便ヲ海運ニ藉リ進シテ名古屋ニ出テ又更ニ越ノ直江津ニ着手シ工事緊々トシテ大ニ進ミ今將サニ其中部ニ着手セントスルニ先チ其實測ヲ竣リ別紙圖面ノ線路ヲ得タリ而シテ其經由スヘキ中部ノ地形タル峻峻崎嶇坑谷ヲ填メ山嶽ヲ截ル等非常ノ工事前後相踵ク且數里ノ洞道穿鑿ヲ要メルモノ亦少シトセス而シテ其成功ノ期ヲ計ルニ風雨災害等工事ノ停頓ヲ算セシテ今後猶七八年ヲ要スヘシ若シ其日子ヲ除却セハ更ニ多キヲ加ヘン既ニシテ其成功ニ及ヒ車輛ヲ通スルニ至テハ線路ノ傾斜峻急分ノ一トス而ルニ本道ハ三十分ノ一ナル爲メニ保全修理ノ費用必ス意想ノ外ニ超過スルモノアラン駛走ノ度モ亦必ス遲緩ナルヘシ嘗テ試ミニ之ヲ測算スルニ或ハ從來海運漁船ノ速度ニ及ハサルモノアラン因果シテ然ラハ實ニ勞シテ功ナク鐵道敷設ノ常理ニ背クモノト謂フヘシ 本線路ハ群峯疊嶂崎嶇峻峭ニシテ工事ノ容易ナラサルハ始メヨリ之ヲ知ルト雖トモ今其實測ヲ得ルニ及ヒ傾斜ノ峻急

ナル實ニ度外ニ出ツ若シ其レ之ヲ普通ノ度ニ置カンカ線路隧道亦隨テ之ヲ延長セサルヲ得ス是皆當初意料ノ及ハサル所タリ抑中山道ニ鐵道ヲ布設セント欲スル目的ハ蓋主我ノ大ナル者アランカ然レトモ先ツ東京ト京阪間トノ聯絡ヲ通スルニ在リ而シテ沿道從來偏僻ノ地ニ運輸ノ便ヲ與ヘ兼チ于荒蕪ヲ墾キ物産ヲ繁殖セントスルニ在リ今測量ノ實蹟ニ據リ之ヲ熟考スルニ線路ノ經由スル所山腹ヲ洞シテ行クニ非レハ必ス窮谷ニ沿フテ走ル之ヲ概言スレハ全部隧道ト稱スルモ亦可ナリ加游其土地タル磽确不毛ニシテ到處窮鄉僻邑ナラサルハナク接近ノ村落ニタモ相往來交通スルノ便少ナク地形ノ險工事ノ難キハ固ヨリ避ケサル所ナリト雖モ莫大ノ鉅額ヲ費ヤシテ之ヲ經營スルモ竟ニ徒勞ニ歸シ曾テ其功用ヲ見ス併セテ鐵道ノ價格ヲ失フ之ヲ譬フルニ墾者ニ鐵鼓ヲ與ヘ墾者ニ利器ヲ借スト異ナルナシ況ンヤ殖産開墾ノ業固ヨリ言ヲ待タサル所ナリ然ラハ則チ東西兩京ノ聯絡ヲ通スルハ何レノ日ニ在ルヲ知ラズ是ヲ以テ其目的ヲ達スルカ爲メニ之ニ代用スヘキモノヲ求ムレハ則チ東海道ニ出テサル可ラス即チ東海道ニ出ルモノトセンカ其實況ヲ一應具陳セサルヘカラス嘗テ雇外國工師ノ實地調査セシ報告書及ヒ墾者局員ヲ派出シテ調査セシメタルモノ等ヲ蒐集シテ之ヲ參互考覈スルニ西部ハ既ニ名古屋ニ達セリ今東京ヨリ名古屋ニ達スルトキハ之ヲ中山道ニ比スレハ凡ソ二十哩ヲ短縮シ而シテ其線路ノ地勢ハ函嶺ノ險峻ナル天龍富士大井等ノ巨川アリト雖トモ之ヲ除クノ外ハ概チ平坦ニシテ中山道ニ比較スレハ工事ノ難易過カニ別ナルヲ知ル又其經費ノ點ニ至テ中山道ハ尚一千五百萬圓ヲ要セサルヘカラス東海道ハ壹千萬圓ニ上ラスシテ中山道ヨリ長キ線路ヲ成就スルヲ得ヘク其比較上ニ於テ孰レモ豫算外ニ出スシテ成功ヲ奏スヘシ唯恐ル中山道建築成功ノ期ハ今後七八年ヲ要シ費額ハ壹千五百萬圓ヲ用ヒテ線路僅カニ七八十里ヲ得其運輸ヲ通スルニ至リ線路曲折上下傾斜ノ度峻急隨テ速力モ亦遲緩ニシテ東京名古屋間二十時ヲ費サン東海道ハ數月其半ハ要セス費額モ亦寡少ニシテ線路始ント百里ヲ得ヘク傾斜緩慢速力充分ナルヲ以テ東京名古屋ノ間十五時以內ニ達スルヲ得ン其利害得失如斯明瞭ナリ是ヲ以テ目下中山道中部ノ起工ニ臨ミ危懼遲延頗ル躊躇セサルヲ得ス若シ將タ費用ニ關セス數月ヲ惜マス得失利害ヲ省ミス斷行直前必當初ノ目的ヲ貫徹セントスルハ爲サハルノミ能ハサルニ非ス但恐ル世ノ識者ヲシテ之ヲ觀セシメハ其レ之ヲ得タリト爲ス乎將タ失フト爲サン乎是其ノ最モ恐ルハ所ナリ願フニ中山道工事着手

以來殆ント二年半其間許多ノ勞費ヲ累テ今將サニ漸ク緒ニ就ントスルニ及ンテ其方向ヲ變更セサルヲ得サルニ至ルモノハ私心竊カニ懍カラサル所アリト雖トモ其得失ノ係ル所遠且大ナルヲ以テ敢テ衷情ヲ吐露シテ閣下ヲ請ハントス乃チ御參考ノ爲メニ各事項ヲ舉ケテ兩道ヲ比較シ別表ヲ調製シテ之ヲ附呈ス

右比較上ニ於テ線路建築ノ難易ヲ考フレハ一目シテ東海道ノ優レルヲ知ルヘシ然リト雖トモ兩道採擇ノ如キハ本局ノ奉承スル所ニ非レハ敢テ擬議セス但中山道貨檢ノ結果ヲ上申スルニ當リ其經路ノ險惡ト布設期限ノ彌久ナルトハ豫想外ニ出ルヲ以テ黙止ニ忍ヒス兩道事情ヲ具シテ御審察ノ料ニ供シ此段上申候也

乙號

鐵道建設費額概算調書

一金貳千萬圓

中山道鐵道公債ヲ以テ募集セラレタル資金

內

金四百貳拾七萬圓

大垣半田高崎橫川及直江津線建設ノタメ額收シタル金額

差引殘額

金千五百七拾三萬圓

額收未滿ニシテ大藏省ニ現在スル金額

內

金五百七拾三萬圓

金千萬圓

大垣半田上田直江津及橫川線ノ殘工事ニ充ツヘキ金額

但東海道線建設費概算高

右中山道線資金ノ内譯列記ノ如ク大垣半田高崎橫川及直江津線ノタメニ既ニ本月迄ニ金四百貳拾七萬圓ヲ領收セリ今此金額ヲ資金貳千萬圓ヨリ扣除スレハ金一千五百七拾三萬圓ノ殘額トス而ルニ本線ノ事業高崎橫川間ハ既ニ竣功シ大垣半田間ハ八ノ八九ヲ竣功セリ目下直江津上田及横川以西ヲ以テ重ナル殘工事ノ在ル所トス因テ其費額ヲ概算スル

ニ凡ソ金五百萬圓餘ヲ要スヘシ而シテ猶壹千萬圓餘ヲ殘ス資金支用ノ内譯前記ノ如シ因テ之ヲ考フルニ今新ニ東海道線ヲ起工シ其全部竣功ニ至ルマテノ費用ヲ概算スルニ壹千萬圓ヲ充テハ以テ足レトス而シテ五百七拾三萬圓ヲ以テ專ラ上田直江津及横川以西ノ殘工事ニ充テハ萬々不足ヲ告グルノ慮無ルヘシ乃チ全額貳千萬圓ヲ折半シ壹千萬圓ヲ以テ東海道線ニ充テ工事ノ緩急ヲ量リ其宜キニ從ヒ漸次歩ヲ進メハ之レカ爲メニ別ニ資本ヲ募集スルヲ要セスシテ餘裕アルモ不足ヲ生セサルヘキハ疑ヲ容レサル所ナリ

第五十三 海軍公債證書條例 十九年六月十五日布告

朕海軍公債證書條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治十九年六月十二日

内閣總理大臣伯耆伊藤博文  
大藏大臣伯耆松方正義

勅令第四十七號

海軍公債證書條例

- 第一條 海軍公債證書ハ海軍軍備ノ費途ニ充ツル爲メ壹千七百萬圓ヲ限リ三箇年間ニ漸次之ヲ發行スルモノトス
- 第二條 此公債ノ利子ハ一箇年百分ノ五トス
- 第三條 此公債ノ元金ハ證書發行ノ年ヨリ五箇年掲置其翌年ヨリ向三十箇年間ニ抽籤ヲ以テ之ヲ償還ス

第四條 此公債證書發行ノ價格ハ大藏大臣之ヲ定ム

第五條 此公債證書ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ム

第六條 此公債證書引受申込高毎期需用ノ高ニ超過スルトキハ其申込價格ノ高キモノヨリ順次證書ヲ交付シ需用額ニ滿ツルニ至テ之ヲ止ム

第七條 此公債ノ利子ハ毎年五月十一月ニ拂渡スモノトス

第八條 此公債證書抽籤ノ時ハ大藏省官吏三名以上會計検査院官吏二名以上及ヒ日本銀行役員二名以上立會ノ上之ヲ執行ス但此公債證書額面拾萬圓以上ヲ有スルモノハ抽籤ノ席ニ臨ムコトヲ得

當籤證書ノ記號番號種類金高等ハ大藏大臣之ヲ告示ス

第九條 此條例外ノ事項ハ總テ明治十六年十二月第四十七號布告中山道鐵道公債證書條例ニ依ル

○海軍公債證書發行手續 十九年六月十六日  
大藏省令第二十二號  
本年六月十二日勅令第四十七號海軍公債證書條例ニ據リ額面五百萬圓ノ證書ヲ發行シ其手續左ノ通相定ム

海軍公債證書發行手續

第一條 發行スヘキ證書ノ種類ハ大藏省ノ都合ヲ以テ交付スルモノトス

第二條 證書ノ發行價格ハ額面金高百圓ニ付金百圓トス

第三條 證書ノ引受ヲ望ムモノハ本年七月十日マテニ其引受クヘキ證書ノ金高及ヒ價格并ニ其住所姓名ヲ記シ日本銀行本支店又ハ代理店へ申込ムヘシ但代理店ノ名稱及ヒ場所ハ日本銀行ヨリ廣告セシムヘシ

第四條 證書引受ノモノハ證書額面高百圓ニ付金十圓宛保證金トシテ其申込ムヘキ銀行店へ拂込ムヘシ

第五條 日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テハ前條保證金ノ拂込アルトキハ領收證書ヲ交付スヘシ但此證書ハ賣買スルヲ得ス

第六條 大藏省ニ於テハ本年八月十日マテニ各申込人へ渡スヘキ證書ノ高ヲ定メ日本銀行ヨリ通知セシムルニ付其引受高ニ對スル金額ノ内保證金ヲ引去リタル跡金ノ第一回ハ來九月十五日ヨリ三十日マテ第二回ハ十一月十五日ヨリ三十日マテニ半額宛拂込ムヘシ

第七條 日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テハ前條ノ拂込アルトキハ假證書ヲ作り保證金受取證書及ヒ現金ト引換ニ之ヲ渡スヘシ但假證書ハ官府及ヒ日本銀行へ抵當ニ差スルヲ得ヘシト雖トモ各自ニ賣買スルヲ得ス

第八條 本證書ハ追テ日本銀行ヨリ假證書ト引換ニ各引受申込人へ交付セシムルモノトス

第九條 第六條ノ拂込金ヲ期日マテニ其申込店へ出金セサルトキハ第四條ノ保證金及ヒ第一回拂込金ハ當人ノ損失ニ歸セシメテ返付セサルモノトス

第十條 保證金受取證書又ハ假證書ヲ亡失シタルトキハ其證書ノ番號及ヒ所持人ノ住所姓名等ヲ記シ其申込店へ速ニ報告スヘシ

第十一條 前條ノ場合ニ於テハ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ本人ニ就キ保證金受取證書又ハ假證書亡失ノ手續ヲ證明セシメ且二人以上ノ證印アル證書ヲ以テ其事由ヲ保證セシメテ代リ證書ヲ渡シ舊證書ハ無効ノ旨新聞紙等ニテ廣告スヘシ

第十二條 保證金及ヒ拂込金高ニ對スル利子ハ一箇年百分ノ五ノ割ヲ以テ其拂込ノ日ニ從ヒ各月十五日前後ヲ以テ區別シ十五日以前ナレハ其下半年分ヨリ十六日以後ナレハ其翌月分ヨリ拂渡スモノトス

第十三條 條例第六條ニ據リ超過額減却ニ付差戻スヘキ保證金ニハ利子ヲ附セサルモノトス

第十四條 保證金及ヒ跡金ノ利子公債證書ニ附屬ノ利札額(半箇年分)ニ滿タサル利金ハ本證書交付ノ節拂渡スモノトス

第五十四 印紙類賣下賣捌規則

十九年六月八日 大藏省令第二十一號

印紙類賣下賣捌規則左ノ通相定メ來ル七月一日ヨリ施行ス

但從前ノ印紙類賣捌規程ハ同日ヨリ廢止ス

印紙類賣下賣捌規則

第一條 此規則ヲ以テ賣下又ハ賣捌ヲ爲スヘキ印紙類左ノ如シ

證券印紙 手形用紙共

烟草印紙

訴訟用印紙

賣藥印紙

第二條 印紙類ノ賣下ハ地方廳之ヲ管理シ郡區役所ヲシテ其手續ヲ爲サシムヘシ

第三條 印紙類ハ第五條第六條ニ依リ賣捌ノ許可ヲ得タル者ノ外賣下ヲ爲サルモノトス

第四條 北海道廳長官府知事縣令ハ其管内各郡區ノ實況ニ應シ印紙類賣捌所ノ配置方ヲ計

畫シ豫メ其員數ヲ定メ之ヲ大藏省ニ届出ヘシ

第五條 印紙類ノ賣捌ハ左ノ資格アリテ其郡區内ニ居住スル者ニ限り之ヲ許ス

一 陸軍海軍及ヒ官吏恩給令ニ依リテ傷痕ノ爲メ終身恩給ヲ受クル者

一 巡查看守給助例ニ依リテ傷痕ノ爲メ終身恩給ヲ受クル者

一 陸軍恩給令第二十一條第一項海軍恩給令第二十二條第一項官吏恩給令第十條ニ掲クル寡婦孤兒ニシテ扶助料ヲ受クル者

一 巡查看守給助例第二條第三項ニ掲クル寡婦孤兒ニシテ扶助料ヲ受クル者

第六條 第五條ノ資格アル出願者其郡區内印紙賣捌所ノ定數ニ滿タサルトキハ其郡區内ニ

居住シテ一般陸軍恩給令海軍恩給令官吏恩給令巡查看守給助例ニ依リ恩典ヲ受クル者ヲ以テ之ニ充ツ可シ

前項資格アル者ヲ以テスルモ猶定數ニ滿タサルトキハ二年以内ノ期限ヲ定メ一般人民ニ許可スルコトアルヘシ

第七條 烟草營業人若クハ其家族又ハ同居ノ者ニハ烟草印紙賣捌ヲ許可セス賣藥營業者請賣者行商者若クハ其家族又ハ同居ノ者ニハ賣藥印紙賣捌ヲ許可セサルモノトス

烟草稅則第三十九條賣藥印紙稅規則第八條訴訟用印紙規則第十一條證券印稅規則第二十五條ニ依リ處罰ヲ受ケタル者ニハ滿三年間印紙類ノ賣捌ヲ許可セサルモノトス

第八條 印紙類賣捌ノ許可ヲ得ント欲スル者ハ居住地ノ郡區役所ニ願出テ賣捌所ノ標札ヲ受ケ之ヲ戶外ニ掲出ス可シ

第九條 印紙類賣捌人改名又ハ同郡區内ニ轉居ノ節ハ其郡區役所ニ申出テ標札ノ訂正ヲ受クヘシ

但標札燒失毀損等ノ節ハ更ニ其下渡ヲ受クヘシ



第十條 印紙類ハ其代金上納ノ後之ヲ下渡ス可シ

但第五條第六條ノ受恩典者ニハ其代金五百圓マテハ公債證書ヲ抵當トナシ六箇月以内之レカ延納ヲ許スコトアル可シ

第十一條 印紙類ハ各一ト口ノ拂受高ニ從ヒ左ノ割引法ヲ以テ賣下ヲ爲ス可シ

拂受高一ト口 割引高

五百圓未滿 百分ノ七

五千圓未滿 百分ノ八

五千圓以上 百分ノ九

第十二條 印紙類ハ賣捌所ノ外ニ於テ一切賣捌クヲ得ス

第十三條 印紙類ハ必ス定價ヲ以テ賣捌クヘシ賣捌ノ外讓與貸與スルコトヲ許サス

第十四條 印紙類賣捌人ハ印紙受拂ノ帳簿ヲ調製シ印紙受拂ノ都度其種類員數及ヒ年月日ヲ記載スヘシ

但烟草印紙賣藥印紙ヲ賣捌タルキハ買受人ノ住所氏名ヲモ記載シ置クヘシ

第十五條 印紙類水火盜難等ノ爲メニ亡失スルモ其代金ノ返付ヲ請求スルコトヲ得ス

第十六條 印紙類賣捌人所持ノ印紙ニシテ損傷又ハ汚染シタルモノハ十錢以上取纏メタル

モノニ限り左ノ割合ヲ以テ之ヲ交換スヘシ

損傷 汚染 印紙壹圓ニ對シ 交換下付印紙八十錢

第十七條 印紙類賣捌ノ許可ヲ得タル者左ノ事項ニ該ル時ハ賣捌殘餘ノ印紙類及ヒ賣捌標札ヲ返納ス可シ此場合ニ於テハ返納印紙面稅額十分ノ一ヲ減シタル代價ヲ以テ之ヲ買戻スヘシ

一 廢業又ハ二箇月以上休業スル時

一 受恩典者ニシテ恩給ヲ受クルノ權消絶シ又ハ恩給停止ヲ受ケタル時

一 他郡區ニ移住スル時

一 賣捌ヲ禁止セラレタル時

第十八條 烟草印紙賣藥印紙ハ他府縣居住ノ者ニ賣渡スコトヲ許サス

第十九條 印紙類賣捌ノ許可ヲ得タル者ハ烟草印紙賣捌ニ關スル業務ヲ烟草營業者若クハ其家族又ハ同居ノ者ニ委託スルコトヲ得ス賣藥印紙ノ賣捌ニ關スル業務ヲ賣藥營業者請賣者行商者若クハ其家族又ハ同居ノ者ニ委託スルコトヲ得ス

第二十條 北海道廳長官府知事縣令ハ隨時主任官ヲ派遣シ印紙類賣捌ノ實況及ヒ現在高等ヲ檢査セシムヘシ

第二十一條 此規則ニ違背シタル者アル時ハ其情狀ニ依リ北海道廳長官府知事縣令ニ於テ其賣捌方ヲ禁止スルコトアル可シ

○印紙類賣下賣捌規則取扱手續

十九年六月十二日

大藏省訓令第二十二號北海道廳府廳(沖繩縣ヲ除ク) 明治十九年六月當省令第二十一號印紙類賣下賣捌規則取扱手續左ノ通心得ヘシ

印紙類賣下賣捌規則取扱手續

- 第一項 印紙類賣捌所ノ配置ヲ計畫スルニハ從來賣捌ノ景況ニ依リ且土地ノ便否商況等ヲ參酌シ總ヘテ印紙ノ賣買ニ差支ナキヲ期シテ之ヲ定ムヘシ
- 第二項 印紙類ハ需用ノ景況ト現在高トヲ參酌シ凡六箇月分賣下ノ見込相立第一號離形ニ倣ヒ主稅局ニ請求スヘシ
- 第三項 印紙類ノ受拂ハ主任官二名以上ノ立會ヲ要スルモノトス
- 第四項 印紙類到達ノ節ハ日數五日以内第二號離形ニ倣ヒ到達ノ月日ヲ記載セシ領收證書ヲ主稅局ニ送付スヘシ
- 第五項 印紙類賣捌所ノ標札ハ第三號離形ニ倣ヒ製下付スヘシ但二種以上賣捌クモノハ各種類ヲ一枚ニ併記スルモ妨ケナシ
- 第六項 他府縣ヨリ轉籍又ハ寄留シタル者若クハ他郡區ヨリ轉居シタル者ニシテ印紙類ノ賣捌ヲ請願スル時ハ規則第七條二項ノ年限中ニ係ラサル者ナルヤ否及第二十一條ニ據リ禁止セラレタルコトナキヤ否ヲ詳查スヘシ
- 第七項 印紙類賣捌人員増減ハ一箇年ヲ二期ニ分チ第四號離形ニ倣ヒ十二月末日ノ現在員ヲ取調ヘ七月二十日限リ其總立主稅局ヘ送付スヘシ
- 第八項 印紙類賣下賣捌規則第十條但書ニ據リ印紙代金ノ延納ヲ許可スル時ハ其抵當トナスヘキ公債證券ノ價格ハ明治十三年當省七第一號達ニ據テ之ヲ定ムヘシ
- 第九項 但代金延納ヲ許可シタル時ハ第五號離形ニ倣ヒ賣捌人ヨリ上納ノ受書ヲ差出サシムヘシ
- 第十項 規則第十條但書ニ依リ延納ノ代金其收入方翌年度ニ亘ル者ハ現收入年度ノ稅表ニ編入スヘシ
- 第十項 印紙類ヲ運送會社ニ運搬セシメタル分ハ到達ノ節社員等爲立會檢査ヲ遂ケ若シ損傷汚染或ハ謄謄割符等ニテ全ク使用シ得ヘカガサルモノヲ發見シタル時ハ社員ノ手續書ヲ徵シ之ニ其枚數圖書ヲ添付シ處分方ヲ稟議スヘシ但天災地變等ニ罹リタルモノハ本項手續書ニ社員外二名以上ノ證明ヲ爲サシムヘシ
- 第十一項 印紙類莖一封中ノ員數ニ過不足ヲ生シタルモノアル時ハ其封紙帶紙ニ立會官吏ノ姓名書ヲ添付シ處分方ヲ稟議スヘシ

- 第十二項 印紙類ノ受拂ヲ爲シタル時ハ主任ニ於テ即日受拂及ヒ發高ヲ記載シ現在高ト對照スヘシ
- 第十三項 前項ノ場合ニ於テ主任官交代スル時ハ帳簿ト現在高トヲ對照シ交渡ヲナスヘシ
- 第十四項 印紙類賣下賣捌規則第十七條ニ依リ返納セシ印紙(代金延納ニ係ルモノヲ除ク)ハ其種類(長角形ヲ)枚數及代金等詳細仕譯書ヲ添付シ其時々代金下付方ヲ稟議スヘシ
- 第十五項 但代金納付ト印紙返納ト其時日年度ヲ異ニスル時ハ代金納入年度ノ區分ヲ立テ之ヲ稟申スヘシ
- 第十五項 北海道廳長官府知事縣令ハ隨時各部區役所ニ主任官ヲ派遣シ印紙類受拂ノ實況及ヒ現在高等ヲ精査セシムヘシ

(第一號離形乃至第五號離形略之)

賣藥印紙交換規則ヲ定ム 十九年七月七日 大藏省令第二十三號

賣藥印紙交換規則左ノ通相定ム

賣藥印紙交換規則

- 第一條 賣藥營業人所持ノ賣藥中性効ヲ失シタルモノヲ廢棄センカ爲メ既貼ノ印紙不用ニ屬スル場合ニ於テ一人分既貼印紙一張一ト口拾圓以上ハ其額出テニ由リ左ノ割合ヲ以テ新印紙ト交換スヘシ
  - 一 既貼印紙拾圓以上壹圓ニ付 交換新印紙八拾錢
  - 一 貳拾圓以上壹圓ニ付 同 八拾五錢
- 第二條 賣藥ノ裝置又ハ印紙ノ貼用方完全ナラサルモノ及ヒ印紙ノ汚染毀傷シタルモノハ交換スルヲ得ス
- 第三條 賣藥印紙ノ交換ヲ願出ツル者ハ賣藥ノ箇數及印紙各種枚數ノ仕譯ヲ爲シタル書面ヲ添ヘ其賣藥ヲ所在府縣廳ニ差出シ檢査ヲ受ヘシ
- 第四條 府縣廳ハ其賣藥ヲ檢査シ既貼ノ印紙ニ消印シ又ハ之ヲ切斷スルヲ以テ受取消ノ證ト爲シ其賣藥ヲ下戻シ同時ニ新印紙ヲ下付スヘシ

第十一類 租稅貨紙幣公債區町村費

○印紙類賣下代金不納ノ者代金納付ノ分手數料ヲ給セス納付金減額  
明治十七年五月三十一日以前ニ係ル印紙類賣下代金延納ヲ許可セシ者及身代限ノ處分ヲ受ケ賣下  
代金不納ノ者爾後右代金ヲ納付スル分ハ別ニ賣捌手數料ヲ給セス納付金ノ内ヨリ該手數料相當ノ金額ヲ減スヘシ  
大藏省令第二十九號

●同指令

●犯則等ニ依リ沒收ノ物件取扱方石川縣ヨリ大藏省ヘ伺  
十九年三月十九日 (十九年四月十五日官報)

裁判所ニ於テ犯罪等ニ依リ沒收シタル物件ハ引續キ便宜賣却ノ儀御達有之ニ就テハ該物件ノ内取扱方疑義ノ廉左ニ  
一沒收諸印紙ノ回移ヲ受ケタル片該印紙ハ本廳ノ受ニ廻込ムヘキヤ  
一前項印紙ノ内烟草印紙ニシテ兩端ヲ糺合セタルノミニシテ消印等ナキモノト雖一旦要置ノ用ニ供シタルモノハ  
燒却スヘキヤ

指令 十九年四月一日

伺ノ趣兩項共不取締無之儀燒却可取計申

●烟草印紙ノ件ニ付青森縣ヨリ大藏省主稅局ヘ照會  
十九年二月十五日 (十九年三月十一日官報)

印紙賣捌人ニ於テ會テ印紙排受ケ置キタルニ烟草製造人廢業セルヲ以テ後來賣捌ノ途ナシ然ルニ此ノ賣捌人ハ他ノ  
印紙モ共ニ賣捌クモノナレハ廢業セスシテ其ノ賣捌ノ途ナキ烟草印紙ノミノ買上ヲ請願スルモノアリ是等ハ已ムヲ  
得サルニ出ツルモノナレハ印紙賣捌人廢業ニ準シ聽届クヘキヤ  
烟草印紙發行ノ際高價ノ印紙ヲ排受ケタルニ今日ニ至ルモ尚一印紙モ賣捌カス且後來賣捌ノ目途ナキヨリ他ノ同小  
印紙ト交換ノ儀出願スルモノアリ是ハ無論聽届クヘキヤ

回答 十九年二月十八日

第一項第二項聽届苦シカラス尤第一項ノ者ハ其ノ烟草印紙看板ヲ返納セシムヘシ

●需用ノ見込ナキ煙草印紙返納方ノ件ニ付新潟縣ヨリ大藏省ヘ伺  
十九年三月九日 (十九年五月七日官報)

煙草印紙明治十六年中改正以降各種御渡ノ内爾後今日ニ至ル迄需用ノ見込ナキ分六百十二萬千八百三十五枚別紙仕  
譯書ノ返納致シタシ (別紙仕譯書ハ略ス)

指令 十九年四月二十九日

伺ノ趣附届候申  
但運搬荷造等ノ手續ハ主稅局ヨリ更ニ通達スヘシ

●損傷印紙交換セシモノ處分方ノ件ニ付千葉縣ヨリ大藏省主稅局ヘ照會  
十九年八月十六日 (十九年八月廿四日官報)

本年御省令第二十一號印紙類賣下賣捌規則第十六條ニ損傷汚染ノ印紙ハ拾錢以上取纏メタルモノニ限リ交換セシム  
ヘシト之アリ然ルニ訓令第二十二號同則取扱手續中ニ其交換セシ印紙ノ處分法ヲ示サレサルモ即從前ノ振合ニ倣ヒ  
毎半箇年分取纏メ主稅局ヘ送付スヘキモノヤ

回答 十九年八月二十日

交換ニ係ル損傷汚染印紙處分ノ儀御意見ノ通

第五十五 諸貸付

○諸貸付金整理順序  
十九年四月二十四日  
大藏省訓令第五號北海道廳府縣  
諸貸付金整理方ノ儀十九年度以後左ノ通心得ヘシ  
但書式ハ別ニ送付ス (書式略ス)

諸貸付金整理順序

- 第一條 諸貸付金ノ徵收ハ明治十九年三月三號令第三號成立後出納規則ニ準據スルモノトス
- 第二條 諸貸付金ヲ徵收スルニ付テハ明治十九年三月三號令第四號成立後取扱順序第十六條第十七條ニ據ル
- 第三條 諸貸付金ハ左ニ掲クル科目ニ分ツテ整理スヘシ
  - 一 舊藩貸 従前ノ舊藩貸ヲ云フ
  - 二 勸業貸 従前ノ勸業貸ヲ云フ
  - 三 繰替貸 豫備金繰替金、舊島田組貸付金等ヲ云フ
  - 四 雜種貸 従前ノ救助貸、雜貸、官方貸、外國買代價、石高貸、并ニ從來雜收入トシテ納入スヘキモノ、内諸過渡金諸拂下代諸貸、下料其他諸貸、入費償却金等ノ類ニシテ年月賦若シクハ證據ノ後上納スヘキモノ、及身代限ノ處分ヲ受ケテ身代持直次第上納スヘキモノヲ云フ
- 第四條 諸貸付金返納期限ニ際シ困難ノ事情等ニ依リ猶豫ヲ請フ場合ニ於テハ各廳限リ六箇月以内ノ延期ヲ與フルコトヲ得
- 第五條 左ニ掲クル諸件ハ處分ヲ了シタル後其事由ヲ詳記シ計算書ヲ付シ毎一箇月取纏メ翌月五日限當省へ報告スヘシ
  - 一 年賦返納金ヲ繰上ケ又ハ返納年度未定ノ金額ヲ一時ニ上納ヲ願出タルトキ
  - 二 舊藩貸付金ニ係ル年賦返納金ヲ引引ヲ以テ一時ニ返納ヲ願出タルトキ
  - 但勸業貸繰替貸及雜種貸ト雖モ別段ノ伺定アルモノハ本項ニ據ル
  - 三 負債主ノ移轉ニ因リ他ノ管廳へ引繼キ若シクハ之ヲ引受タルトキ
  - 四 負債主失踪シタルトキ
  - 五 負債主身代限ノ處分ヲ受ケタルトキ
  - 六 負債主死亡若シクハ退隱等ニテ相續人へ負債ノ義務移轉シタルトキ
- 第六條 左ニ掲クル諸件ハ事由ヲ詳悉シ處分ノ見込ヲ具シ經同ノ上處理スヘシ

- 一 諸貸付金返納ノ年月賦ヲ變換シ若シクハ負債ノ義務他人へ移轉ヲ願出タルトキ
  - 二 諸貸付金ニ對スル抵當品ノ増減交換ヲ願出タルトキ
  - 三 諸貸付金ノ棄捐又ハ利子ノ減却或ハ免除ニ係ルモノ
  - 第七條 諸貸付返納金ハ毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄ニ現收シタル額ヲ以テ一週年度ノ決算トス
  - 第八條 第五條第二項ノ利引額第三項ノ引繼額又ハ引受額ハ報告ノ月ニ於テ加除スヘシ
  - 第九條 第五條第四項ニ係ル未納金額ハ報告ノ月ニ於テ返納年度未定ノ部へ組替其三十六箇月經過ノ後尚徵收ノ途ナキトキハ雜種貸中還納未定ノ部へ組替ユヘシ
  - 第十條 第五條第五項ニ係ル分配金ハ相當ノ科目へ收納シ未納金額ハ報告ノ月ニ於テ雜種貸中還納未定ノ部へ組替ユヘシ
  - 第十一條 第六條第一項返納金ノ年月賦ヲ變換シ又ハ第三項ノ棄捐等ニ係ルモノハ指令日附ノ月ニ於テ加除スヘシ
  - 第十二條 左ニ掲クル諸件ハ其期限後十五日以内ニ該廳ヲ發シ當省へ送付スヘシ
    - 一 毎年四月一日ノ現狀ニ依リ諸貸付未納金報告書(書式第一號)及ヒ返納年度未定内譯表(書式第二號)ヲ調製スル
    - 二 前項報告書ニ對シ其増減ヲ毎年八月一日十二月一日ノ現狀ニ依リ増減報告表(書式第三號)ヲ調製スル
    - 三 毎月納済ノ金額ハ概入取扱順序第二十五條ニ準シ概入報告書ヲ調製スル
    - 四 前項ノ報告書ト同時ニ勸業貸及繰替貸ノ收入濟任譯書(書式第四號)ヲ調製スル
    - 五 第四條ニ依リ諸貸付金ノ返納期限ヲ六箇月以内延期シタルトキハ毎月之レカ報告書(書式第五號)ヲ調製スル
  - 第十三條 此整理順序ニ對シ従前ノ當省違中矛盾スル廉ハ廢止ス
- 諸貸付金徵收取扱順序 十九年五月二十日 農商務省訓令第四號北海道廳府縣 當省諸貸付金返納取扱方ノ儀十九年度以後左ノ通心得ヘシ

諸貸付金徴収取扱順序

- 第一條 當省貸下金ノ徴収ハ明治十九年<sup>四</sup>大藏省訓令第五號諸貸付金整理順序ニ準據スルモノトス
- 第二條 諸貸下金ヲ徴収スルニ付テハ豫テ定ムル處ノ返納期限ニ先タチ各處ニ於テ隨時納期告知書ヲ發スヘシ
- 第三條 整理順序第四條第五條第六條ノ處分ニ係ルモノハ其時々當省ヘ伺出ヘシ
- 第四條 毎月納済ノ金額ハ整理順序第十二條第三項第四項ニ掲クル報告書及仕譯書ヲ調製シ翌月十日迄ニ當省ヘ送附スヘシ其第一項第二項第五項ニ係ル調書ハ差出ニ及ハス

第十二類 軍事

第五十六 徴發令

○徴發事務條例中ヲ改正刪除ス 十九年五月十四日 閣令第十一號  
 明治十五年<sup>十二</sup>月 第二十六號布達徴發事務條例中左ノ通改正刪除シ同條例附錄第三號第五號及第七號雛形ヲ改正シ第四號雛形ヲ廢ス

第二十一條 郡區長ハ附錄第三號一ノ雛形ニ依リ徴發物件表ヲ製シ之ヲ府縣廳ニ差出スヘシ

第二十二條 刪除

第二十三條 刪除

第二十四條 府知事縣令ハ附錄第三號二三ノ雛形ニ依リ徴發物件表ヲ製シ郡區長ヨリ差出シタル表ト共ニ毎年三月三十一日限リ陸軍省ヘ送付スヘシ

第二十五條 府知事縣令ハ附錄第五號一二ノ雛形ニ依リ船舶汽船表ヲ製シ毎年三月三十一日限リ海軍省ヘ送付スヘシ但其管内ニ於テ新タニ構造シ若クハ買入タル汽船アル時ハ第五號三ノ雛形ニ依リ汽船表ヲ製シ其時々同省ヘ送付スヘシ

(附錄表略之)

第五十七 徴兵令

○陸軍醫官徴兵検査規則ヲ定ム 十七年十月十日 陸軍省甲第四十一號府縣(沖繩札幌根室ノ三縣ヲ除ク)ヘ達  
 陸軍醫官徴兵検査規則左ノ通相定候條爲心得此旨相達候事  
 陸軍醫官徴兵検査規則

第十二類 軍事

- 第一條 徵兵検査ノ要ハ身体壯健精神完全ニシテ定年間ノ役ニ堪ユヘキ者ト疾病畸形アリテ之ニ堪ユカラサル者トヲ區別スルニアリ而シテ其服役ニ堪ユキ者ヲ以テ合格トシ之ニ堪ユカラサル者ヲ以テ不合格トス
- 第二條 曾テ重病ニ罹リシモ再發ノ患ナキ者又現ニ輕患徵恙ヲ帯ルモ直ニ兵ニ編入シテ害ナキ者或ハ數日月ノ治療ヲ加レハ快復ニ至ル目途アル者皆之ヲ合格トスヘシ
- 第三條 疾病傷損ニ論ナク常備年期内轉歸豫定シ難キ者或ハ醫治ス可カラサル疾病及畸形ノ者皆之ヲ不合格トスヘシ
- 第四條 身体ノ發育未タ至ラズニ至ラサル者或ハ急性及慢性病其他外傷或ハ病後遺慮復セサル者等ニシテ常備年期内恢復ノ目途アル者ハ皆之ヲ翌年ノ検査ニ廻ス可キ者トス
- 第五條 發作間歇ノ病或ハ晝間確定シ難キ病其他自覺症ノ如キ確實ノ徵候ヲ見サルモノハ之ヲ採ルモ妨ナシ
- 第六條 疾病ノ輕重確實ヲ診定センカ爲メニ綿密ノ検査ヲ遂ケ學術上諸種ノ法方ヲ施スヲ得ヘシ
- 第七條 前諸條ニ基キ身体ヲ検査シ其良否ヲ判決スヘキモ殊ニ視官聽官ノ機能及胸廓ノ構造ハ左ノ格ニ適スル者ヲ撰フヘシ
- 視官ノ機能ハ二十尺ノ距離ニ於テ「スチルレン」氏表ノ二十號ヲ明視スル者
- 聽官ノ機能ハ六尺ノ距離ニ於テ低語ヲ聽取シ得ル者
- 胸廓ノ構造ハ靜息時ニ於テ其周圍身長ノ半ヨリ大ナル者但呼吸縮長ノ差ハ一寸五分以上ナルヘシ
- 第八條 体格検査ハ先ツ其全体ヲ視察シ後チ各部ノ構造官能等逐次ニ検査シテ遺漏ナキヲ要ス
- 第九條 終身兵役ニ堪ユヘカラサル疾病畸形大凡左ノ如シ
  - 一 全身發育ノ不全
  - 二 全身ノ畸形
  - 三 筋肉ノ薄弱甚キモノ
  - 四 筋肉ノ麻痺甚キモノ

- 五 著シク脂肪夥多ノモノ
- 六 著大ナル慢性腺腫起、慢性腺潰瘍腺病
- 七 骨若クハ軟部ノ惡性腫瘍及潰瘍
- 八 骨ノ慢性炎及骨潰瘍、腐骨疽
- 九 骨ト癒着スル癭痕若クハ甚ク廣大ナル癭痕ニシテ体部ノ機能ヲ妨ケ若クハ陸軍々裝ノ着用ヲ妨ケ若クハ著シク醜形ヲナスモノ
- 十 進行性筋萎縮爾餘ノ筋變性
- 十一 血管ノ慢性疾病例之ハ動脈瘤
- 十二 血液病
- 十三 尿漏
- 十四 慢性痛風
- 十五 慢性關節炎麻質斯ニテ著ク運動ニ妨ケアルモノ
- 十六 腦及ヒ脊椎ノ慢性疾病
- 十七 神經慢性疾病例之ハ舞踏病
- 十八 白痴癲狂其他ノ精神病ニシテ確証アルモノ
- 十九 癲癩
- 二十 頭蓋ノ畸形
- 廿一 頭部ノ醜形甚キモノ例之ハ廣潤ナル禿頭
- 廿二 頭蓋骨ノ著大ナル陷没及骨質欠損等
- 廿三 眼瞼ノ内外翻轉、眼瞼結膜ノ癭痕、慢性變性等

第十二類 軍事

- 廿四 淚瘻
- 廿五 角膜虹彩等ノ疾病ニシテ著ク視力ヲ妨クルモノ
- 廿六 白內障黒內障
- 廿七 視力減退シテ尋常視力ノ二分ノ一以下ニ至ルモノ
- 廿八 斜視眼
- 廿九 近視眼
- 三十 遠視眼
- 三十一 一眼ノ失明
- 三十二 夜盲
- 三十三 一耳ノ慢性重聽若クハ聾強度ノ吃語一耳聾ノ缺亡
- 三十四 聾ノ缺亡若クハ聾ノ大醜形
- 三十五 鼻前頭竇上頸洞ノ慢性潰瘍腫瘍等
- 三十六 口ノ惡性潰瘍唇癩ノ腐爛ナル癒着口ノ一部ノ閉鎖
- 三十七 齒牙若クハ唇ニ疾病缺損アリテ咀嚼或ハ言語ヲ妨クルモノ
- 三十八 唾瘻
- 三十九 口蓋ノ破潰口蓋ノ一部若クハ全部欠損若クハ穿孔瘻管等
- 四十 舌若クハ腺ノ腫瘍異常ノ肥大著シキ腎胃損失ニシテ發痛及ヒ嚥下ニ困難ナルモノ
- 四十一 啞 嚥啞
- 四十二 甲狀腺腫ノ過大ナルモノニシテ呼吸困難ヲ起スモノ
- 四十三 鎖骨ノ畸形

- 四十四 喉頭及氣管ノ畸形及著大ナル其慢性疾患
- 四十五 氣管ノ狹窄
- 四十六 著明ナル斜頸ニシテ運動障害ヲ兼ヌルモノ
- 四十七 脊梁ノ彎曲及ヒ運動ニ障害ヲナス其疾病及畸形
- 四十八 胸廓ノ畸形
- 四十九 胸廓ノ構造甚ク薄弱ナルモノ肺及胸膜ノ疾病及其慢性病ニシテ著シク呼吸ニ障害ヲナスモノ
- 五十 頻回發作スル喘息
- 五十一 頻回反復スル咯血
- 五十二 心臟及心竇ノ慢性疾病
- 五十三 腋臭甚シキモノ
- 五十四 骨盤ノ畸形
- 五十五 下腹軟兒尼亞
- 五十六 腹內臟器ノ疾病ニシテ全身ノ健康ニ著明ノ害ヲ及スモノ
- 五十七 慢性直腸弛緩著大ノ痔結節ニシテ有期性失血若クハ潰潰ヲ兼ヌルモノ
- 五十八 鼠蹊腺ノ過大ナルモノ
- 五十九 痔瘻
- 六十 陰莖全缺
- 六十一 著大ナル尿道畸形例之ハ上裂尿口及下裂尿口
- 六十二 泌尿器ノ慢性疾病尿澱結石病
- 六十三 陰囊水腫ノ過大ナルモノ

第十二類 軍事

- 六十四 陰囊弛緩ノ甚キモノ
- 六十五 睪丸副睪丸ノ慢性炎若クハ其肥大甚キモノ
- 六十六 睪丸尚腹輪中ニ在テ疼痛ヲナスモノ
- 六十七 睪丸及精系ノ惡性腫瘍兩睪丸ノ缺亡等
- 六十八 精系ノ靜脈擴張ニシテ容積廣大ナルカ若クハ睪丸ノ硬質ヲ兼ヌルモノ
- 六十九 四肢ノ著大ナル延長短縮彎曲(強直假關節等
- 七十 四肢ノ肥大麻痺萎小
- 七十一 節關節ノ畸形、強直
- 七十二 諸關節ノ慢性疾病及著大ナル疾患並ニ關節弛緩シテ尋常ノ運動ニ由テ脱臼ヲ將來スル度ニ至リシモノ
- 七十三 拇指及示指ノ爪甲全失
- 七十四 拇指示指ヲ除クノ他指爪全缺シテ其用ニ妨ケアルモノ
- 七十五 指若クハ趾ノ交互ノ癒着
- 七十六 左右ニ論ナク一指ノ欠損、彎曲、強直等
- 七十七 脚ノ過大ナル靜脈結節ニシテ運動ニ妨ケアルモノ下腿ノ潰瘍癩痕等ニシテ運動ニ妨ケアルモノ
- 七十八 膝關節ノ内外前後屈曲
- 七十九 足ノ變形(内翻足若クハ馬蹄狀足扁足等)
- 八十 足蹠汗ノ惡臭惡シキモノ
- 八十一 一大趾ノ缺亡若クハ切斷
- 八十二 大趾ヲ除クノ外數趾ノ缺亡
- 八十三 一趾若クハ數趾ノ著大ナル彎曲ニシテ靴ヲ穿ツト能ハサルモノ

八十四 剝趾ニシテ同上ノ妨害アルモノ

以上掲載ノ外百般ノ疾病畸形ハ前各條ニ照準シテ詳細ノ検査ヲ遂ケ其服役ニ堪ユルヤ否ヲ判決スヘシ

○徴兵事務條例ニ依リ生徒へ在學證明ヲ交付セシム 十八年一月十二日 文部省第一號府縣へ達

府縣ニ於テ徴兵事務條例第六條但書ニ據リ生徒へ在學證明書ヲ交付スルトキハ左ノ書式ニ據ラシムヘシ此旨相達候事

書式 用紙公用野紙紙質適宜  
證明書

族籍 姓名 年齢

右ハ本校何學科第何級 修業中ノ生徒ニシテ既ニ幾箇年ノ課程ヲ卒リタル者ナリ依テ之ヲ證明ス

○近衛兵滿期ニテ本籍地方所管鎮臺ノ豫備役又ハ後備役編入ノ者近衛豫備役又ハ後備役

ニ編入替セシム 十八年八月十一日 陸軍省達甲第三十六號府縣(函館沖繩札幌根室ノ四縣ヲ除ク)へ達

從來近衛兵滿期ニテ既ニ本籍地方所管ノ鎮臺豫備役又ハ後備役ニ編入シ今猶在役ノ者ハ此際更ニ近衛豫備役又ハ後備役ニ編入替爲致候條此旨相達候事

○徴兵検査ノ節醫師又ハ一時雇ノ者出張先ニ於テ解雇ノトキ旅費支給方 十八年八月二十六日 大藏省第六十號府縣

徴兵検査ノ節醫師又ハ一時雇ノ者出張申付該出張先ニ於テ便宜解雇スルハ該地ヨリ最初採用ノ節本人居住ノ地迄旅費支給スヘシ



右相違候事

○輜重輸卒概則ヲ改正ス 十八年十二月三日  
陸軍省達甲第四十七號府縣(沖繩札幌根室ノ三縣ヲ除ク)ハ達  
輜重輸卒概則左之通改正候條此旨相違候事

第一條 輜重輸卒ハ輜重兵隊ニ入管セシメ戰時若クハ事變ノ際輜重諸般ノ用ニ供ス  
但演習及ヒ行軍ノ際ハ本條ニ準スルコトアル可シ

第二條 輸卒トシテ徵集セシ者ハ一ヶ年間現役ニ服セシメ役終レハ豫備役ニ編入シ六ヶ年ノ後後備兵役ニ編入ス

第三條 輸卒ノ現役人員ハ毎年各軍管ニ於テ三百六十人宛ヲ徵集ス

第四條 輸卒ノ現役人員ハ之ヲ三期ニ分チ每一期ノ在營期限ヲ四箇月トシ各自抽籤ノ番號順序ヲ以テ四月八月十二月  
ノ三回ニ入管セシムルモノトス

但現役輸卒ニシテ退營後豫備役編入迄ハ總テ歸休兵ニ準シ取扱フモノトス

第五條 輸卒中組長ニ適任ト認ムル者ハ退營ノ際輜重隊長適任證書ヲ附與シ所要ノ日組長ノ職務ヲ奉セシムルコトアル可シ

第六條 所要ノ日ニ當リ召集スル所ノ輸卒ニハ適宜ノ被服(紫色ノ襟章ヲ附ス)ヲ與ヘ日給ハ輜重兵二等卒ニ同フ

但戰時増俸ヲ給スルノ場合ニ在テハ組長ノ職務ヲ奉スルモノニハ日給ノ外輜重兵二等卒ニ同シキ増俸ヲ給ス

第七條 輸卒組長ノ職務ヲ奉スル者ニハ徒卒刀ヲ佩ハシメ袖章ニ白帛一線(幅一)ヲ附ス  
(輜重組長適任證書證明形) 附一

○徵兵事務條例中明文ナキモノ 鎮臺ヘ協議取計方 十八年十二月五日  
陸軍省達甲第四拾八號府縣(沖繩札幌根室ノ三縣  
ヲ除ク)ハ達

明治十七年第十八號布達徵兵事務條例中明文ナク徵兵事務執行上差支候モノハ是迄當省ヘ伺出來候處自今所管鎮臺ヘ

協議ノ上取計フヘシ此旨相違候事

但別途費用ヲ要スヘキモノハ豫メ主務省ヘ伺出ヘシ

○從前近衛下士ニシテ既ニ鎮臺ノ豫備役及後備軍艦員ニ編入シ在役ノ者近衛豫備役及ヒ  
後備軍艦員ニ編入セシム 十九年二月十六日  
陸軍省甲第二號府縣(沖繩縣ヲ除ク)ハ達

近衛下士滿期又ハ家事故障ニ依リ豫備役及ヒ後備軍艦員ニ入籍ノ者ハ自今近衛艦員ニ相定候就テハ從前近衛下士ニシ  
テ既ニ本籍地方所管鎮臺ノ豫備役及ヒ後備軍艦員ニ編入シ今猶在役ノ者ハ此際更ニ近衛豫備役及ヒ後備軍艦員ニ編入  
替爲致在郷中ハ本籍地方所管鎮臺ノ管理ニ屬シ候條爲心得此旨相違候事

○徵兵看護卒取扱手續ヲ定ム 十九年四月五日  
陸軍省令甲第十號北海道府縣(沖繩縣ヲ除ク)

徵兵看護卒取扱手續

第一條 徵兵看護卒取扱方ハ總テ生兵概則ニ據リ其他ノ諸則モ諸兵ニ同シト雖トモ其異ナル所ノ者ハ此手續ニ準據ス  
可シ

第二條 徵兵看護卒ハ諸兵ト同時ニ徵集シ近衛兵ニ要スル人員ハ近衛歩兵隊ニ管所并ニ分管ニ要スル人員ハ其最寄居  
任ノ者ヲ以テ其歩兵隊ニ其他ハ悉ク鎮臺所在地ノ歩兵隊ニ編入シ第七條ノ第一款ヲ教習セシム

第三條 前條ノ教習卒レハ該卒ヲ近衛鎮臺ニ在テハ軍醫長管所ニ在テハ病院長分管ニ在テハ隊附醫官ニ渡ス可シ

第四條 軍醫長病院長又ハ隊附醫官ニ於テ看護卒ヲ受取トキハ看護長ヲシテ第七條ノ第二款ヲ教習セシム可シ  
但病院內看護卒舍狹隘ニシテ其總員ヲ容レ難キトキハ便宜若キ名ヲ歩兵隊ニ留メ病院ニ通學セシムルモ妨ケナシ

第五條 第七條ノ第二款ノ教科ハ看護長ヲシテ專ラ之ヲ教習セシムト雖トモ醫官之ヲ指揮監督ス可シ

第六條 教習全ク卒レハ近衛鎮臺ニ在テハ軍醫長管所ニ在テハ病院長分管ニ在テハ隊隊長其熟古ヲ檢査シ都督或ハ司  
令官又ハ旅團長ノ許可ヲ得テ二等看護卒ヲ命スル者トス

但近衛及ヒ鎮靈管所病院ニ在テ二等看護卒ヲ命セントキハ隨隊ニ要スル人員ハ直ニ配賦ス可シ爾後病氣申故等ニテ缺員ヲ生スルトキハ鎮靈管所ニ在テハ病院附看護卒ノ内ヨリ之ヲ補ヒ近衛ニ在テハ補充員ニテ第七條ノ教科書ヲ卒業シタル後之ヲ補フモノトス

第七條 徴兵看護卒ニハ左ノ教科ヲ教習シ六箇月間ニシテ卒業セシム可シ

第一教科

其一 柔軟體操 第一部第四  
章第二教迄

其二 歩兵教練 步兵操典生兵ノ部第  
一部第二章第二教迄

第二教科

其一 人體造構ノ概略

其二 看護卒背囊并携帶具ノ用法

其三 三角繻帶用法

其四 繻帶撒絲ノ製造

其五 繻帶術

第三教科

其一 看護法

其二 治療介輔法

其三 救急法

其四 患者運搬法

其五 調劑法大意

第八條 看護卒一名ニ付教習ニ要スル品目左ノ如シ

一 看護卒教科書 一冊

- 一 圖附三角繻帶 一枚
- 一 白地三角繻帶 二枚
- 一 片頭軸繻帶 三卷
- 一 布 六尺
- 一 布袋 一箇

但以上ノ品目ハ滿期ノ際各自ニ附與スル者トス

○陸軍看守卒召募手續

十九年四月十三日  
陸軍省令甲第十三號府縣(沖繩縣ヲ除ク)

陸軍看守卒召募手續左ノ通定ス

陸軍看守卒召募手續

第一條 看守卒召募ハ其缺員アルニ當リ鎮靈若クハ管所ニ於テ華士族平民中志願ノ者ヲ召募スルヲ例トス

第二條 看守卒檢査ノ項目左ノ如シ

其一 年齡自二十年至三十二年

其二 身長五尺以上

其三 體質最モ強壯ノ者

其四 讀書

其五 作文

第三條 前條其三ハ監獄署醫官其他ハ監獄長之ヲ檢シ合格ニシテ適任ト見認ムル者ハ司令官ノ認可ヲ得テ二等看守卒ヲ命スルモノトス

第四條 豫備役及ヒ後備兵役ノ卒ニシテ看守卒ヲ志願スル者ハ第二條ニ示ス年齡身長體質ニ恰當シ監獄長適任ト見認ムルトキハ時宜ニ依リ司令官ノ認可ヲ得テ檢査ヲ用ヒス其等級ニ應ジ看守卒ヲ命スルコトアルヘシ

第六條 服役期限中ハ如何ナル事故アルモ免役ヲ請願スルコトヲ許サス但病患等ニテ服役ニ堪ヘ難キモノハ陸軍醫官ノ診斷書ニ依リ之ヲ免除ス

第七條 看守卒志願ノ者ハ身元引受人二名ノ者ニ限ルヲ立テ左式ノ願書ニ本籍若クハ寄留地府縣ノ稟書証明ヲ受ケ召集ノ鎮書若クハ管所ニ差出スヘシ其豫備役後備兵役ヨリ志願ノ者ニ限リ所管郡區駐在官ノ稟書証明ヲ要スルモノトス

願書式 美濃 白紙 看守卒御採用願

某儀

此度看守卒志願ニ付御検査ノ上御採用被下度御採用ノ上ハ御規則嚴重ニ相守誓テ陸軍ニ從事可仕且本人身上ノ儀ハ何事ニ依ラス身元引受人ニ於テ引受可仕依テ引受人連署此段奉願候也

何府(縣)何族(平民)職業

戶主名何男(兄)(弟)(伯)(叔)(甥)(附籍)

何國何郡(區)何町(村)何番地任(寄留)

姓名 印

身元引受人

何府(縣)何族(平民)

何府(縣)何郡(區)何町(村)何番地任(寄留)

姓名 印

同 同

年號月日生 年號月何年何箇月

年號月日

某鎮書(管所)司令官官姓名殿

同

右ノ通願出候ニ付取調候處相違無之候也

何府(縣)何郡(區)何町(村)戶長 戶長在ラサ

姓名 印

何府(縣)何郡(區)駐在官

姓名 印

何府(縣)知事(令)

姓名 印

前書ノ通相違無之候也

第八條 華士族平民ヨリ志願ノ者検査合格ノ上ハ軍人トナルヘキヲ以テ採用ノ時左ノ如ク折交牒ニ署名捺印シ其志操ノ確實ヲ證セシム

折交牒

今般陸軍看守卒志願候處御採用相成候ニ付テハ自今御規則嚴重ニ相守リ誓テ陸軍ニ從事可仕且服役年間ハ家事故障ハ勿論假令病氣ト雖トモ自ラ免役ヲ請願致シ候等ノ儀ハ仕間敷候仍テ誓文如件

年號月日

姓名 印

○豫備後備兵他府縣寄留ノ者寄留地ノ點呼召集ニ應セシム 十九年五月十三日 陸軍省令甲第十六號北海道府縣(沖繩)ヲ除ク

豫備後備兵ノ點呼召集ハ本籍地方ニ於テ施行スヘキ筈ノ處學術修業若クハ商業等ノ爲メ他府縣(寄留)ノ者ハ本人ノ願ニ由リ寄留地ノ點呼召集ニ應スルコトヲ得

○徴兵常備現役中傷痍疾病ニ罹リ服務ニ堪ヘサル者免除處分方 十九年五月二十九日 陸軍省令甲第二十四號北海道府縣(沖繩)ヲ除ク

徵兵常備現役中傷痍疾病ニ罹リ一時服務ニ堪ヘサルトモ尚ホ後來全瘡服務ニ堪ユルノ見込アル者ハ生兵卒業後ナレハ郷里ニ歸休セシメ又卒業以前ナレハ第一豫備徵兵ニ編入ス  
但到底服務ニ堪ヘサル者ハ除役ス

○一年志願兵取扱規則ヲ定ム 十九年六月二十八日  
陸軍省令甲第廿九號北海道廳府縣(沖繩縣ヲ除ク)  
一年志願兵取扱規則左ノ通定ス

一年志願兵取扱規則

- 第一條 此規則ハ徵兵令第十一條ニ依リ一箇年間陸軍現役ニ服スル志願兵ノ取扱方ヲ示スモノトス
- 第二條 志願兵ハ鎮臺下屯在ノ步兵隊ニ編入シ步兵ニ在テハ服役中該隊ニ於テ教育ヲ爲サシメ看護卒ニ在テハ徵兵看護卒取扱手續第七條ノ第一款ノミヲ該隊ニ於テ教習セシム
- 第三條 志願兵編入ノ法ハ教育上ノ都合ニ由リ悉皆一聯隊ニ編入シ或ハ其人員ヲ分チ各聯隊ニ編入ス可シ
- 第四條 志願兵取扱ハ步兵ニ在テハ入營後概テ二箇月間ハ他ノ生兵ト同一ニシテ其後ハ修練兵ニ進シ看護卒ニ在テハ概テ徵兵看護卒取扱手續ニ據ルモノトス
- 第五條 步兵志願者教育ハ概テ修練兵ニ進スト雖モ其進歩ノ程度ニ從ヒ適宜ノ學術ヲ教授ス可シ
- 第六條 看護卒志願者教育ハ徵兵看護卒ト共ニ之ヲ爲サシメ而シテ徵兵看護卒取扱手續第七條ノ第一款ヲ卒レハ之ヲ鎮臺病院ニ附屬セシメ同條第三款ヲ教習スルノ後其進歩ノ程度ニ從ヒ適宜ノ學術ヲ教授ス可シ
- 第七條 學術進歩ノ程度ニ從ヒ徵兵令第十一條第二項ニ據リ一箇年未滿ニシテ歸休ヲ命スヘキ者アルトキハ步兵ハ聯隊長之ヲ檢査シ旅團長ニ看護卒ハ軍醫長之ヲ檢査シ鎮臺司令官ニ具申シ許可ヲ受ク可シ
- 第八條 志願兵中品行方正勤務勉勵ニシテ技藝ニ熟達シ下士ノ任ニ堪ユ可キ者ハ滿期若クハ歸休ヲ命スルノ際步兵ハ聯隊長看護卒ハ軍醫長下士適任證書ヲ附與ス可シ又教育上拔群ノ結果ヲ得タルモノハ聯隊長又ハ軍醫長ヨリ旅團長又ハ鎮臺司令官ニ具狀シ許可ヲ得テ士官適任證書ヲ附與ス可シ

但士官適任證書ハ鎮臺司令官陸軍大臣ノ許可ヲ得テ豫備役下士ニ任スルノ後之ヲ附與スルモノトス

第九條 軍醫部士官適任證書ヲ附與スル者ハ官立及ヒ公立醫學校卒業證書又ハ醫術開業免狀ヲ所持スルモノニ限ル

第十條 志願兵現役滿期豫備役ニ編入ノ手續ハ尋常現役兵滿期ノ例ニ準ス可シ又豫備役編入後ハ凡テ尋常現役兵ニテ豫備役編入後ノ取扱ニ異ナルコトナシ

離形(零ス)

○歸休兵及豫備後備ノ軍籍ニ在ル者罪ヲ犯シ地方裁判所ノ處分ヲ受ケタルハ郡區駐在官

へ通報方

十九年五月七日  
陸軍省甲第一號北海道廳府縣(沖繩縣ヲ除ク)

歸休兵及豫備後備ノ軍籍ニ在ル者罪ヲ犯シ地方裁判所ノ處分ヲ受ケタルトキハ其罪名刑名ヲ記シ其帶勳者ニシテ勳章ヲ被奪セラレタルトキハ其旨ヲ記シ犯人本籍地ノ戸長ヨリ郡區駐在官へ通報セシム可シ  
但明治十五年四月當省達甲第九號達ハ自今廢止ス

伺指令

○輜重輸卒身上異動届出之儀ニ付栃木縣ヨリ陸軍省へ伺 十八年二月

(十八年三月七日官報)

現役兵入營中身上異動届出方之儀ハ客年九月九日附本縣伺へ御旨ヨリ御指令之趣 親族ヨリ本人へ通報シ本人ヨリモ有之了承候得共輜重輸卒ノ如キハ現役兵ニシテ入營セサル者常ニ半ヲ過キ候此者身上ニ異動ヲ生セントキ其届出方ハ本人又ハ戸主ヨリ府縣駐在官或ハ郡區駐在官ノ内へ届出可然哉徵兵事務條例中明文モ無之ニ付此段相伺候也  
指令 十八年三月七日

伺之趣本人又ハ戸主ノ届書ニ戸長郡區長ノ奥書證印ヲ受ケ郡區駐在官へ可届出儀ト可心得事

○豫備後備兵服役中屯田兵ニ志願スル者ノ儀ニ付愛媛縣ヨリ陸軍省へ伺 十八年三月九日

(十八年三月十四日官報)

豫備後備兵服役中ノ者ニテ屯田兵ニ志願スルモ差支ナキヤ直ク御指揮アリタシ

指令 十八年三月十三日

豫備後備兵ニテ屯田兵志願ハ伺之通但其旨連名簿へ記載スヘシ

●戸籍照較諸費ノ件ニ付岐阜縣ヨリ内務省へ伺 十八年十月七日 (十八年十一月九日官報)

徴兵事務條例第三十五條ノ儀ニ付別紙寫之通(別紙ハ略ス)陸軍卿へ相伺候處朱書ノ如ク御指令相成候儀テ右爲照較  
徴兵検査ニ先立チ兵事課員并備員等ヲ以各町村巡廻爲候ニ付テハ右ニ係ル諸費及旅費而在日當  
費定則第九 等ハ都テ徴兵費ヨリ支拂候儀ト心得可然哉  
旅費定則第九ノ  
條ニ準シ

指令 十八年十一月二日

伺之通總テ本廳經費ヨリ支拂候儀ト心得申

但支給方ハ總テ一般定則ニ據ル儀ト心得ヘシ

●徴兵取扱ノ儀ニ付岐阜縣ヨリ陸軍省へ伺 十八年十一月十一日 (十八年十二月七日官報)

徴兵令第二十二條諸項中重罪ノ刑ニ處セラレタル云々有之就テハ重罪ノ缺席裁判ヲ請ケタルモノト雖該條項ニ據リ  
徴集猶豫ニ取調可然哉

指令 十八年十二月三日

伺之通

但缺席裁判ヲ受ケタル者上訴ヲ爲シ更ニ輕罪以下ノ刑ニ處セラルカ又ハ無罪トナル時ハ本人ハ猶豫ノ資格  
ヲ失フ者トシ取扱フヘキモノトス

●附籍者届出取扱ノ儀ニ付陸軍省ヨリ太政官へ伺 十八年十一月九日 (十八年十二月二十三日官報)

國民兵入籍届徴兵適齡届身上異動届并ニ疾病犯罪等ニテ期限ニ際シ入管シ難キモノ届出之儀ハ徴兵令第三十四條第  
三十五條第三十六條及第三十九條揭示之通其戸主ヨリ本籍ノ戸長へ可差出儀ニ有之候處他へ附籍ノ者ハ戸主ト雖モ

普通戸主ノ權利ヲ有セサル儀ニ付右諸條ノ届出ハ全戸單身ヲ問ハス總テ附籍家主 附籍ヲ爲サシメヨリ附籍地ノ戸長  
へ可差出儀ト相心得可然哉此段相伺候也  
指令 十八年十二月十四日

伺之通

●徴兵ト海軍志願兵ト採用ノ件ニ付高知縣ヨリ陸軍省へ伺 十八年十二月十九日 (十九年一月七日官報)

海軍志願兵徵募規則ニ據リ本年志願者ノ内十九年徴兵相當ニシテ其徴兵検査ヲ受ケケニ合格トナリタルモノト雖モ徴  
兵抽籤前ニ在テ募兵使ノ検査ヲ經テ採用證書ヲ授付セラレタル旨届出ツルモハ徴兵令第十八條第四項ニ準シ取計可  
然哉將々徴兵抽籤ヲ施行シ已ニ其制符ヲ總代人ニ交付シタル以上ハ(抽籤當日ヨリ)假令募兵使ノ採用證書ヲ受ケル  
モ勿論其證書ハ無効ノ儀ト被存候得共縣下僻遠ノ地ニ在テ徴兵抽籤ノ前日若クハ前々日又ハ數日前ニ在テハ海軍兵  
採用ヲ受ケ實際不便ニシテ徴兵署ニ其旨届出ツル能ハサルモノハ假令徴兵抽籤ヲ施行スルモ總代人制符ヲ受領スル  
モ抽籤前日迄ニ海軍採用證書ヲ所持シタルトキハ前段ニ據リ處分シ制符ノ番號ハ欠號トナシ之ヲ取消スヘキ儀ト相  
心得可然哉右ハ海軍志願兵検査ト徴兵抽籤ト同時ニ相成彼是疑義ニ涉リ處分上差支候儀相伺候也  
指令 十九年一月六日(電報)

徴兵ト海軍志願兵ト採用ノ儀ハ總テ伺ノ通

●徴兵ノ件ニ付福岡縣ヨリ陸軍省へ伺 十九年四月二十三日 (十九年五月十七日官報)

癩疾不具重罪等ノ事故アルヲ以テ癩病シ跡更ニ定メタル嗣子又ハ六十歳未滿ノ戸主同上ノ事故ニ因リ退隱シタル跡  
戸主等徴兵適齡ナルハ前嗣子前戸主ハ同籍ニアラサルモ猶豫ニ屬スヘキ儀ニ候哉

指令 十九年五月十三日

伺ノ通

●徴兵取扱上ノ件ニ付茨城縣ヨリ陸軍省へ伺 十九年七月六日 (十九年七月廿八日官報)

徴兵相當ノ時縣立學校ニ於テ一箇年以上ノ課程ヲ卒リタル生徒ノ故ヲ以テ令第十九條ニ據リ猶豫ニ屬シタルモノ及ヒ未タ適齡ナラサルモ同上ノ生徒ニシテ猶豫ニ屬スヘキ資格ヲ有スル者ノ如キ今般文部省令ニ據リ該校ノ教則ヲ改正シ更ニ一箇年期ノ課程ニ編入セシムルハ全ク舊教則ト新教則ト學科程度ノ高低ヨリ生スルモノニシテ右ハ舊教則ニ於テ既ニ一箇年以上ノ學科ヲ修メタルモノニ相違ナク卒業其資格ノ變更ハ教則ノ改正即チ官ノ都合ニ其因スルモノナレハ前者ハ條例第百三十條前段ニ據ラス猶豫ノ儘據置キ後者ハ適齡ニ際シ新教則ニ依リ尚一箇年以上ノ課程ヲ卒ラサルモ令第十九條ニ準シ徵集ヲ猶豫シ然ルヘキヤ

指令 十九年七月二十四日

書面前者ハ伺ノ過後者ハ新教則ニ依リ尚一箇年以上ノ課程ヲ卒リタル者ニアラサレハ猶豫ニ屬セス

●徴兵取扱上ノ件ニ付茨城縣ヨリ陸軍省ヘ伺 十九年八月一日 (十九年八月九日官報)

第一條 徴兵令第二十一條ニ當リ猶豫ニ屬シタルモノ常備七箇年間ニ在テ非難ヲ命セラレタル時ハ條例第百三十條前段ニ準シ徵集可然哉

第二條 壯丁ノ内他府縣下ヘ旅行中疾病ニ罹リ檢査所ニ出頭スルニ能ハス事務條例第四十條ニ據リ届出タル時ハ該府縣ヘ檢査人別兩表ヲ送付シ檢査ヲ爲受又他府縣ノ壯丁ニシテ當縣下ヘ旅行中前同様ノ場合ニ處シ檢査人別兩表ヲ添ヘ檢査ノ儀照會有之候節ハ本人ヲ便宜ノ檢査所ヘ召換檢査シ右兩表ヲ該府縣ヘ返却ノ順序ニ取計不苦哉

指令 十九年八月六日

書面兩條共伺之通

●農林學校生徒徴兵ノ件ニ付山口縣ヨリ陸軍省ヘ伺 十九年八月六日(電報) (十九年八月三十日官報)

農林學校生徒ハ令第十八條三項ニ包含スルヤ  
指令 十九年八月二十五日  
農林學校生徒ハ學生ニ非サレハ令第十八條三項ニ包含セス

●徴兵ノ儀ニ付福岡縣ヨリ海軍省ヘ伺 十九年九月十四日 (十九年九月二十八日官報)

徴兵令第十八條第四項海軍工夫中ニ裁縫夫造船夫ハ含有セサル旨客年十月二十八日福井縣ヘ御指令ノ趣ニ付テハ同項ノ工夫ト指稱スルモノハ海軍志願兵徵募規則ニ據リ採用相成タル者ニシテ右兩夫ヲ除ク外即水兵火夫木工鍛工疋病夫厨夫等ニ可有之哉又海軍造船所等ヘ臨時年期定雇ノ者ハ右工夫同様ノ職工ニ從事スルト雖モ同項ノ範圍外相心得可然哉

指令 十九年九月二十四日

伺ノ趣海軍工夫トハ明治十六年九月第九號海軍工夫規則ニ依リ造船所製造所ニ使役スル者ヲ指稱スル儀ト心得ヘシ

第五十八 鎮臺條例ヲ改正ス 十八年五月十八日 第二十一號陸軍省司法省府縣ヘ達

明治十二年九月 第三拾三號達鎮臺條例左ノ通改正候條此旨相達候事

鎮臺條例

第一章 總則

第一條 日本帝國陸軍疆域ノ區畫ハ地勢ニ依リ人口ヲ量リ全國ヲ分テ七軍管トナシ一軍管ヲ分テ二師管トナシ各軍管ニ鎮臺ヲ置キ各師管ニ營所ヲ置キ以テ府縣ト相對峙シ其管内ノ靜謐ヲ保護シ併テ守備ノ計畫軍隊ノ管轄壯丁ノ徵募ヲ掌トラシム

第二條 各軍管ニ常備後備ノ二軍ヲ置キ其常備兵ヲシテ鎮臺營所分營及ヒ要塞ニ屯駐セシム

第三條 凡ソ鎮臺ニハ司令官即チ師團長一名ヲ置キ中少將ヲ以テ之ニ任シ其軍管内ノ軍令ヲ董督シ軍政ヲ總理ス營所ニハ司令官一名ヲ置キ其地所在ノ旅團長ヲシテ之ヲ帶ハシメ鎮臺司令官ニ隸シ其師管内ノ事務ヲ區處ス但鎮臺所在地ノ師管ニハ營所ヲ置カス其事務ハ直チニ鎮臺ニ於テ執行ス

第四條 鎮臺司令官ノ下ニ參謀部副官傳令使文庫武庫營舍調馬各主管會計軍醫獸醫各部後備軍司令部衛戍軍法會議監獄署ヲ置キ又營所司令官ノ下ニ次官副官武庫營舍各主管會計部病院後備軍司令部衛戍軍法會議監獄署ヲ置キ以テ事務ヲ分掌セシム

第五條 鎮臺司令官即チ師團長ハ出師ノ日ニ方リ定制ノ節度ニ從ヒ師團ヲ編成シ所管監軍即チ軍團長ニ屬シ征戰ノ事ニ任ス其留後ノ事務ハ別ニ鎮臺司令官ヲ置キ之ヲ掌トラシム  
第六條 營所司令官即チ旅團長征戰ノ事ニ任スル時其留後ノ事務ハ次官ヲシテ之ヲ代理セシム

第二章 鎮臺司令官ノ本務權限

第七條 鎮臺司令官職務ノ要領左ノ如シ

- 第一 軍隊ノ統率即チ諸兵隊ノ指揮節度軍紀風紀訓練等
- 第二 軍管内ノ事務即チ要塞衛戍ノ指揮出師ノ準備防守ノ計畫常備後備二軍ニ要スル武器彈藥器具材料被服陣具等ノ貯藏歸休兵及ヒ豫備役後備軍艦員兵員ノ管轄徵兵徵馬軍法衛生等

第八條 鎮臺司令官ハ進軍駐軍轉軍例外行軍例外演習等軍令ノ出納ニ關スルモノハ其所管監軍ノ指揮ニ屬シ進退黜陟轉換選任會計及ヒ給與等軍政ニ關スルモノハ陸軍卿ノ區處ヲ受ク可シ

第九條 軍管内騷擾ノ警アルモ其事外國ニ關涉スルモノハ

天皇宣戰ノ權ニ係ルヲ以テ漫リニ一卒ヲモ動カスヲ許サス但事火急ニシテ之ニ應セサルヲ得サル時ハ守勢ノ戰備ヲ取リ狀ヲ具シテ急速監軍ニ申報ス可シ

第十條 軍管内草賊ノ警アレハ先ツ情狀ヲ監軍ニ申報シテ其區處ヲ受ク可シ然レトモ事火急ニシテ兵力ヲ要シ其府知事縣令ヨリ出兵ヲ請求シタル時ハ之ニ應シ狀ヲ具シテ監軍ニ急報ス可シ

第十一條 前條ノ場合ニ於テ其事情測リ難キ時ハ其地方府知事縣令ト議シ參謀官ヲ派シ或ハ其地方營所若クハ要塞及ヒ衛戍ノ司令官ニ命シ情狀ヲ探偵セシメ其原由並ニ目下ノ動靜人員ノ多寡ヲ知悉シ要スル所ノ兵數ト施ス可キ策略ヲ具シテ監軍ニ申報シ仍ホ其事情ヲ比隣鎮臺ニ通報ス可シ

第十二條 軍管内ニ強盜奸民アリ憲兵及ヒ巡查ノ力之ヲ拿捕スル能ハスシテ援助ヲ請フ時ハ之ニ應シ適宜ノ兵員ヲ出スコトヲ得

第十三條 軍管内ニ於テ儀式慶典若クハ變災事故アリテ儀仗或ハ警護ノ爲メ府知事縣令ヨリ兵隊ヲ要スル事由ヲ具シ之ヲ請フ時ハ事情ヲ斟酌シ之ニ應スルコトヲ得

第十四條 前二條ニ擧ケタル事項ハ從事スルノ後報告スルヲ得ルト雖モ事緩ニシテ往復ノ日限アル時ハ先ツ監軍ニ申報シテ其區處ヲ受クルヲ正例トス

第十五條 臨時演習ノ爲メ三泊以上兵隊ヲ動カスハ上裁ニ係ルヲ以テ豫メ所管監軍ノ區處ヲ受ク可シ其二泊以下ニ止マルモノハ之ヲ專行スルコトヲ得

第十六條 要塞戍兵及ヒ衛戍部署ノ變換増減ニ關スルコトハ上裁ニ係ルヲ以テ所管監軍ノ區處ヲ受ク可シ其哨所及ヒ衛戍兵員ノ變換増減等ハ之ヲ專行スルヲ得

第十七條 出師ノ準備ハ成規ニ從ヒ計畫ニ基ツキ名簿ヲ點竄人馬召集ノ手順ヨリ武器彈藥被服陣具糧秣材料ノ運輸貯藏ノ方法ニ至ルマテ平時ニ在テ常ニ各主務官ヲ戒飭シ一令ノ下神速ニ師團ヲ發シ後備軍ヲ擧クルニ於テ遺算ナカラシム可シ

第十八條 軍管内軍人軍屬ノ犯罪刑法ニ屬ス可キ者ハ法ニ照シ軍法會議ニ付シテ處斷セシム

第十九條 凡ソ近衛ノ兵隊ハ都督ノ前ニ非サレハ分列式ヲ行ハサルヲ正例トス然レトモ東京外ノ地方ニ屯在シ儀式慶典等ノ爲メ觀兵式ノ擧アルニ方リテハ鎮臺司令官ハ移牒シテ之ニ列セシムルコトヲ得

第二十條 近衛兵東京外ノ地方ニ屯在スル時警備其他地方ノ保安ニ關涉スルコトアリテ火急ヲ要スル時ハ鎮臺司令官ハ之ニ援助ヲ求ムルコトヲ得

第二十一條 近衛兵籍ニ屬スル歸休兵及ヒ豫備役後備軍艦員兵員ノ地方ニ在ル者ハ鎮臺司令官ニ於テ之ヲ管轄スルコト管下ノ艦員兵員ニ異ナルコトナシ

第二十二條 軍管内ノ要塞司令官ハ鎮臺司令官ニ隸屬ス然レトモ特ニ要塞司令官ニ守備ノ全權ヲ委子ラレタル時ハ其指揮ニ屬スルコトナシ

第二十三條 軍管内布置ノ憲兵ハ鎮臺司令官ノ管轄ニ屬セス然レトモ之ヲシテ地方ノ事情ニ關スル緊要ノ事件ヲ報知セシメ又火急ノ事變ニ際シテハ命令ヲ下シ服事セシムルヲ得

第二十四條 鎮臺司令官ト軍管内ノ府知事縣令並警視總監及ヒ大審院長控訴裁判所長檢事長始審裁判所長檢事<sup>上席</sup>トハ互ニ事情ヲ通シ文武官民ノ間常ニ協和ヲ保ツヲ要ス<sup>十八年四月十八號達ヲ以テ全改</sup>

第二十五條 鎮臺司令官ハ地方ノ動靜ニ關スル事件ニ就キ府知事縣令ヨリ詳細ノ報告ヲ受クルノ權ヲ有ス

第二十六條 鎮臺司令官新々ニ拜命シ初メテ任ニ赴ク時ハ左ノ禮款特典ヲ受ク可シ  
第一 祝砲五發

第二 儀仗騎兵一中隊及ヒ軍樂隊若クハ步兵一大隊及ヒ軍樂隊郊迎

第三 要塞司令官衛戍司令官市外出迎

第四 臺下ノ諸兵途次出迎

第五 將校及ヒ同等官正裝伺候

第二十七條 鎮臺司令官初メテ任ニ赴ク時鎮臺所在地ノ府知事縣令並警視總監及ヒ大審院



長控訴裁判所長檢事長始審裁判所長檢事<sup>上席</sup>トハ三日以内互ニ訪問シ其軍管内ノ府知事縣令及ヒ控訴裁判所長檢事長並始審裁判所長檢事<sup>上席</sup>トハ三十日以内互ニ移文訪問ス可シ但共ニ官等昇キ者ヨリ先ニス可シ<sup>上</sup>

第三章 營所司令官ノ本務權限

第二十八條 營所司令官ハ一師管ニ關スル事務ヲ擔任シ師管内ノ靜謐ヲ保護ス故ニ其騷擾鎮壓ノ事ニ關シテハ所在ノ兵隊ニ令ヲ下スヲ得但其要塞ハ別命アルニ非サレハ之ヲ指揮スルノ限ニアラス

第二十九條 師管内草賊ノ警アレハ速ニ鎮臺司令官ニ報告シ且情狀ヲ探偵シ其原由并ニ目下ノ動靜人數ノ多寡等ヲ詳悉シテ逐一ニ開具ス可シ

第三十條 地方ノ騷擾事火急ニシテ兵力ヲ要シ其府知事縣令ヨリ出兵ヲ請フニ方リ區處ヲ受クルノ暇ナク已ムヲ得サル時ハ之ニ應シ時機ヲ量リ管下ノ兵隊ヲシテ直ニ之ニ當ラシムルヲ得但其事情ヲ鎮臺司令官ニ急報ス可シ

第三十一條 地方ノ騷擾ニ方リ必要ト思考スル時ハ鎮臺司令官ニ申報スルノ外直ニ本臺所管ノ監軍ニ申報シ且比鄰ノ鎮臺營所ニモ之ヲ通報ス可シ

第三十二條 第十二條第十三條ノ場合ニ在テハ鎮臺司令官ノ區處ヲ受ク可シ然レモ事急ニシテ其暇ナキ時ハ管下ノ兵隊ヲシテ其事ニ當ラシメ狀ヲ具シテ鎮臺司令官ニ急報ス可シ  
第三十三條 出師ノ準備ハ定規ニ從ヒ遺算ナキヲ要ス故ニ常ニ人馬召集物品徵發運輸等ノ

方法ヲ整ヘ又豫備兵後備兵ニ支給ス可キ武器彈藥被服陣具器具材料等ヲ備ヘ各主務官ヲシテ其貯藏保存ノ事ヲ擔任セシム

第三十四條 師管内ニ在ル下士及ヒ兵員ノ身上ニ係ル事項ニ就テハ地方官ノ通牒ヲ受理シ例規アルモノハ直ニ處分シ其例規ナキモノハ鎮臺司令官ニ具申シテ區處ヲ受ク可シ

第三十五條 營所司令官其師管内ニ在テ第十八條第十九條第二十條第二十三條第二十四條第二十五條ノ場合ニ於テハ各條ニ準據シテ區處ス可シ

第三十六條 營所司令官初メテ任ニ赴ク時ハ其所屬ノ將校及ヒ同等官ヨリ正裝伺候ノ禮遇ヲ受クヘシ<sup>同上</sup>  
<sup>追加</sup>

(第一第二第三表畧之)

○陸軍下士服役規則 <sup>十七年四月十八日</sup> 陸軍省達甲第十七號府廳へ達

陸軍下士服役規則左之通改正候條此旨相違候事

陸軍下士服役規則

第一條 凡陸軍下士ト稱スルモノハ陸軍武官官等表ニ掲ホスル所ノ各兵各部ノ下士ヲ併セ稱スルモノトス

第二條 歩騎砲工輜重兵下士服役年限ハ初メテ下士ニ任スル日ヨリ滿十二ケ年トス其前七ケ年ハ常備役<sup>現役五ケ年豫備役二ケ年</sup>ニ服シ後五ケ年ハ後備役ニ服セシム

第三條 騎兵蹄鐵工長騎兵蹄鐵工下長砲兵監護砲兵監守砲兵監查砲兵諸工長砲兵諸工下長工兵監護會計書記看護長馬醫生軍樂次長軍樂手ノ服役年限ハ初メテ下士ニ任スル日ヨリ滿十二ケ年トス其前九ケ年ハ常備役<sup>現役七ケ年豫備役二ケ年</sup>ニ服シ後三ケ年ハ後備役ニ服セシム但騎兵蹄鐵工長騎兵蹄鐵工下長軍樂次長軍樂手ノ服役年限ハ騎兵蹄鐵工又ハ樂生ヲ命スル日ヨリ起算ス

憲兵下士ノ服役年限ハ憲兵下士ニ任スル日ヨリ更ニ七ケ年間現役ニ服セシム其役終ル後ハ舊兵科ニ復シ初メテ下士ニ任スル日ヨリ算シ十二ケ年ニ滿タサル者ハ後備役ニ服セシム

第四條 豫備役中ノ兵卒ヨリ豫備役ノ下士ニ任スル者ハ兵卒中豫備服役ノ日數ヲ通算シテ四ケ年間服役ノ後尙ホ五ケ年間後備役ニ服セシム

後備役中ノ兵卒ヨリ後備役ノ下士ニ任スル者ハ兵卒中後備服役ノ日數ヲ通算シテ五ケ年間後備役ニ服セシム

第五條 常備現役滿期ノ後尙ホ現役ニ服センコトヲ請フ者ハ詮議ノ上再ヒ服役スルヲ許ス

第六條 前條再服役ハ第二條ノ下士ニ在テハ四ケ年第三條ノ下士ニ在テハ三ケ年ヲ以テ一期トス其再服役滿期ノ後尙ホ現役ニ服センコトヲ請フ者ハ更ニ詮議ノ上之ヲ許ス

但再服役志願ノ者第二條ノ下士ニ在テハ四ケ年未滿第三條ノ下士ニ在テハ三ケ年未滿ニシテ年數定限ニ至ル者ハ其定限ニ至ル迄服役セシム

第七條 第二條ノ下士ニ在テハ七ケ年第三條ノ下士ニ在テハ五ケ年再服役ノ後其役ヲ免除スル者ハ後備役ニ服セサルヲ法トス然レモ後備軍艦員タランコトヲ請フ者其年限ヲ定メ願出ルトキハ詮議ノ上之ヲ許ス

第八條 常備現役中傷疾疾病ニ罹リ現役ニ堪ヘ難ク或ハ第十四條ニ依リ其役ヲ免除スル者第二條ノ下士ニ在テハ服役五ケ年未滿第三條ノ下士ニ在テハ服役七ケ年未滿ナレハ直ニ豫備役ヲ命シ其現役ニ服セシ日數ト通算シ第三條ノ下士ニ在テハ七ケ年間第三條ノ下士ニ在テハ九ケ年間服役ノ後尙ホ第二條ノ下士ニ在テハ五ケ年間第三條ノ下士ニ在テハ三ケ年間後備役ニ服セシム

第九條 再服役中傷疾疾病ニ罹リ現役ニ堪ヘ難ク或ハ第十四條ニ依リ其役ヲ免除スル者服役二ケ年未滿ナレハ直ニ豫備役ヲ命シ其現役ニ服セシ日數ト通算シ第二條ノ下士ニ在テハ七ケ年間後備役ニ服セシム

第十條 再服役中傷疾疾病ニ罹リ現役ニ堪ヘ難ク或ハ第十四條ニ依リ其役ヲ免除スル者服役二ケ年以上ナレハ直ニ後備役ヲ命シ其再役ニ服セシ日數ト通算シ第二條ノ下士ニ在テハ七ケ年間第三條ノ下士ニ在テハ五ケ年間ノ役ニ服セシム

同上

第十一條 禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレ又ハ逃亡シタル者其刑期中ノ日數及ヒ逃亡中ノ日數ハ服役年期ニ算入セズ

但官職ヲ失ヒ兵卒トナル者及ヒ兵卒トナリタル者行政ノ處分ヲ以テ原官ニ復シタル者ノ前役(刑期中及ヒ逃亡中)ハ之ヲ算入ス

第十二條 第二條ノ下士ニシテ第三條ノ下士(憲兵ハ)ニ第三條ノ下士ニシテ第二條ノ下士ニ轉スル者ハ前後ヲ通算シ其服役年期ニ應ジ常備或ハ後備役ニ服セシム

第十三條 常備現役中ハ自己ノ望ニ依リテ他ノ仕官ヲ求ムルヲ得サルノミナラス假令疾病ニ罹ルト雖モ陸軍軍醫官ノ診斷ニ依ラスシテ自ラ免除ヲ請フヲ得ス

第十四條 常備現役中ハ家事ノ故障ヲ以テ免除ヲ請フコトヲ許サス然レモ父兄又ハ家事擔當ノ者死亡シ或ハ癩疾老病又ハ重罪ノ刑ニ處セラレ在役者ヲ要スルニ非サレハ一家ノ生計ヲ失フカ如キ已ムヲ得サル事故ヲ生スル者ハ詮議ノ上免除スルコトアルヘシ

但常備現役中養子分家又ハ他家相續人トナリ本條ノ事故ヲ生スル者ハ免除ノ詮議ニ及ハス

第十五條 前條ノ如キ已ムヲ得サル事故ヲ生シ免除ヲ願フ者ハ本人親族(二名)連署ノ願書ニ其事由ヲ詳記シ戸長並ニ郡(區)長及ヒ管轄廳ノ稟書並ニ尚ホ府(廳)郡(區)駐在官ノ稟書並ニ印ヲ要シ家族等(癩疾ノ者ハ外ニ地方醫師診斷書刑名並)ヲ添ヘ本人ノ所管へ願出ツヘシ

第十六條 豫備並ニ後備服役中ノ下士ハ本籍ニ歸任シ地方所管鎮臺ノ統轄ニ屬シ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス又平常ニ在テハ復習ノ爲メ召集スル者トス

第十七條 下士各服役ノ期限已ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ舉アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期ヲ延スコトアルヘシ

但本條ニ據リ延期シタル後豫備役或ハ後備役ヲ命スル者其服役ハ前役滿期ノ日ヨリ之ヲ起算スヘシ

第十二類 軍事

○陸軍軍人休暇規則ヲ定ム

十八年八月二十日  
陸軍省達甲第三十七號府縣へ達

陸軍軍人休暇規則左ノ通相定候條此旨相達候事

但明治十四年達甲第三十號達陸軍武官休暇規則同十五年達甲第四號達同附録ハ廢止ス

陸軍軍人休暇規則

- 第一條 凡軍人歸省或ハ轉地療養其他事故アリテ休暇ヲ要スル時ハ此規則ニ據リ請願スヘシ
- 第二條 准士官以上ハ往復ヲ除キ四週日以内ノ休暇ヲ請願スルヲ得但轉地療養及ヒ休暇中發病ノ者ハ延期ヲ願フコトヲ得ヘシ
- 第三條 將官並ニ同等官ノ休暇願ハ陸軍卿ヲ經テ大政官へ上申シ許可ヲ請フヘシ
- 第四條 各所管ノ長官タル上長官ノ休暇願ハ陸軍卿ノ許可ヲ請フヘシ
- 第五條 准士官以上ノ休暇願ハ其所管長官之ヲ許可スヘシ但陸軍省內各局並ニ砲工兵會議出仕ノ准士官以上ノ休暇願ハ其長ヨリ陸軍卿ニ上申シ許可ヲ請フヘシ
- 第六條 旅團長管所司令官ハ其部下准士官以上二週日以内ノ休暇願ハ之ヲ許可スヘシ
- 第六條 准士官以上ノ休暇願書ハ其要スル旨趣及ヒ日數ヲ記載シ提出スヘシ但轉地療養并ニ延期及ヒ休暇中發病延期ヲ願フ時ハ陸軍醫官若クハ地方醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ
- 第七條 下士卒父母病氣或ハ死亡等ニテ歸省ヲ願フ時ハ其情實ニ由リ往復ヲ除キ二週日以内ノ休暇ヲ許スヘシ故ニ右等ノ事故ニテ休暇ヲ願フ時ハ親族ニ於テ願書ヲ作リ病氣ナレハ醫師ノ添ヘハ長ヨリ陸軍卿ニ上申シ許可ヲ請フヘシ
- 第八條 陸軍卿ハ其所管ヘ差出スヘシ
- 第八條 隊附下士卒ノ轉地療養ハ陸軍醫官ノ診斷ニ依リ之ヲ命スルヲ以テ本人ヨリ請願スルヲ許サズ隊外下士卒ニ在テハ陸軍醫官或ハ地方醫師ノ診斷書ヲ添ヘ本人ヨリ請願スル時ハ往復ヲ除キ四週日以内ノ休暇ヲ許スコトアルヘシ若シ其日限中快復ニ至ラサル時ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ追願スヘシ
- 第九條 隊附下士卒ノ休暇ヲ許可スル手續ハ各兵內務書中ニ記載スルカ如シト雖モ旅團附下士卒ニ在テハ旅團長之ヲ許可

シ隊外下士卒ニ在テハ各所管長官若クハ管所司令官之ヲ許可スヘシ  
 第十條 下士卒休暇ノ免許ヲ得タル者ニハ左式ノ免許證及ヒ宿泊證書ヲ與フ

六寸

表		裏	
<p style="text-align: center;">兵種隊號</p> <p style="text-align: center;">官(卒) 姓 名</p> <p style="text-align: center;">何日間依頼ノ休暇免許證</p> <p style="text-align: center;">(該隊之印)</p> <p style="text-align: center;">職官 姓 名 印</p> <p style="text-align: center;">(聯隊長 聯隊長ヲ爲サ、 軍用電信隊長提理)</p> <p style="text-align: center;">隊附下士卒ニ與フル證書式</p> <p style="text-align: center;">宿泊證書 兵種隊號</p>	<p style="text-align: center;">此免許證ハ何年何月何日何時ヨリ何年何月何日何時マテ休暇ヲ與フルノ證ナレハ其期限ニ至レハ必ス歸省スヘシ休暇中ト雖モ陸軍ノ法令ヲ遵奉シ且地方ノ命令ニ服從スヘシ要書官(卒)所持金若干アリ又其所持品左ノ如シ</p> <p style="text-align: center;">金何々 何々 何々</p> <p style="text-align: center;">何何々 何々 何々</p> <p style="text-align: center;">此官(卒)右ノ通金子並ニ諸品ヲ所持スレハ其往來途中ニ於テ他人ノ扶助ヲ受ルコトナカルヘシ</p> <p style="text-align: center;">(中)小)隊長(聯)大)隊副官) (軍用電信隊長)</p> <p style="text-align: center;">年號月日 職官 姓 名 印</p> <p style="text-align: center;">隊外下士卒ニ與フル證書式</p> <p style="text-align: center;">宿泊證書 所管兵種</p>		

第十二類 軍事

官(卒) 姓 名		官(卒) 姓 名	
<p>依頼休暇ニ在テハ免許證ニ記載スル日數内ニ往復スルモノナリト雖モ迂路ヲ取リ或ハ舟車ノ便宜ヲ慮度シ歸營延期ニ及フ者ハ嚴重ニ其處分ヲ爲スヘシ</p> <p>喪失休業中歸省或ハ他行外泊等ヲ爲ス者ニ在テハ時宜ニ依リ途上ニ滞泊シ或ハ半途ニシテ歸營スルモ妨ケナシト雖モ舟車ノ便ヲ顧ミ迂路ヲ取リ期日ニ後ルハ者ハ嚴重ニ其處分ヲ爲スヘシ</p>		<p>休暇ノ許可ヲ得タル者ハ免許證ニ記載スル日數内ニ往復スルモノナリ若シ迂路ヲ取リ或ハ舟車ノ便ヲ顧ミ歸營ノ期ニ後ルハ者ハ嚴重ニ其處分ヲ爲スヘシ</p>	
<p>何年何月何日何地發程</p> <p>往 還</p> <p>何月何日何地某方ニ泊ス</p> <p>何府(縣)何郡(區)何町(村)</p> <p>戸(區)長姓 名印</p> <p>何月何日何地某方ニ泊シ何月何日マテ病氣或ハ何々ニ依リ滞在</p>	<p>何年何月何日何地發程</p> <p>往 還</p> <p>書法上ニ同シ</p>	<p>何年何月何日何地發程</p> <p>往 還</p> <p>書法上ニ同シ</p>	<p>何年何月何日何地發程</p> <p>往 還</p> <p>書法上ニ同シ</p>
右 同 節			

何月何日何地乘船何月何日何地陸上陸

何船長 姓 名印

休暇免許證ハ隊附ノ者ニ與フル書式ヲ示スモノトス故ニ隊外ノ者ニ在テモ亦之ニ準シ調製付與スヘシ

休暇免許證及ヒ宿泊證書ハ兩面ヲ用ユル爲メ共ニ厚紙ニテ製シ若シ宿泊證書紙幅足ラサルハ別紙ヲ以テ補綴スヘシ

第拾一條 下士卒休暇ノ免許ヲ得タル者ハ休暇免許證及ヒ宿泊證書ヲ所持シ略帽衣袴及ヒ脚絆ヲ着シ若シ脚絆ヲ着スルト種ニヨリ帶革並ニ銃劍或ハ軍刀ヲ佩ヒ且外套ヲモ所持スヘシ

第拾二條 下士卒旅行中宿泊或ハ乘船スル時ハ所在ノ戸長或ハ船長ニ免許證ヲ示シ宿泊證書ニ捺印ヲ受クヘシ若シ其途中發病川留等ニテ滞留スル時ハ戸長ヨリ其事由書ヲ取リ或ハ醫師ノ診斷書ニ戸長ノ奥書証明ヲ受ケ歸營ノ上之ヲ差出スヘシ

第拾三條 下士卒歸郷若クハ某地ニ滞留スル時ハ直ニ其地ノ戸長ニ休暇免許證ヲ示シ宿泊證書ニ捺印ヲ受ケ其宿泊證書ハ期日マテ戸長ニ預ケ置キ且地方ノ提軍人ノ到ル間數個所等ヲ承知スヘシ而シテ出發ノ期ニ至レハ宿泊證書ヲ受取其發途ヲ證スル爲メ重子テ之ニ戸長ノ捺印ヲ受クヘシ且歸郷中父母病死スト雖モ期日ニ至レハ必ス速ニ歸營スヘシ

第拾四條 下士卒歸郷中本人病氣ニテ期日ニ出發シ難ク延期ヲ要スル時ハ願書ニ陸軍醫官若クハ地方病院醫師ノ診斷書ヲ添ヘ戸長ノ奥書証明ヲ受ケ所屬ノ隊或ハ所管ニ送呈スヘシ若シ其地方ニ陸軍醫官若クハ病院ナキ時ハ其治療ヲ受ケタル醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ

第五十九 憲兵條例ヲ定ム 十四年三月十一日 第十一號官省院廳府縣へ達

第十二類 軍事

十六年第五十  
三號達ヲ以テ  
大坂府下ニ憲  
兵設置シ東京  
憲兵ノ内一十  
隊ヲ分遣ス中  
八隊ヲ分遣ス  
ヲ以テ更ニ一  
大隊ヲ分遣ス

憲兵條例別冊ノ通相定候條此旨相違候事

但シ現今先ツ東京府下ニ其一隊ヲ實施シ他府縣ニハ追テ施行スヘシ

別冊

憲兵條例

第一章 憲兵汎則

- 第一條 凡ソ憲兵ハ陸軍兵科ノ一部ニ位シ巡按檢察ノ事ヲ掌リ軍人ノ非違ヲ視察シ行政警察及ヒ司法警察ノ事ヲ兼テ内務海軍司法ノ三省ニ兼隸シテ國內ノ安寧ヲ掌ル其職時若クハ事變ノ際ニ於ケル服役ノ方法ハ別ニ之ヲ定ム十六年第五十二號達ヲ以テ(戰時)ノ下(及ヒ非常時)ヲ(若クハ事變)ニ改ム
- 第二條 憲兵ハ各軍管ニ布キ各府縣ニ配置ス
- 第三條 憲兵ノ職掌其軍紀ノ檢察ニ係ル事ハ陸海軍兩省ニ隸シ行政警察ニ係ル事ハ内務省ニ隸シ司法警察ニ係ル事ハ司法省ニ隸ス
- 第四條 憲兵ハ其職務ニ關シ警視總監府知事縣令東京府知事ヲ除ク并ニ各裁判所檢察事ヨリ旨示ヲ受ケル時ハ直ニ其事ニ從フヘシ同上(並ニ)ノ下(上)等及ヒ地方裁判所檢察事ノ指揮ヲ受ケクヲ(各裁判所檢察事ヨリ)云々ニ改ム
- 第五條 憲兵ハ軍管ノ司令官ニ對シテハ鎮臺條例第十九條及ヒ第二十條ヲ遵守スヘシ
- 第六條 巡察中若シ警察ノ職權ヲ有スル者又ハ巡查ヨリ助力ヲ要求スルコトアラハ直チニ應援シ或ハ代ツテ其事ヲ掌ル又時宜ニ依リ憲兵ヨリ巡查ニ補助ヲ求ムルコトヲ得同上第六條第七條ヲ第八條ニ改ム(巡查)ヨリ(補助)ヲ(助力)ニ改ム

第七條 軍人遊歩中途上ニ醉酗暴行シ或ハ酒樓食肆等ニ暴動シ或ハ武權ヲ弄シテ人ヲ侮凌

スル等凡ソ隊外ニ在テ兇暴ノ所爲ニ涉ル者ハ直チニ逮捕シ若シ暴行者數人アリテ悉ク捕

獲スルコト能ハサル時ハ其中ニテ造意者或ハ其威權アル者ヲ逮捕スヘシ同上第八條乃至第十一條ヲ第七條ニ改ム(直チニ逮捕)ノ下(テ本人)以下五十一字ヲ(若シ)以下四十五字ニ改ム

第八條 若シ草賊一揆等ノ萌芽スルアラハ審カニ之ヲ視察シ其首唱ノ人名及ヒ其人員等ヲ

探偵シテ速ニ報告スヘシ同上第十二條ヲ削除シ第九條ヲ第八條ニ改ム

第九條 水火災ノ節ハ專ラ其助力ヲ爲シ非違ヲ警メ及ヒ貨物運搬ノ場所等ヲ監視スヘシ第十四條ヲ第九條ニ改ム(其)ノ下(補助)ヲ(助力)ニ改ム

第十條 變死人アル時ハ速ニ其處分ヲナシ又老幼婦女及ヒ急病人或ハ瘋癲人等ノ危害ニ罹

ル者アレハ其扶助ヲ加フヘシ同上第十五條ヲ第十條ニ改ム

第十一條 憲兵ハ命令書ヲ有スルニ非サレハ漫リニ人ヲ逮捕シ若クハ人家ニ侵入シ若クハ

物件ヲ差押ルコトヲ得同上第十六條ヲ第十一條ニ改ム

但シ現行犯及ヒ現行犯ニ准スル場合ハ此限ニ在ラヌ

第十二條 憲兵ハ漫リニ兵器ヲ用ルコトヲ許サヌ同上第十七條ヲ第十二條ニ改ム

但シ其抗拒シテ制シ難ク殺傷シテ勢ヒ猶豫シ難キ者アル時ハ之ヲ用ルモ妨ケナシ

第十三條 兇シ何等ノ犯罪タルヲ論セス逃レテ外國公使ノ館地内ニ在ル者ハ之ヲ追捕スル

コトヲ得ヌ此場合ニ於テハ其外部ヲ警備シ速ニ屯所ニ報告シテ其指揮ヲ受クヘシ同上第十

十三條

第十四條 憲兵ハ其職務上ノ過誤失錯懲戒シテ止ムヘキモノハ陸軍懲罰令ニ照シテ之ヲ處分ス同上第十四條ニ改ム

但シ事ノ軍紀ニ關セサル者ハ此限ニ在ラス

第二章 布置撰任同上(編制)ヲ撰任ニ改ム

第十五條 憲兵ハ現今先ツ東京府下ニ其一隊ヲ設置シ三大隊ヲ以テ之ヲ編制シ憲兵本部ヲ置キ陸軍卿ニ直隸ス同上第二十條ヲ第十五條ニ改メ設置シノ下ニ大隊ヲ以テ之ヲ編制シ

第十六條 府内ヲ六區ニ分チ之ヲ憲兵ノ六管區トナシ各管區ニ若干ノ屯所ヲ設ク其六管區ノ配置左ノ如シ同上第二十一條ヲ第十六條ニ改メ(設)ノ下(ケ)ヲ(ク)ニ改メ其下(ニ)伍以上ノ分

川區ヲ加ヘ第六管區北豐島郡ノ上(ハ)小石川區ヲ加ヘ(南豐島郡東多摩郡)ヲ削ル

第一管區

日本橋區

京橋區

第二管區

赤坂區

麻布區

第三管區

牛込區

南豐島郡

東多摩郡

第四管區

神田區

本郷區

下谷區

淺草區

第五管區

深川區

南葛飾郡

南足立郡

第六管區

小石川區

北豐島郡

第十七條 憲兵ハ廿四條ヨリ廿九條マテニ據テ其撰擧及ヒ進級ヲ爲ス者トス同上第二十二條ニ改ム

但シ進級法ハ其最下限ヲ示ス者ナルヲ以テ其最下限ヲ越ル者ト雖モ必シモ直チニ進級セシムルノ例ニ在ラス

第十八條 兵卒ハ近衛及ヒ鎮臺ノ常備豫備後備軍ニ在テ左ノ三項ニ合格スル者ヲ撰擧ス同上第二十四條ヲ第十八條ニ改ム

第一項 年齢二十二歳ヨリ三十歳迄ニシテ身幹五尺以上ノ者

第二項 讀ミ書ヲ爲シ得ル者

第三項 行狀方正ノ者

第十九條 伍長ハ憲兵卒ノ服役六箇月ヲ經タル者ヨリ撰任ス同上第十九條ニ改ム

第二十條 軍曹ハ憲兵伍長ノ服役六箇月ヲ經タル者ヨリ撰任ス同上第二十條ニ改ム

第十二類 軍事

但シ時宜ニ依リ他兵科ノ軍曹ニシテ其服役六箇月ヲ經タル者ヨリ撰任スルヲ得  
 第二十一條 曹長ハ憲兵軍曹ノ服役一ケ年ヲ經タル者ヨリ撰任ス同上第廿七條ヲ  
 但シ時宜ニ依リ他兵科ノ曹長ニシテ其服役一ケ年ヲ經タル者ヨリ撰任スルヲ得第廿一條ニ改ム  
 第二十二條 下副官ハ憲兵曹長若クハ他兵科ノ下副官ヨリ之ヲ撰任ス同上第廿八條ヲ  
 第二十三條 士官以上ハ專ラ憲兵曹長以上ノ者ヨリシテ陸軍武官進級條例ニ基キ順次昇級  
セシムルヲ以テ正例トス 同上第廿九條ヲ  
第廿三條ニ改ム  
 但シ時宜ニ依リ他兵科ノ士官以上ヨリ之ヲ撰任スルヲアルヘシ

第三章 職務分掌

第二十四條 憲兵隊長ハ憲兵大(中佐)ノ内一名之ニ任シ憲兵本部長トナリ部下ノ憲兵ヲ統率  
シ其命令ヲ司リ其勤惰ヲ監視シ憲兵本部ノ事務ヲ總理ス 同上第三十條ヲ  
第廿四條ニ改ム  
内一名之ニ任シ  
ノ十三字ヲ加フ  
 第二十五條 隊長ハ各官廳ノ命令或ハ依頼ヲ受テ其職務ニ服行シ及ヒ其職務ノ事ニ係リテ  
 ハ直チニ各官廳ト往復スルヲ得同上(第廿一條)ヲ  
(第廿五條)ニ改ム  
 第二十六條 隊長ハ非常ノ事件アルヲ探知セハ即時ニ之ヲ内務卿陸軍卿司法卿及ヒ警視總  
監ニ急報スヘシ 同上(第廿二條)ヲ  
(第廿六條)ニ改ム  
 第二十七條 隊長ハ非常ノ事件アルニ際シテハ時宜ニ依リ直チニ鎮臺兵ノ應援ヲ要求スル  
ヲ得 同上(第廿三條)ヲ  
(第廿七條)ニ改ム

第二十八條 隊長ハ各大隊長ノ報告ヲ受ケ月末毎ニ報告書ヲ作り行政警察ニ係ル者ハ内務  
 卿ニ司法警察ニ係ル者ハ司法卿及ヒ檢事ニ申告シ其行政及ヒ司法ニ係ル者ヲ併セ陸軍卿  
ニ申報スヘシ 同上(第廿四條)ヲ  
(第廿八條)ニ改ム  
 但シ海軍部内ニ關スル報告ハ別ニ海軍卿ニ申告スヘシ  
 第二十九條 隊長ハ時々各管區并ニ各屯所ヲ巡廻スヘシ其夜巡ヲ爲ス時ハ軍曹及ヒ兵卒各  
一名ヲ具スルヲ得 同上(第廿五條)ヲ  
(第廿九條)ニ改ム  
 第三十條 本部長ハ憲兵少佐之ニ任シ長ヲ補佐シテ部事ヲ整理シ長事故アル時ハ其代理  
ヲ爲スコトヲ得 同上(第廿六條)ヲ  
(第卅七條)ヲ別除シ第  
卅三條ヨリ第卅九條迄十一條ヲ追加ス  
 第三十一條 次長ハ時々各管區并ニ各屯所ヲ巡廻スヘシ其夜巡ヲ爲ス時ハ伍長及ヒ兵卒各  
一名ヲ具スルコトヲ得  
 第三十二條 本部副官ハ憲兵大尉之ニ任シ次長ニ亞テ部事ヲ整理シ兼テ武器掛及ヒ書記ノ  
 勤惰ヲ監視ス  
 第三十三條 本部副官ハ本部長若クハ次長ノ命ヲ受ケ各管區並ニ各屯所ヲ巡回スヘシ其夜  
 巡ヲ爲ス時ハ伍長或ハ兵卒一名ヲ具スルコトヲ得  
 第三十四條 本部下副官ハ憲兵曹長之ニ任シ本部副官ノ命ヲ受ケ本部中ノ庶務ヲ掌ル  
 第三十五條 大隊長ハ憲兵少佐之ニ任シ部下ノ指揮ヲ司リ巡察ノ部署ヲ定メ其隊ノ事務ヲ  
 總理シ會計ノ事務ヲ監視ス

第三十六條 大隊長ハ時々所轄各管區並ニ各屯所ヲ巡回シ部下ノ勤惰ヲ監視ス其夜巡ヲ爲ス時ハ伍長及ヒ兵卒各一名ヲ具スルコトヲ得

第三十七條 大隊長ハ各中隊長ノ報告ヲ受ケ一週毎ニ報告書ヲ作り之ヲ隊長ニ申報スヘシ但非常若クハ至急ヲ要スル事件ハ急報又ハ日報ヲ以テ申報スヘシ

第三十八條 大隊副官ハ憲兵中尉之ニ任シ其隊中ノ庶務ヲ掌リ併テ武器掛及ヒ書記ノ勤惰ヲ監視ス

第三十九條 大隊副官ハ大隊長ノ命ヲ受ケ各管區並ニ各屯所ヲ巡回スヘシ其夜巡ヲ爲ス時ハ兵卒一名ヲ具スルコトヲ得

第四十條 大隊下副官ハ憲兵曹長之ニ任シ大隊副官ノ命ヲ受ケ隊中ノ庶務ヲ掌ル

第四十一條 中隊長ハ憲兵大尉之ニ任シ其中隊ノ指揮ヲ司リ又管區以下ノ會計給與ノ事ヲ管理ス同上第三十八條ヲ(第四十一條)ニ改メ(分隊長ハ其分隊)ノ七字ヲ(中隊長ハ憲兵大尉之ニ任シ其中隊)トシ(司)ノ下十二字ヲ削ル

第四十二條 中隊長ハ時々管區内ヲ巡回シ部下ノ勤惰ヲ監視ス其夜巡ヲ爲ス時ハ伍長或ハ兵卒一名ヲ具スルコトヲ得同上第三十九條ヲ(第四十二條)ニ改メ

第四十三條 中隊長ハ管區内ニ非常ノ事件アル時ハ直チニ出張シ之ヲ大隊長ニ急報シ其指揮ヲ受クルヲ例トス同上(第四十三條)ヲ(第四十三條)ニ改メ(分隊長)トシ(中隊長)トシ(之)ノ下(大)ノ字ヲ加フ

第四十四條 中隊長ハ各屯所ノ報告ヲ受ケ一週毎ニ報告書ヲ作り之ヲ大隊長ニ申報スヘシ同上(第四十一條)ヲ(第四十四條)ニ改メ(分隊長)トシ(中隊長)ニ改メ(之)ノ下(大)ノ字ヲ加フ

第四十五條 小隊長ハ憲兵中(少)尉ノ内之ニ任シ中隊長ノ命ヲ受ケ時々各屯所ヲ巡回シ部下ノ勤惰ヲ監視ス其夜巡ヲ爲ス時ハ兵卒一名ヲ具スルコトヲ得同上(第四十二條)ヲ(第四十五條)ニ改メ(中(少)尉)ヲ(小隊長)トシ(分隊長)トシ(之)ノ下(大)ノ字ヲ加フ

第四十六條 小隊長ハ各管區ノ事務ヲ分掌シ各屯所ノ報告ヲ掌ル同上(第四十三條)ヲ(第四十六條)ニ改メ(中(少)尉)ヲ(小隊長)トシ(分隊長)トシ(之)ノ下(大)ノ字ヲ加フ

第四十七條 小隊長ハ變死人等アル時ハ醫員ヲ率テ其場ニ臨ミ死骸ヲ檢視シ軍人ハ該軍衛ニ通報シ其他ハ親戚故舊ニ引渡スヘシ若シ親戚故舊其地ニアラサル時ハ區役所若クハ戶長役場ニ引渡スヘシ同上(第四十四條)ヲ(第四十七條)ニ改メ(中(少)尉)ヲ(小隊長)ニ改メ(其他)ノ下(大)ノ字ヲ加フ(親戚)云云ノ四十一字ニ改メ

第四十八條 小隊長ハ非常ノ事件アル時ハ之ヲ中隊長ニ急報シ其指揮ヲ受ク同上(第四十五條)ヲ(第四十八條)ニ改メ(中(少)尉)ヲ(小隊長)トシ(分隊長)トシ(之)ノ下(大)ノ字ヲ加フ

第四十九條 小隊副長ハ憲兵曹長之ニ任シ中隊長ノ命ヲ受ケ隊中ノ庶務ヲ掌リ併セテ書記ノ監督ヲ爲ス同上(第四十六條)ヲ(第四十九條)ニ改メ(曹長)ハ(分隊長)トシ(小隊副長)ハ(憲兵曹長)之ニ任シ(中隊長)ニ改メ

第五十條 半隊長ハ憲兵軍曹之ニ任シ小隊長ノ命ヲ受ケ小隊長ノ在ラサル屯所ニ於テハ古參ノ者其長トナリ小隊長ノ職務ヲ辦理ス同上(第四十八條)ヲ(第五十條)ニ改メ(起頭)軍曹ハ(受ケ)ノ下(中(少)尉)ヲ(小隊長)ニ改メ(ナリ)ノ下(中(少)尉)ヲ(小隊長)ニ改メ

第五十一條 半隊長ハ巡察ヲ派遣スルニ方リ其人員分隊ニ越ル時ハ之カ長トナリ分隊長以



下ノ勤務ヲ監視ス同上第四十九條ヲ第五十一條ニ改メ起頭(軍曹)ヲ(半隊長)ニ改メ(巡察ノ長)ニ改メ

第五十二條 本部武器掛ハ憲兵曹長同書記ハ憲兵曹長軍曹ヲ以テ之ニ任シ大隊附武器掛ハ憲兵軍曹同書記ハ憲兵軍曹伍長ヲ以テ之ニ任シ各副官ノ命ヲ受ケ事務ヲ分掌ス同上第五十二條以下五十八字ニ改メ

第五十三條 分隊長ハ憲兵伍長之ニ任シ巡察及ヒ護送等ノ事ニ當リ分隊ヲ以テスル時ハ其指揮ヲ爲シ兵卒ノ勤務ヲ監視ス同上第五十一條ヲ第五十三條ニ改メ起頭(伍長)ヲ(分隊長)ニ改メ

第五十四條 中隊附ノ書記モ亦憲兵伍長之ニ任シ小隊副長ノ命ヲ受ケ事務ヲ分掌ス同上第五十四條以下五十四字ニ改メ

第五十五條 兵卒ハ守區ヲ畫シテ巡察スル者ナリト雖モ警察上追蹤スヘキ者アルニ方リテハ自他ヲ區畫スルノ限リニ在ラス同上第五十三條ヲ第五十五條ニ改メ

又他ノ管區ト連續スルノ事件ハ相通牒シテ其處分ヲ爲ス渾テ巡察中ニ生スル事件ハ手帖ニ記載シ其報告ニ供ス

○憲兵卒概則ヲ定ム十八年一月六日 陸軍省達甲第一號府縣へ達  
憲兵卒概則左ノ通相定候條此旨相達候事  
但憲兵下士卒選擧概則ハ廢止ス

憲兵卒概則

第一條 憲兵卒ハ憲兵條例第十八條ニ基ツキ近衛及ヒ鎮臺ノ常備並ニ後備服役ノ兵卒二箇年以上在 管シタル者 中志願ノ者ニシテ行狀方正勤務勉勵且檢査ニ合格ノ者ヨリ選舉ス

第二條 憲兵卒ハ其入隊ノ日ヨリ管區内ノ合宿所ニ居住セシム但憲兵隊長ハ大隊長ノ具申ニ依リ外宿ヲ許スヲ得

第三條 憲兵卒ハ憲兵トナリタル日ヨリ更ニ七ヶ年間現役ニ服セシメ其役終ルノ後ハ初メテ兵卒トナリタル日ヨリ算シ服役年數ハ後兵令第四十二條ニ依ル以下之ニ同シ 十二箇年ニ滿タサル者ハ舊兵科ニ復シ近衛若クハ鎮臺ノ後備兵役ニ服セシム

第四條 現役滿期ノ後尚ホ現役ニ服センコトヲ請フ者ハ詮議ノ上再ヒ服役スルヲ許ス

第五條 前條再服役ハ三ヶ年ヲ以テ一期トス其再服役滿期ノ後尚ホ現役ニ服センコトヲ請フ者ハ更ニ詮議ノ上之ヲ許ス但再服役志願ノ者三ヶ年未滿ニシテ年齡定限ニ至ル者ハ其定限ニ至ル迄服役セシム

第六條 憲兵ノ卒品行不正又ハ任務不治等ノ者アルトキハ憲兵隊ヲ除キ初メテ兵卒トナリタル日ヨリ算シ十二ヶ年ニ滿タサル者ハ舊兵科ニ復シ其服役年限ニ應シ鎮臺ノ常備或ハ後備兵役ニ服セシム

第七條 服役中ハ家事ノ故障ヲ以テ免除ヲ請フコトヲ許サス然レモ主若クハ父兄等死歿シ又ハ重罪ノ刑ニ處セラレ或ハ癩疾不具等トナリ本人ヲ要スルニアラサレハ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルトキハ詮議ノ上免除スルコトアル可シ但服役中養子分家又ハ他家相續人トナリタル者ハ本條ノ事故ヲ生スルモ免除ノ詮議ニ及ハス

第八條 前條ニ依リ免除シタルトキハ初メテ兵卒トナリタル日ヨリ算シ十二箇年ニ滿タサル者ハ舊兵科ニ復シ其服役年限ニ應シ近衛若クハ鎮臺ノ常備或ハ後備兵役ニ服セシム但常備兵役ニ服ス可キ者ノ内未タ定期ノ服役ヲ終ヘサル者ハ其年限内郷里ニ歸休セシム

第九條 第七條ノ事故ヲ生シ免除ヲ願フ者ハ本人親屬二名 連署ノ願書ニ其事由ヲ詳記シ戶長並ニ郡(區)長及ヒ管轄處ノ奥書証印ニ尚ホ郡(區)及ヒ府(縣)駐在官ノ奥書証印ヲ受ケ家族書(癩疾ノ者ハ外ニ地方醫師診斷書又重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ刑名宣告書)ヲ添ヘ憲兵本部ニ願出ツ可シ

第十二類 軍事

第十條 憲兵卒ノ召募ハ陸軍卿其人及ヒ檢査格例ヲ定メ近衛都督又ハ鎮臺司令官ニ牒告シ各軍管ニ檢査官ヲ派出シ格例ニ準據シテ檢査ヲ爲シ選舉セシムルヲ例トス故ニ憲兵本部長ハ之ヲ要スルニ當リ召募ノ事ヲ上申ス可シ但時宜ニ依リ近衛又ハ其鎮臺ヲ限リ召募セシムルヲ可シ

第十一條 近衛都督ハ憲兵卒召募ノ牒告ヲ受レハ各隊長ニ達シ現役在管中ノ志願者ニシテ第一條ニ適當ノ者ヲ調査セシム

鎮臺司令官ハ憲兵卒召募ノ牒告ヲ受レハ各隊長及ヒ後備軍司令官ニ達シ常備並ニ後備近衛ノ歸休兵及ヒ豫服役中ノ志願者ニシテ第一條ニ適當ノ者ヲ調査セシム但時宜ニ依リ現役在管中ノ志願者ノミ調査セシムルモ妨ケナシ

第十二條 隊長ハ憲兵卒調査ノ達アレハ該隊中ノ志願者ヲ調査シ第一條ニ適當ノ者ト認ムルトキハ其人名簿ヲ製シ近衛都督若クハ鎮臺司令官ニ呈ス可シ

第十三條 後備軍司令官ハ憲兵卒調査ノ達アレハ府縣駐在官ニ達シ豫備後備兵及ヒ歸休兵中ノ志願者ヲ調査セシム駐在官ハ其志願者ヲ調査シ第一條ニ適當ノ者ト認ムルトキハ其人名簿ヲ製シ後備軍司令官ニ呈ス可シ

第十四條 後備軍司令官ハ前條駐在官ヨリ出ス所ノ人名簿ヲ審查シ意見アレハ之ヲ取捨シ近衛鎮臺ノ豫備後備兵及ヒ歸休兵ヲ區別シ更ニ志願者ノ人名簿ヲ製シ鎮臺司令官ニ呈ス可シ

第十五條 近衛都督鎮臺司令官ハ隊長又ハ後備軍司令官ヨリ憲兵卒志願者ノ人名簿ヲ出ストキハ點檢ノ上之ヲ憲兵本部ニ送付ス可シ

第十六條 憲兵本部長ハ憲兵卒志願者ノ人名簿ヲ受領スルトキハ之ヲ檢査官ニ付ス可シ檢査官ハ其人名簿ニ依リ檢査格例ニ準據シ檢査ヲ爲シ合格ノ者ハ其優等順序ニ從ヒ一連ノ番號ヲ附シ憲兵卒合格名簿ヲ製シ檢査ニ係ル一切ノ書類ト共ニ之ヲ憲兵本部長ニ呈ス可シ

第十七條 憲兵本部長ハ憲兵卒合格名簿ニ就キ優等ノ者ヨリ順次ニ定員ヲ選抜シ其採用ス可キ者ノ姓名及ヒ所屬隊號ヲ記載シ所管ニ照會シテ入隊セシム十八年甲第三十號省達ヲ以テ(記載シ)ノ下(陸軍卿ニ上申シ許可ヲ得)ノ十一字ヲ削除ス

第十八條 豫備後備兵及ヒ歸休兵中ノ志願者ニシテ檢査ノ爲メ鎮臺或ハ營所等ニ往復スル旅費ハ總テ自辨タル可シ

第六十 屯田兵條例ヲ定ム

十八年五月五日

屯田兵條例左ノ通相定候條此旨相達候事 第十八號官省院廳府縣へ達

屯田兵條例

第一章 總則

第一條 屯田兵ハ陸軍兵ノ一部ニシテ北海道樞要ノ地ニ配置シ本道ノ警備ニ充ツ但第七軍管管下諸縣ニ全ク徵兵令ヲ施行スルニ至レハ之ヲ廢スルモノトス 其本部ハ之ヲ札幌ニ置ク

第二條 屯田兵ノ建制ハ概テ步兵隊ニ基クト雖モ兵ヲ農ニ寓スルノ主旨ニ依リ平常ハ給與ノ家屋ニ居住シ開墾耕稼ノ事ニ從ハシメ有事ノ日ニ方リテハ戰列隊ニ編成シ敵衝ニ當ラシム

第三條 屯田兵ハ志願者函館縣札幌縣根室縣及中身體強壯且ツ年齡十七歲以上三十歲以下ノ者ヨリ撰用ス

第四條 屯田兵タル者ハ其家族ト共ニ北海道ニ移住シ兵役ニ服スルモノトス 其服役期限ハ豫メ之ヲ定メス故ニ服役者死亡スルカ其他事故アリテ免除セサルヲ得サル時又ハ年齡四十歲ニ至レハ其子弟ヲシテ兵役ヲ相續セシム但幼弱ニシテ未タ服役ニ堪ヘ

サル者ハ其成長ヲ待テ服役セシム

第五條 屯田兵ノ將校下士及ヒ兵卒ハ第六條ヨリ第十三條迄ニ據リ其進級ヲ爲スモノトス  
但進級法ハ其最下限ヲ示ス者ナルヲ以テ之ヲ超ユル者ト雖モ必シモ直チニ進級セシム  
ルノ例ニアラス

第六條 屯田兵卒ハ入隊後六ヶ月ノ後生兵學卒業ノ上ニ等卒ヲ命ス

第七條 一等卒ハ屯田兵二等卒ノ服役六ヶ月ヲ經タル者ヨリ撰抜シテ之ヲ命ス

第八條 上等兵ハ屯田兵一等卒中ヨリ撰抜シテ之ヲ命ス

第九條 二等軍曹ハ屯田兵上等兵ノ服役六ヶ月日ヨリ起算スルヲ經タル者ヨリ撰任ス

第十條 一等軍曹ハ屯田兵二等軍曹ノ服役六ヶ月ヲ經タル者ヨリ撰任ス

第十一條 曹長ハ屯田兵一等軍曹ノ服役一ケ年ヲ經タル者ヨリ撰任ス

第十二條 下副官ハ屯田兵曹長中ヨリ適任ノ者ヲ撰ニ之ニ任ス

第十三條 士官以上ハ屯田兵曹長以上ノ者ニテ左ノ停年最下限ヲ超エタル者ヨリ拔擢シテ  
順次進級セシムルモノトス

- 一 曹長ヨリ少尉ニ少尉ヨリ中尉ニ中尉ヨリ大尉ニ 滿二年
- 一 大尉ヨリ少佐ニ 滿四年
- 一 少佐ヨリ中佐ニ 滿三年
- 一 中佐ヨリ大佐ニ 滿二年

但少尉ニ限リ試補ヲ置キ少尉ノ缺員アル毎ニ曹長停年ノ最下限ヲ超エタル者ヲ撰

ニ少尉試補ニ陞セ其才能ヲ試ニ然ル後本官ニ任ス

第十四條 士官以上ノ缺員ハ前條ニ示ス如ク順次進級セシメ又ハ各兵科士官以上ノ者若ク  
ハ文官中ヨリ適任ノ者ヲ採用シ補填スルモノトス

### 第二章 職制

第十五條 屯田兵本部長ハ少將若クハ屯田兵大佐一名ヲ以テ之ニ任シ直ニ陸軍卿ニ隸シ部  
下ノ屯田兵ヲ統轄シ其勤惰能否ヲ監視シ屯田兵本部ノ事務ヲ總理ス

第十六條 本部長ハ有事ノ日ニ方リテハ屯田兵ヲ指揮シ方面ノ敵衝ニ當ルヲ以テ任トス

第十七條 屯田兵本部長ハ屯田兵中少佐ノ内一名ヲ以テ之ニ任シ長ヲ補佐シテ部事ヲ整  
理シ長事故アル時ハ其代理ヲ爲スコトヲ得

第十八條 本部副官ハ屯田兵大尉一名ヲ以テ之ニ任シ本部長ノ命ヲ奉シ部事ヲ整理シ課僚  
書記ノ勤惰ヲ監視ス

第十九條 大隊長ハ屯田兵少佐之ニ任シ部下ノ指揮ヲ掌リ勤惰能否ヲ監視シ又開墾授産等  
隊中百般ノ事務ヲ總理ス

第二十條 大隊副官ハ屯田兵中尉之ニ任シ其隊中ノ庶務ヲ掌リ下副官以下大隊附下士ノ勤  
惰ヲ監視ス

第二十一條 大隊下副官ハ屯田兵曹長之ニ任シ大隊副官ノ命ヲ受ケ大隊中ノ庶務ヲ掌リ其

細務ニ服セシム

第二十二條 中隊長ハ屯田兵大尉之ニ任シ部下ノ指揮ヲ掌リ勤惰能否ヲ監視シ又開墾耕稼等隊中ノ事務ヲ總理ス

第二十三條 小隊長ハ屯田兵中少尉之ニ任シ部下ノ指揮ヲ掌リ勤惰能否ヲ監視シ又中隊長ノ命ヲ受ケ開墾耕稼等ノ事務ヲ分掌ス

第六十一 陸軍武官結婚條例ヲ定ム

十四年五月三日

陸軍武官結婚條例別冊ノ通被相定候條此旨相達候事  
陸軍省達甲第十三號府縣へ達

陸軍省

陸軍武官結婚條例別冊ノ通相定候條此旨相達候事

明治十四年四月二十五日

左大臣熾仁親王

別冊

陸軍武官結婚條例

第一條 凡ソ軍人ハ最モ其品位ヲ重ニス故ニ其配偶ヲ擇ミ以テ終身ノ活計ヲ維持セシメ家政ヲ治メテ以テ其職掌ヲ確守セシム若シ配偶其匹ヲ擇ハス之ヲ輕忽ニセハ一ハ以テ其品位ヲ傷ケ一ハ以テ其營生ニ煩ハサレ遂ニ其職掌ヲ汚シ隨テ全軍ノ精力ヲ殘フニ至ル仍テ左ニ其制限ヲ設ク

第二條 凡ソ軍人ノ結婚セント欲スル者將官並ニ同等官ニ在テハ勅許ヲ仰キ准士官以上ニ在テハ陸軍卿ノ許可ヲ受クヘシ

第三條 下士卒常備服役中ハ結婚スルヲ許サス然レモ再服役以上ノ下士卒并ニ豫備後備軍服役中ノ下士卒ニ在テハ所管長官ノ許可ヲ受ケ結婚スルヲ得但憲兵并會計軍醫馬醫軍樂各部ノ下士卒ニ在テハ常備服役中ト雖モ所管長官ノ許可ヲ受ケ結婚スルヲ得

但憲兵並會計軍醫馬醫軍樂部ノ下士卒徵兵令ニ依リ徵集シタル看病卒ヲ除ク及ヒ砲兵監護工兵監護ニ在テハ常備服役中ト雖モ所管長官ノ許可ヲ得テ結婚スルヲ得十六年達甲第三十二號省達ヲ以テ但書ヲ追加ス

第四條 結婚ノ許可ヲ得ントスル者ハ第一號書式ニ照シ出願スヘシ

第五條 將官并ニ同等官ニ在テハ陸軍卿與書シ准士官以上ニ在テハ所管長官下士以下ニ在テハ所屬隊長(課長)豫備及ヒ後備軍下士以下ニ在テハ後備軍使府縣駐在官與書スヘシ

第六條 其娶ルヘキ婦人ハ行狀端正ノ者ニ非レハ結婚スルヲ許サス故ニ其行狀ヲ證スル爲メ第二號書式ニ照シ其婦ノ所在地戸長ノ調印シタル身元證書ヲ添フヘシ

第七條 現役士官并ニ同等官以下ニ在テハ家計保護金トシテ左ノ金額ヲ納メシメ陸軍省ニ之ヲ保存シテ以テ其生計ヲ保護セシム故ニ結婚出願ノ時第三號書式ノ證書ヲ出スヘシ

大尉並同等官 四百六拾圓  
中少尉並同等官 六百圓  
准士官 八拾圓

下士

八拾圓

第八條 第三條但書ニ載スル諸卒ニ在テ結婚スル時ハ第七條ニ準シ家計保護金ヲ納メシム其金額ハ下士ニ同シ

第九條 第七條ノ金額ハ本人又ハ其娶ルヘキ婦人ノ所有或ハ雙方ノ所有ヲ合シタルモ妨ケナシ

但シ公價證書ヲ以テ納ムルモ妨ケナシト雖モ大藏省定ル所ノ價格ヲ以テ之ヲ算シ第七條ノ金額ニ相當セシム

第十條 結婚ヲ整ヘタル時ハ其旨速ニ届出ヘシ但シ家計保護金ハ本文届出同時ニ差出ヘシ

第十一條 家計保護金ヲ還付スルハ左ノ項目ニ依ルヘシ  
第一項 上長官ニ昇進セシ時

第二項 恩給ヲ受ルノ權利ヲ有スル時

第三項 本人死没スルカ又ハ現役ヲ離ル、時

第四項 其妻離別スルカ又ハ死亡シタル時  
第五項 天災地變ニ罹リ家産擧テ滅亡シタル時  
第十二條 結婚願書式并ニ證書式左ノ如シ  
第一號書式

結婚願

使府縣國郡區町村  
族籍職榮

何 某 何 女(姉)(妹)

某

年 號 月 日 生  
年 號 月 何 年 何 月

某 儀

今般熟談ノ上右ニ記載ノ者ト結婚致シ度依テ別紙身元證書(家計保護金證書)相添差出候間御許可被下度此段奉願候也

年 號 月 日

官 姓 名 印

太政大臣(陸軍卿)所管長官宛

前書之趣篤ト取調候處不都合無之ニ付御許可相成度候也

陸軍卿(所管長官)何隊長(何課長)

官 姓 名 印

第二號書式

身 元 證 書

使府縣國郡區町村  
族籍職榮

何 某 何 女(姉)(妹)

某

第十二類 軍事

右ハ行狀端正ノ者ニ有之候此段致保證候也

年號月日生  
年號月何年何ヶ月

使府縣國郡區町村戸長戸長アラサル地ハ區長

姓名印

第三號書式

家計保護金證書

一金何百何拾圓也

右ハ今般結婚奉願候ニ付御許可ノ上ハ家計保護金トシテ可差出候也

年號月日

官姓名印

○現役輜重輸卒入營前結婚ヲ許ス

十九年七月三十日  
陸軍省令甲第三十五號

現役輜重輸卒ノ儀入營期日即四月二十日後ハ結婚不相成儀ニ候處自今諸兵同様入營前ハ結婚スルヲ得  
但本年省令甲第九號ニ據リ郷里ニ於テ服役ノ者ハ歐法式施行前亦本文ニ同シ(甲第九號ハ略記ス)

第六十二 海軍條例 十九年四月二十六日布告

勅令第二十四號

朕海軍條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治十九年四月二十二日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文  
海軍大臣伯爵西郷從道

勅令第二十四號

海軍條例

第一條 凡ソ事軍令ニ關スル者ハ參謀本部長奏聞參畫シ 親裁ノ後海軍大臣之ヲ奉行ス

第二條 戰時ニ在テ 親裁ノ軍令ハ直ニ鎮守府司令長官艦隊司令長官若クハ特命司令官ニ

下シ帷幕ト相通報シテ間斷ナカラシム

第三條 海軍ノ軍政ハ海軍省官制ニ依リ海軍大臣之ヲ掌ル

第四條 海軍省ニ將官會議造船會議兵器會議ヲ置ク

第五條 海軍省ハ海軍兵學校機關學校水路部督買部衛生部軍醫學校會計検査部兵器製造所

火藥製造所ヲ管轄ス

第六條 帝國ノ海岸及海面ヲ分チテ五海軍區トナスコト左ノ如シ

第一海軍區

陸中陸奥國界ヨリ紀伊國南牟呂東牟呂郡界ニ至ルノ海岸海面及小笠原島ノ海岸海面

第二海軍區

紀伊國南牟呂東牟呂郡界ヨリ石見長門國界ニ至リ又筑前國遠賀宗像郡界ヨリ九州東海

岸ニ沿ヒ日向大隅國界ニ至ルノ海岸海面及四國ノ海岸海面並内海

第三海軍區

筑前國遠賀宗像郡界ヨリ九州西海岸ニ沿ヒ日向大隅國界ニ至ルノ海岸海面及壹岐對馬

沖繩諸島ノ海岸海面

第十二類 軍事

第四海軍區

石見長門國界ヨリ羽後陸奥國界ニ至ルノ海岸海面及隱岐佐渡ノ海岸海面

第五海軍區

北海道陸奥ノ海岸海面及津輕海峽

第七條 各海軍區ノ軍港ニ鎮守府ヲ置キ其軍區ヲ管轄セシム

鎮守府ノ名稱ハ其所在ノ地名ニ依ル

第八條 鎮守府司令長官ハ管内ニ於テ軍令ヲ主宰シ軍紀風紀訓練ヲ董督シ軍政ヲ管理ス

第九條 各軍港ニ司令官ヲ置キ命ヲ鎮守府司令長官ニ承ケ港内ノ守備其他諸般ノ事ヲ掌ラ

シム

第十條 艦隊ハ大艦隊中艦隊小艦隊ノ三種ニ區別ス

第十一條 艦隊司令長官及司令官ハ艦隊ヲ統率シテ環海ヲ守衛シ攻守ノ役ニ服ス

第十二條 艦船ハ各鎮守府及各艦隊ニ分屬ス

○海軍區及海軍鎮守府ノ位置ヲ定ム 十九年五月五日布告

朕茲ニ第二海軍區及第三海軍區鎮守府ノ位置ヲ定ムルコトヲ裁可ス

勅令第三十九號

明治十九年五月四日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文  
海軍大臣伯爵西鄉從道

勅令第三十九號

第二海軍區及第三海軍區鎮守府ノ位置ヲ定ムルヲ左ノ如シ但其府開廳マテハ横須賀鎮守府ヲシテ第二第三海軍區ヲ管轄セシメ第四及第五海軍區鎮守府ノ位置ヲ定ムルマテハ其軍區ヲ横須賀鎮守府ノ管轄トス

一 第二海軍區安藝國安藝郡吳港

一 第三海軍區肥前國東彼杵郡佐世保港

○横須賀海軍港規則ヲ定ム 十九年九月七日

横須賀海軍港規則ヲ定ムルコト左ノ如シ 海軍省令第五百五號

横須賀海軍港規則

第一條 横須賀海軍港ニ入港シ或ハ入港セントスル艦船及ヒ該港沿岸居住ノ人民ハ此規則ヲ遵守スヘシ

第二條 横須賀海軍港ハ左ノ圖面ノ如ク之ヲ三區ニ分チ其一線以内ヲ第一區トシ二線以内ヲ第二區トシ三線以内ヲ第三區トス

第三條 艦船港内第二區ニ進入スルトキハ航海部長ノ指示ニ從ヒ其碇泊場所ヲ定ム可シ而シテ航海部長ノ許可ナク其場所ヲ變ス可カラヌ又碇泊セシ艦船ト雖モ港内ノ妨碍アリト認ムルトキハ退轉セシムルコトアルヘシ

第四條 艦船ハ左ニ記列スルモノヲ除クノ外航海部長ノ許可ナクシテ港内第一區ニ進入

ス可カラス又許可ヲ得テ同区内ニ進入セシ艦船ノ進退ハ總テ航海部長ノ指示ニ從フヘシ

但左ニ記列スルモノト雖モ碇泊又ハ着船ノ場所ハ總テ航海部長ノ指示ニ從フヘキモノトス

- 一 艦船附屬小汽船及ヒ端船
  - 二 十五噸以下ノ海軍所屬船
  - 三 鎮守府司令長官ノ許可ヲ得テ一定ノ場所ヨリ軍港内ヘ往復スル船
  - 四 海軍ノ用品ヲ回漕スル雇船又ハ注文品ヲ積載スル商船及ヒ解船
- 第五條 港内第一區第二區ニ碇泊スル艦船ハ航海部長ノ許可ナクシテ諸浮標ニ繫留スヘカラス

第六條 風波等ニテ端舟ノ往復シ能ハサルトキ避難ノ爲メ港内第二區ニ進入ノ艦船ハ航海部長ノ指示ヲ待タズ端地ヲ取ルコトヲ得然レトモ第一區ニ進入スルヲ許サス

第七條 火藥ダイナマイト等ノ如キ爆發物ヲ積載スル艦船ハ港内第一區ニ進入スルヲ許サス又火藥庫ヲ距ル百三十間<sup>二百六十碼</sup>以内ニ碇泊スルヲ許サス

但航海部長ニ於テ無害ト認定スルモノハ此限ニ在ラス

第八條 小汽船ハ火藥庫ヲ距ル百三十間<sup>二百六十碼</sup>以内ニ接近ス可カラス又解舟漁船ハ同距離以内ニ於テ火ヲ焚クヘカラス

第九條 傳染病者アル艦船ハ港内第二區ニ進入スルコトヲ禁ス

但海港檢疫ノ爲メニ碇泊スル艦船ハ此限ニ在ラス

第十條 港内第三區中ハ艦船何レノ地位ニ碇泊スルモ隨意タルヘシト雖モ鎮守府司令長官ニ於テ港内ノ妨碍アリト認ムルカ或ハ臨機必要ト認ムルトキハ其繫留場所ヲ指示シ又ハ退轉ヲ命スルコトアルヘシ

第十一條 艦船ハ港内第二區第三區ニ於テハ禮砲又特ニ認可シタルモノ、外ハ砲銃ノ發射ヲ禁シ第一區ニ於テハ總テ砲銃ヲ發スルコトヲ禁ス

第十二條 港内第一區第二區ニ於テ灰燼或ハ塵芥ヲ遺棄スヘカラス艦船ニ於テ其遺棄ニ供スル解舟ハ造船所ニ請求スヘシ其他第三区内ト雖モ有害ト認ムル場所ハ遺棄ヲ禁シ臨時遺棄スヘキ場所ヲ指示スルコトアルヘシ

第十三條 港内第一區ニ於テハ航海部長ノ許可ナクシテ漁業ヲ爲スヘカラス

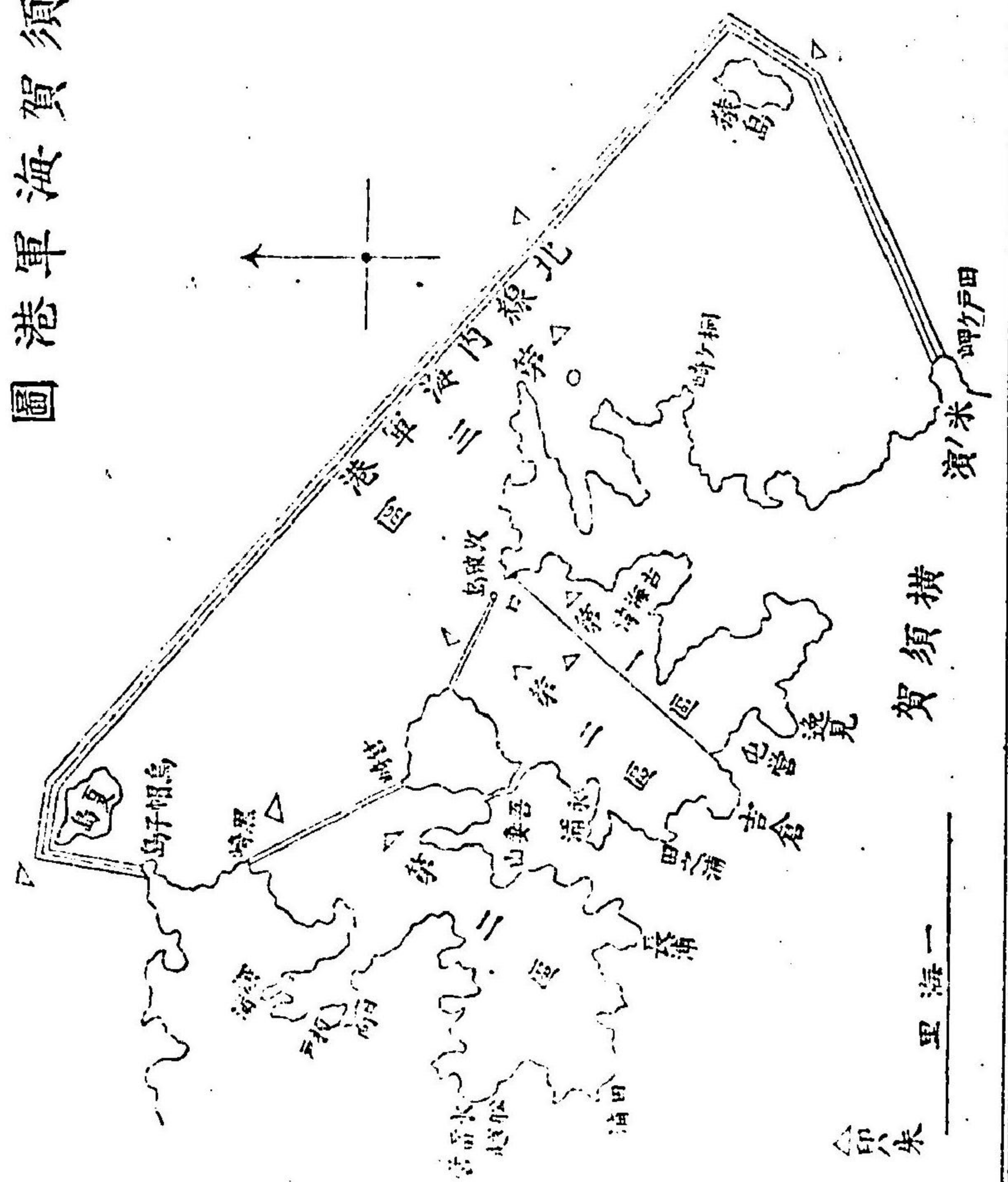
第十四條 港内沿岸ノ土地ハ何區ヲ論セズ總テ鎮守府司令長官ノ許可ナクシテ其形ヲ變換シ又ハ棧橋波止場ヲ設ク可カラス

第十五條 軍港内ト他港ト定期航海ノ營業ヲ爲サントスル者ハ地方廳ヲ經由シ鎮守府司令長官ノ許可ヲ請フヘシ右許可ヲ經ル者ト雖モ該長官ニ於テ有害又ハ危險ト認ムルトキハ臨時港内ニ進入スルコトヲ停止スルコトアルヘシ

第十六條 海軍部外ノ者ニシテ此規則ニ從ハサル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス



橫須賀海軍港圖



二百九十二

○鎮守府條例ヲ定ム

十七年十二月十五日  
海軍省第二十三號府廳へ達

鎮守府條例左ノ通相定ム此旨爲心得相達候事

鎮守府條例

- 第一條 鎮守府ハ海軍港ニ置キ艦隊其他ニ屬セサル艦船ヲ管轄シ水兵諸工火夫ノ練習及ヒ兵器石炭物品ノ貯藏配賦并ニ艦船ノ製造修理等ニ關スル事務ヲ總理シ且ツ其所在港内ヲ管轄守衛スル所トス
- 第二條 鎮守府ノ下ニ造船所屯管武庫倉庫病院軍法會議及ヒ監獄ヲ置キ又港内旗艦ヲ置ク
- 第三條 鎮守府長官堂人將官ヲ以テ之ニ補シ所轄諸員ヲ統率シ主管ノ事務ヲ總理ス
- 第四條 長官ハ主管ノ事務ニ於テハ卿ニ對シ其當否ヲ辨明スルヲ得而シテ亦擔保ノ責ニ任ス
- 第五條 長官ハ所轄諸員ノ進退黜陟ヲ卿ニ具上スルヲ得
- 第六條 長官ハ在港ノ海軍艦船ニシテ他管ノ者ハ港内一般ニ係ル事項及ヒ其艦裝修理等ニ係ル事項ニ限リ之ヲ指揮ス可シ
- 第七條 長官ハ戰時或ハ非常ノ事變ニ際シテハ其港内ニ在ル艦船其他海軍軍人軍屬ハ他管ノ者ト雖正總テ之ヲ指揮シ其港守衛ノ役ニ服セシムルノ權ヲ有ス
- 第八條 長官ハ内外國ノ艦船ヲ論セス入港ノ艦船ニ港内規則ヲ遵守セシム可シ
- 第九條 長官ハ修理ヲ要スル艦船入港スルハ造船所員ヲシテ其損所ヲ檢視セシメ成規ニ從ヒ之ヲ處分ス可シ
- 第十條 長官ハ海軍艦船ヨリ定例外ノ器具物品等ヲ請求スルハ其要否ヲ審査シ處分ス可シ其定例ニ係ルモノハ各其主務廳ニ委任ス可シ
- 第十一條 長官ハ艦船修理ニ際シ船體兵器船具若クハ汽機等ノ變更ヲ要スルハ其意見ヲ卿ニ具狀ス可シ
- 第十二條 長官ハ艦裝落成ノ艦船或ハ解任ノ爲メ入港スル艦船ハ之ヲ點檢シテ其現狀ヲ卿ニ報告ス可シ
- 第十三條 長官ハ常ニ艦下艦船ノ現狀及ヒ性質並ニ委員ノ景況ヲ詳知シ若シ艦船役務ニ適セサルヲ發見スルハ速

第十二類 軍事

二百九十三

二卿ニ報告ス可シ

- 第拾四條 長官ハ其新補ノ時及ヒ毎年一度所轄艦船管轄官解ヲ點檢シ又其艦船ヲ外國ニ派遣スルキハ其發航ノ前ト歸着ノ後トニ之ヲ點檢シ其詳細ヲ卿ニ報告ス可シ
- 第拾五條 長官ハ前條點檢ノ外必要ト思考スルキハ點檢ヲ行フ可シ
- 第拾六條 長官自カラ點檢ヲ行フ能ハサルキハ麾下ノ將校ヲシテ代理セシムルヲ得
- 第拾七條 長官ハ麾下艦船ノ船體汽機兵器船具等ノ變更ヲ要スルト思考スルキハ其利害得失ヲ卿ニ具狀ス可シ
- 第拾八條 長官ハ需用物品ノ適否得失及ヒ給與ノ方法ニ於テ意見アルキハ之ヲ卿ニ具狀ス可シ
- 第拾九條 長官ハ海軍艦船ノ新製及ヒ改造ニ際シ意見アルキハ之ヲ卿ニ具狀ス可シ
- 第貳拾條 長官ハ新製及ヒ改造ノ艦船試驗ノ爲メ航海ヲ要スルキハ豫メ卿ニ報告ス可シ
- 第貳拾壹條 長官ハ所管港内ニ傳染病者アルキハ速ニ卿ニ報告ス可シ
- 第貳拾貳條 長官ハ所管港内ニ於テ外國軍艦ノ發着アルキハ其時々卿ニ報告ス可シ
- 第貳拾三條 長官ハ所管港内ニ來泊スル外國軍艦ノ名稱種類砲數馬力速力及ヒ乘員等總テ其勢力ニ關スル事項ヲ每三ヶ月卿ニ報告ス可シ
- 第貳拾四條 長官ハ事故アルキハ重大ノ事件ヲ除クノ外臨時次官ニ委任スルヲ得
- 第貳拾五條 長官ハ左ニ記列スル事項ハ卿ノ認可ヲ經ルニ非サレハ施行スルヲ得ス
- 第壹 定例外ノ經費金及ヒ器具物品等ヲ要スル事
- 第貳 水兵諸工火夫ヲ期限内ニ免役スル事
- 第參 外國人ト諸條約書ヲ交換スル事
- 第肆 報廢ノ物品器具等ヲ賣却スル事
- 第伍拾六條 長官ハ左ニ記列スル事項ハ之ヲ專行スルヲ得
- 第壹 所管艦船管ノ内則及ヒ官廳ノ處務内規ヲ創設改良スル事
- 第貳 所轄判任官以下ヲ左右交換スル事
- 第參 所轄ノ卒或ハ日給七拾錢以下ノ傭員ヲ進退黜陟スル事

- 第四 判任以下ノ技術員ニ加俸ヲ給與シ或ハ之ヲ増減スル事
- 第五 所轄ノ下士以下ヲ艦船其他ニ分配スル事
- 第六 麾下ノ艦船ヲ二百里以内ヘ航海セシムル事
- 第七 判任官以下ノ除服出勤ヲ命スル事
- 第八 所轄諸員ニ分課ヲ命シ及ヒ之ヲ五拾里以内ノ地ニ派出セシムル事
- 第九 所管ノ家屋建物ヲ修繕スル事
- 第拾 主管ノ事務ニ付各廳ニ對シ其名ヲ署シ照會往復スル事
- 第貳拾七條 鎮守府次官登人造船所長ヲ以テ之ニ兼補シ長官ヲ補佐シテ府内ノ事務ヲ調理シ長官事故アルキハ其代理ヲ爲ス
- 第貳拾八條 次官ハ長官事故アルキ特ニ委任セラレタル事件ハ長官ノ名ヲ以テ命令ヲ出スヲ得
- 第貳拾九條 長官傳令使登人大尉若クハ中尉ヲ以テ之ニ補シ常ニ長官ニ隨從シ其命令ヲ傳達シ及ヒ其信號ヲ管掌シ其他總テ長官ノ命スル事務ニ服從ス
- 第三拾條 長官秘書登人佐官若クハ主計監ヲ以テ之ニ補シ長官ノ處分ニ係ル文書ノ往復交付官印ノ監守公文書類ノ保存諸報告ノ調製及ヒ他ノ主管ニ屬セサル書類ノ審査其他府内一切ノ事務ヲ管理ス
- 第三拾壹條 長官秘書補五人尉官若クハ主計主計補ヲ以テ之ニ補シ秘書ニ屬シ文書ノ往復交付等ノ事務ニ服從ス
- 第三拾貳條 機關部長登人機關大監若クハ機關中監ヲ以テ之ニ補シ鎮守府所轄艦船ノ機關ニ係ル事ヲ監督ス
- 第三拾三條 機關部長ハ鎮守府所轄艦船ノ機關ニ係ル書類ヲ審査シ若シ意見有ラハ其意見ヲ附シ之ヲ長官ニ出ス可シ
- 第三拾四條 大機關士或ハ中機關士登人ヲ機關部長ニ屬シ其職務ヲ補助セシム
- 第三拾五條 軍醫部長登人軍醫大監若クハ軍醫中監ヲ以テ之ヲ補シ鎮守府及ヒ其所轄艦船管轄官解ノ醫務衛生ニ係ル事ヲ監督ス
- 第三拾六條 軍醫部長ハ鎮守府及ヒ其所轄艦船管轄官解ノ醫事ニ係ル書類ヲ審査シ若シ意見有ラハ其意見ヲ附シ之ヲ

長官ニ出ス可シ

第三拾七條 大軍醫或ハ中軍醫登人ヲ軍醫部長ニ屬シ其職務ヲ補助セシム  
第三拾八條 主計部長登人主計大監若クハ主計中監ヲ以テ之ニ補シ鎮守府及ヒ其所轄艦船管轄官廳ノ會計ニ係ル事ヲ監督ス

第三拾九條 主計部長ハ鎮守府及ヒ其所轄艦船管轄官廳ノ會計ニ係ル書類ヲ審査シ若シ意見有ラハ其意見ヲ附シ之ヲ長官ニ出ス可シ

第四拾條 主計部長ハ鎮守府及ヒ其所轄艦船管轄官廳ノ定額金豫算外止ムヲ得サル臨時費用ヲ要スルハ其豫算ヲ調査シ之ヲ長官ニ出ス可シ

第四拾壹條 主計部長ハ主計長以下諸員ヲシテ其職務ヲ補助セシムルヲ得

第四拾貳條 主計長登人大主計ヲ以テ之ニ補シ鎮守府及ヒ其所轄武庫倉庫軍法會議監獄署經費金錢ノ出納其他會計ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理ス

第四拾參條 主計主計補助人ヲ主計長ニ屬シ會計ニ係ル事務ニ服從セシム

第四拾肆條 前諸條ニ掲クル職員ノ外筆記若干人ヲ置キ其主務ニ從事セシム

○海軍下士以下旅行證票規則 十一年十一月四日  
海軍省ニ第拾號府縣へ達  
常省下士以下旅行證票規則別冊之通相定候條爾令右ニ照準可取計旨豫テ其筋へ可相達置此旨相達候事

別冊

旅行證票規則

第一條 海軍下士以下公用並私用ト雖モ允許ヲ得旅行スル者ハ總テ書式之旅行證票ヲ授與シ公命ヲ帶ヒ或ハ公允ヲ得ルノ證トナスヘシ

但本人歸校ノ上ハ直ニ還納ス可シ

第二條 證票ハ本管廳(鎮守府兵學校等)ノ印ヲ押シ豫テ諸艦船管長ニ渡置キ本人ニ授與スルハ其艦船管等ノ印ヲ刺押

シ長或ハ副長之ニ記名調印スル者トス

第三條 旅中若シ病氣或ハ天災地變等ニテ不得止滞在スルハ該地(郡區)戶長ニ證票ヲ示シ而シテ右證票裏面宿泊證書ノ部ニ其事由月日等ヲ記載調印ヲ受ケ尤病氣ハ海軍醫官若クハ該地醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ  
(病氣ハ)ノ下七字ヲ加ヘ但書ヲ刪除ス  
十七年十一月海軍省

第四條 該地方ニ到着スレハ直ニ該地ノ(郡區)戶長ニ證票ヲ示シ宿泊證書ニ着後ノ月日ヲ記載調印ヲ受ケヘシ  
但事故アリノ允許ヲ得延滞滞在スルハ第三條ノ手續ヲナスヘシ

第五條 證票ヲ萬一亡失スルハ速カニ其事由ヲ該地(郡區)戶長へ届ケ再下ノ願書ニ與印ヲ受ケ之ヲ各所轄艦船管(ニ送呈請求スルハ更ニ送附スヘシ尤歸校ノ時日ニ迫リ再下出願シ能ハサルカ又ハ送附ナキ内滿期ニ至リ候節ハ該地(郡區)戶長ノ證票ヲ以歸校スルヲ得ヘシ

但其手續ハ第三條第四條ニ同シ

第六條 公務旅行ノ者海軍所轄艦設置ノ地方ニ在テハ該廳ニ於テ第三條以下ノ手續ヲナス者トス尤病氣ハ海軍醫官若クハ該地醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ  
十七年十一月海軍省  
第二十號達ヲ以テ(醫官)ノ下七字ヲ加ヘ但書ヲ刪除ス

旅行證票		旅行證票裏面	
旅行證票	〔本籍〕 〔職名何基〕 〔年齢〕	宿泊證書	〔内ハ朱書〕
〔何〕號	〔蓋判管印章〕	〔何年何月何日何地 ニ向ケ發程〕	〔何年何月何日何地 發程〕
〔職名何基〕	〔年齢〕	〔往〕	〔還〕
大ケ	顔		
口	色		
	眼		
	痕痕		
	別徴		
足	紙		
片	面		
	票		
	裏		
	書		
	若		
	此		
	證		
	裏		
	面		
	宿		
	泊		
	證		
	書		
	〔蓋判管印章〕		

〔何御用ニ付何月何日何村出發何地ニ旅行爲候候事〕 〔何々ニ付何月何日ヨリ何月何日迄何地歸省允許候事〕 右 明治年 月 日 〔本官印〕 〔何總管長或ハ副長〕 〔官姓名印〕	八郡 〔何月何日何地ニ着ス〕 〔何地〕 〔郡區長印〕 〔何月何日ヨリ何日迄病氣或ハ川支ニ由テ何方滞在〕 〔前同前〕	〔舊法同上〕
--	--	--------

○海軍下士服役規則ヲ定ム

十七年六月廿八日 海軍省第七號府縣へ達

海軍下士服役規則

- 第一條 海軍下士ノ現役年期ハ左ノ如シ
- 第一 卒ヨリ下士ニ任シタル者ハ初メテ下士ニ任シタル日ヨリ滿七ケ年
  - 第二 直ニ下士ニ任シタル者ハ其初任ノ日ヨリ滿十二ケ年
  - 第三 樂隊下士ハ樂生ヲ命シタル日ヨリ起算シ滿十二ケ年
- 第二條 前條第一項ニ相當スル者ト雖モ其五等卒准卒及十七歳未滿ノ服役年期ヲ除キ卒ノ服役年期ヲ通算シテ十二ケ年ニ未滿ノ者ハ滿十二ケ年迄服役セシム
- 第三條 堂袍証狀授與ノ者ハ授與ノ日ヨリ五ケ年間ハ服役滿期ニ至ルト雖モ服役ヲ免セス
- 但服役滿期後ハ再役トス 十八年十二月十六號 省達ヲ以テ但書ヲ追加ス
- 第四條 服役滿期ノ後尚一ケ年以テ再役志願ノ者ハ詮議ノ上之ヲ許ス 同上達ヲ以テ以上ノ下ノ服役ヲ願フヲ再役志願ノト改ム

第五條 處刑及逃亡中ノ日數ハ服役年期ニ算入スルコトナシ

第六條 服役年期中ハ自己ノ願ニ因テ服役ヲ免スルコトナシ然レモ一家ノ生計ヲ失フカ如キ不得止事故アル者ハ本人及ヒ親族二名以上通署所管長官ニ宛テ其事由ヲ詳記シ戶長郡區長及ヒ地方廳ノ與書證印ヲ受ケ戶籍明細書交兄弟等ノ疾ルモノハ醫ヲ添ヘ願出ルルハ詮議ノ上服役ヲ免スルコトアルヘシ 同上達ヲ以テ本人ノ下及ヒ追加ヘシ 病ニ原因ス師ノ診察書 但服役中養子分家又ハ他家相續人トナリ本條ノ事故ヲ生シタル者ハ詮議ニ及ハス

第七條 服役中父母ノ重病或ハ一家ノ安危ニ係ル等ノ事故アル者本人ヨリ其事由ヲ詳記シ 重病ハ醫師ノ診察書ヲ添ヘ願出ルルハ詮議ノ上往後ヲ除キ三十日以内ノ歸省ヲ許ス 同上達ヲ以テ(事故ノル者)ノ下ニ字ヲ加ヘ別註ノ下ニ七字ヲ加フ

第八條 服役滿期ノ者ト雖モ航海中又ハ戰時或ハ事變ニ際スルハ免役ヲ延期スルコトアルヘシ

第九條 服役滿期或ハ第六條ノ事故ニ由リ退職若クハ免官シタル後再役志願ノ者ハ三箇年以上ノ年期ヲ定メ戶長郡區長及ヒ地方廳ノ與書證印ヲ受ケ戶籍明細書ヲ添ヘ領守府ニ宛テ願出ヘシ 十九年三月第一號 省令ヲ以テ追加

但身體檢査及學術試驗ニ不合格ノ者ハ採用スルコトナシ

○海軍下士家族扶助金給與方

十七年九月十五日 海軍省第十三號府縣へ達

今般大政官第二十一號ヲ以テ海軍志願兵徵募規則第十二條中改正ノ義御布達相成候ニ付テハ下士家族扶助金ノ義モ同様相心得ヘシ尤現今服役中ノ者滿期迄ハ從前ノ通給與候條爲心得此旨相達候事

○海軍下士卒家族扶助金給與法

十七年九月廿六日 海軍省第十五號府縣へ達

- 一 海軍兵員ニ編入及ヒ退職退役或ハ轉免死亡等ノ節一箇年未滿ノ端月アル時ハ其月數ニ應シ月割ヲ以給與スヘシ 但養子又ハ復籍等ノ事故ニ依リ甲乙兩家ニ跨ル月ハ日割ヲ以テ區分給與スヘシ 十八年十二月十五號省達ヲ以テ但書ヲ追加ス
- 二 海軍刑法第百十九條第百二十條第百三十三條第百三十四條第百三十五條ノ罪ヲ犯シタル者其不在中ハ停止ス而シ

テ其給與法ハ仍ホ前項ニ準ス

三 獨身ノ附籍者ハ給與スヘキ限ニ在ラス

四 毎年給與ノ金額ハ會計年度ニ依リ前半年後半年ノ二期ニ分テ前半分ハ其年十一月ニ後半分ハ翌年五月ニ會計局ヨリ支出シ該家族居住ノ地方廳ヲ經テ下附スヘシ  
十八年二月乙第三號省達ヲ以テ全項ヲ改正シ同年十二月乙第二月(五)月(五)月ト改ム

五 地方廳ニ於テ金額下附ノ際家族失踪等ノ事故ニ依リ六ヶ月以上受領者ナキ時ハ其受領者ナキ間ノ金額ハ之ヲ給セ  
ス十八年二月乙第三號省達ヲ以テ本項ヲ追加ス

○海軍下士以下家族扶助金ニ關スル事務及ヒ支給主管ヲ定ム  
十九年三月十一日 海軍省令第十號海軍一般北海道廳府  
縣(沖繩縣ヲ除ク)

海軍下士以下家族扶助金ニ關スル事務及其支給ハ自今横須賀鎮守府主管ト相定候條右ニ關スル事項ハ總テ同府へ申出  
ヘシ

第六十三 海軍志願兵徵募規則中ヲ改正ス  
十九年三月八日 海軍省令第二號

明治十八年 月十三號太政官布達海軍志願兵徵募規則第十五條及第三十八條左之通改正ス

第十五條 地方廳徵募ノ達ヲ受ケタルトキハ本籍寄留ノ別ナク志願人員ヲ海軍省ニ届出可  
シ

第三十八條 臨時志願兵ノ補缺員 年期中ノ者ノ缺ヲ補  
充スルモノヲ云フ 要スルトキハ募兵使ヲ派遣セズ鎮  
守府ニ於テ徵募スルコトヲ得

○艦船警備夫規則ヲ定ム  
十九年二月十九日 海軍省令第六號府縣へ達

艦船警備夫規則左ノ通定ム  
海軍艦船警備夫規則

第一條 艦船警備夫ハ艦船管ニ於テ檢査ノ上備入スルモノトス

第二條 艦船警備夫ハ左ノ職務ニ使役ス  
從僕 裁縫夫 剃夫

第三條 備夫ハ年齢十九歳(從僕ハ)ヨリ三十五歳迄ノ者トス  
十五歳)

第四條 艦船管ニ於テ備夫ヲ要スルトキハ廣告其他ノ方法ヲ以テ徵募ス

第五條 備夫ニ箇年以内ハ自己ノ都合ヲ以テ解備ヲ請フヲ許サズ又戰時事變及航海中ハ二箇年以外ト雖モ之ヲ許サ  
ハルコトアル可シ

第六條 志願人ハ父兄其他親族或ハ後見人ヲ以テ身元引受人ト爲ス可シ但願出ノ地ニ親族後見人ナキトキハ其地ニ本  
籍アリ身元正確ナル者ヲ以テ之ニ充ルコトヲ得

第七條 身元引受人ハ第壹號書式ノ願書ニ本人ノ履歷書ヲ添へ各艦船管ニ出ス可シ

第八條 左ニ掲クル者ハ備夫ニ採用セス

- 一 陸海軍諸兵ノ豫備後備兵役ニ在ル者及ヒ先入兵タル者
- 二 陸海軍兵ノ補充員タル者
- 三 刑事被告人トナリ裁判未決ノ者
- 四 公權停止中ノ者
- 五 重罪ノ刑ニ處セラレタル者

第九條 備夫ニ採用セラレタルトキハ身元引受人ヨリ第二號書式ノ戸籍明細書ヲ出ス可シ

第十二類 軍事

第十條 備中食料被服ハ總テ官給トス  
 第十一條 備中ハ相當ノ日給ヲ支給ス  
 第十二條 傷痍疾病ヲ受ケタル者備中ハ官費ヲ以テ治療セシム  
 第十三條 艦船管ノ都合ニ依リ身元引受人ナキ地ニ於テ解備スルトキハ相當ノ旅費ヲ給ス  
 第十四條 備中公務ノ爲メ死傷スルトキハ左ノ區別ニ依リ給助金ヲ支給ス  
 一 重傷死ニ至ル者ノ寡婦又ハ相續ノ孤兒ニハ一時賜金五拾圓ヲ給ス但寡婦アレハ孤兒ニ給セス  
 二 寡婦又ハ孤兒ノ給助ヲ受クル者ナク祖父母父母又ハ二十歳未満ノ兄弟姉妹ニシテ死者ニ依リ從來生計ヲ爲セシ者アルトキハ一時賜金四拾圓ヲ給ス  
 三 重傷死ニ至ラサルモ終身自用ヲ辨シ能ハサル者ニハ一時賜金四拾圓ヲ給ス  
 四 自用ヲ辨シ得ルモ終身専業ヲ管トコト能ハサル者ニハ一時賜金三拾圓ヲ給ス  
 五 専業ヲ管トコトヲ得ルモ職務ニ堪ヘサル者ニハ一時賜金二拾圓ヲ給ス  
 第十五條 備中死没シタル者ハ卒ニ準シ官費ヲ以テ埋葬ス若シ親族故舊ヨリ遺骸下渡ヲ願出ルトキハ埋葬料トシテ金拾圓ヲ下附ス  
 第十六條 艦船管ニ於テ備夫ヲ備入又ハ備止ヲ爲シタルトキハ所管長官ニ届出所管長官ハ之ヲ海軍省軍務局及會計局ニ通報ス可シ  
 第一號再式用紙美濃紙  
 何艦(船管)備夫願  
 何府何國何郡何町何番地 寄留者ハ寄留地ニ  
 何縣何國何郡何村何番地 華士族平民  
 何某男或ハ弟又ハ何々

何年何月何日於  
 何國何郡何町何村 何 某  
 右ノ者御艦(船管)何從僕或ハ何々志願ニ付御檢査ノ上御採用被下度然ル上ハ本人身元一切引受可申此段奉願候也  
 何府何國何郡何町何番地  
 何縣何國何郡何村何番地  
 華士族平民  
 右何某父或ハ兄又ハ何々  
 身元引受人 何 某印  
 年月日 右戶長 何 某印  
 前書之通相違無之候也  
 第二號書式 戶籍明細書  
 本管族籍 氏 名 肩書ニ戸主カニ三男カ  
 氏 名 養子カ明記スヘシ  
 出生ノ年月日  
 生國地名  
 本籍住所  
 寄留住所 全戸カ單身カ  
 明記スヘシ  
 家族人名及其誕辰 父母妻子兄弟等全戸ノ者總テ之ヲ  
 計ス但父母ノ實養ヲ詳ニス可シ  
 父氏 何年何月何日生 母 同上 兄 氏名 弟 氏名 姉 同上 妹 同上

第十二類 軍事

其他右ニ準ス  
前書之通相違無之候也

年月日

右月長

何

其印

● 伺指令

● 志願兵入營附添ノ件ニ付兵庫縣ヨリ海軍省ヘ伺 十八年十二月三日(電報) (十八年十二月十一日官報)

志願兵入營附添ノ儀ハ徵募規則三十二條ニ依リ郡區毎ニ附添ヲ要スルモノト見認ムルモ或ハ一國數郡ヲ纏メ附添ヲ要シ入營セシメ可然哉

指令 十八年十二月九日(電報)  
去ル三日電信伺志願兵附添ノ儀ハ伺ノ通

● 海軍志願兵檢査入費及入營旅費等ノ件ニ付德島縣ヨリ海軍省ヘ伺 十八年十二月十六日(電報) (十八年十二月廿五日官報)

海軍志願兵檢査入費并ニ入營旅費及ヒ附添旅費等總テ御省ヨリ御回金相成ルヘキヤ直ク御指揮ヲ乞フ  
指令 十八年十二月廿二日(電報)

本月十六日付電信伺海軍志願兵檢査費及入營旅費ノ義ハ徵兵同様心得ヘシ

● 志願兵徵募規則ノ儀ニ付高知縣ヨリ海軍省ヘ伺 十九年一月二十五日 (十九年二月三日官報)

海軍志願兵徵募規則第三十二條ノ附添人ノ儀一縣ニ集合發程セシムル場合ハ徵兵入營ノ定員ニ准シ附添人ヲ付シ且該費用モ徵兵通リ心得然ルヘキヤ  
指令 十九年一月二十七日

附添人其他總テ伺ノ通

● 海軍水兵志願者入營旅費等ノ件ニ付愛知縣ヨリ海軍省ヘ上申 十九年六月四日 (十九年六月十八日官報)

海軍水兵志願合格セシ者横須賀鎮守府ヘ客月一日縣地出發入營爲致候付テハ入營旅費及檢査所諸費別表ノ通合金三拾六圓貳拾錢四厘御下渡相成度尤檢査所ノ儀管内三箇所設置相成候處外二箇所ハ郡區役所々在地ニ付別段費途無之候處丹羽郡稻置村ノ儀ハ郡役所遠隔ニ付寺院ヲ借受檢査所取設隨テ入費モ相増候儀ニ候條夫々至各御下渡有之度明細表相添此段上申候也(別表ハ) (略ス)

指令 十九年六月十五日

書面ノ趣海軍志願兵檢査費及入營旅費ノ儀ハ徵兵同様心得ヘシ

● 海軍下士卒家族扶助ノ件ニ付宮崎縣ヨリ海軍省ヘ伺 十八年十月廿七日 (十八年十二月十四日官報)

海軍下士卒家族扶助金給與法客年九月御省乙第十五號ヲ以テ御達相成候處獨身ノ附籍者ハ給與不相成旨第三項ニ明文有之候處獨身ニシテ現役服役者ノ籍(附籍ト相成居ル者)給否ノ明文無之抑附籍者ハ籍主ノ保養ヲ受ケケテ生活スルモノニシテ一家獨立ノ資産無之者ニハ候得共右等ノ者へ家族扶助金給與セラル、且ハ往々弊害ヲ生シ際限モ無之儀ニ付假令祖父又ハ父犯罪ニ依リ除籍セラレ附籍スルモノト雖總テ御給與不相成儀ト心得可然哉  
指令 十八年十二月十日

伺ノ通

第六十四 海軍武官結婚條例ヲ定ム 十八年十一月十三日

海軍武官結婚條例左ノ通被定候條此旨相達候事 海軍省乙第十四號府縣ヘ達

海軍武官結婚條例別冊ノ通相定候條此旨相達候事

明治十八年十一月七日

太政大臣公爵三條實美

別冊

海軍武官結婚條例

- 第一條 凡ソ軍人ノ結婚セント欲スル者將官并ニ同等官ニ在テハ勅許ヲ仰キ准士官以上ニ在テハ海軍卿ノ許可ヲ受ケ下士卒ニ在テハ所管長官ノ許可ヲ受クヘシ
- 第二條 少尉補機關士補軍醫補主計補ハ年齢二十五歳以上ニ至ラサレハ結婚スルコトヲ許サス
- 第三條 下士卒ニシテ左ニ掲クル者ハ結婚スルコトヲ許サス
  - 一 年齢二十五歳未滿ノ者
  - 一 若水兵若火夫
  - 一 徴兵令ニ據リ徴集シタル現役兵
- 第四條 娶ルヘキ婦人ハ行狀端正ニシテ年齢十六歳以上ノ者タルヘシ
- 第五條 結婚ノ許可ヲ得ント欲スル者ハ第八條第一號書式ノ願書ニ第二號書式ノ身元證書ヲ添テ出願スヘシ
- 第六條 將官并ニ同等官ノ願書ニハ海軍卿准士官以上ノ願書ニハ所管長官下士卒ノ願書ニハ所轄長官與書證印スヘシ
- 第七條 結婚ヲ整ヘタル時ハ其旨速ニ届出ヘシ
- 第八條 結婚願書式并ニ身元證書式ハ左ノ如シ

第一號書式  
結婚願

何府(縣)何國何郡(區)何町(村)  
何番地華士族平民

何某何女(姉)(妹)

某

年月日生  
年月何年何箇月

某 儀

官(職)姓名印

太政大臣(海軍卿)(所管長官)宛

海軍卿(所管長官)(所轄長)

官 姓名 印

第二號書式

身元證書

何府(縣)何國何郡(區)何町(村)

今般熟談ノ上右ニ記載ノ者ト結婚致度候間御許可被下度別紙身元證書相添此段奉願候也  
年月日

前書ノ趣篤ト取調候處不都合無之ニ付御許可相成度候也



何番地華士族平民

何某何女(姊)(妹)

某

年月日生  
年月何年何箇月

右ハ行狀端正ノ者ニシテ年齢モ前書ノ通相違無之候此段致保證候也

何府(縣)何國何郡(區)何町(村)

戸長

姓名印

○下士卒ノ結婚届出ニ及ハス十九年二月五日  
海軍省乙第三號府縣へ達  
下士卒ノ結婚ノ儀ハ自今届出ルニ及ハス

第六十五 陸軍刑法ヲ改定ス十四年十二月二十八日  
第六十九號布告

陸軍刑法別冊ノ通改定シ明治十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス  
右奉 勅旨布告候事

別冊

陸軍刑法

第一編 總則

第一章 法例

第一條 此刑法ニ於テ罰ス可キ罪別テ二種ト爲ス

一 重罪

二 輕罪

第二條 此刑法ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスコトヲ得ス

若シ所犯頒布以前ニ在テ未タ判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷ス

第三條 軍人ト稱スルハ將官及ヒ同等官上長官士官下士諸卒ヲ謂フ

第四條 軍屬ト稱スルハ陸軍出仕ノ文官其他總テ宣誓若クハ讀法ノ式ニ由リ陸軍ニ從事スル者ヲ謂フ

第五條 司令官ト稱スルハ一軍一團其他一部隊ト雖モ總テ其司令ニ任スル者ヲ謂フ

第六條 哨兵ト稱スルハ儀仗若クハ警戒ノ爲メ守地ニ在ル者ヲ謂フ

第七條 上官ト稱スルハ官等ノ上ナル者ヲ謂フ同等ト雖モ命令ヲ下ス可キ權ヲ有スル者其部下ニ於テハ上官ニ同シ上等卒及ヒ上等卒ノ職ヲ奉スル者其部下ニ於ル亦之ニ準ス

第八條 將校同等ノ軍人ハ總テ將校ニ同シ

第九條 軍屬及ヒ陸軍所屬ノ諸生徒ハ總テ軍人ニ同シ

第十條 親屬ト稱スルハ普通刑法第百十四條第百十五條ニ記載スル者ヲ謂フ

第十一條 豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ハ召集中ノ外此刑法ニ依テ處斷スルコトヲ得ス但此刑法

ニ特例アル者ハ此限ニ在ラス

第十二條 第八十條第八十一條第八十六條第八十七條第八十八條第八十九條第九十條第一項第九十五條第一百十一條第一百十二條第一百十三條第一百十四條第一百十五條第一百十六條ニ掲クル所ノ罪ヲ犯ス者ハ軍人ニ非スト雖モ此刑法ニ依テ處斷ス

第一百六條第一百七條第一百十七條第一百十八條第一百十九條第二十條ノ罪ヲ犯サシムル者ハ軍人ニ非スト雖モ亦軍人ト同ク論ス

第十三條 敵前軍中若クハ陸戰合圍ノ地ニ在テ第五十三條第五十四條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條ニ掲クル所ノ罪ヲ犯ス者ハ軍人ニ非スト雖モ此刑法ニ依テ處斷ス但其豫備若クハ陰謀ニ止マル者ハ第六十二條第六十三條ニ照シテ處斷ス

第十四條 此刑法ノ罪ヲ犯スニ因リ人ヲ殺傷スル者ハ普通刑法第三編第一章ニ照シ重キニ從テ處斷ス但此刑法ニ特例アル者ハ此限ニ在ラス

第二章 刑例

第十五條 刑ハ主刑及ヒ附加刑ト爲ス

主刑ハ之ヲ宣告ス

附加刑ハ此刑法ニ於テ其宣告スル者ト宣告セサル者トヲ定ム

第十六條 左ニ掲クル者ヲ以テ重罪ノ主刑ト爲ス

- 一 死刑
  - 二 無期徒刑
  - 三 有期徒刑
  - 四 無期流刑
  - 五 有期流刑
  - 六 重懲役
  - 七 輕懲役
  - 八 重禁獄
  - 九 輕禁獄
- 第十七條 左ニ掲クル者ヲ以テ輕罪ノ主刑ト爲ス
- 一 重禁錮
  - 二 輕禁錮
- 第十八條 左ニ掲クル者ヲ以テ附加刑ト爲ス
- 一 剝奪公權
  - 二 剝官
  - 三 停止公權
  - 四 禁治產

五 監視  
六 沒收

第十九條 陸軍法衙ニ於テ死刑ニ處スル者ハ皆之ヲ銃殺ス

第二十條 死刑ハ陸軍卿ノ命令アルニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス  
軍中若クハ合圍ノ地ニ於テ特權ヲ有スル者アル時ハ其命令ヲ以テ之ヲ行フコトヲ得

第二十一條 徒刑ハ無期有期ヲ分タヌ島地ニ發遣シ定役ニ服ス  
有期徒刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス

第二十二條 流刑ハ無期有期ヲ分タヌ島地ノ獄ニ幽閉シ定役ニ服セス  
有期流刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス

第二十三條 懲役ハ懲役場ニ入レ定役ニ服ス  
重懲役ハ九年以上十一年以下輕懲役ハ六年以上八年以下ト爲ス

第二十四條 禁獄ハ獄ニ入レ定役ニ服セス  
重禁獄ハ九年以上十一年以下輕禁獄ハ六年以上八年以下ト爲ス

第二十五條 禁錮ハ禁錮場ニ入レ重禁錮ハ定役ニ服シ輕禁錮ハ定役ニ服セス  
禁錮ハ重輕ヲ分タヌ十一日以上五年以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其長短ヲ區別ス

第二十六條 普通刑法第十四條第十五條第十六條第十八條第十九條第二十一條第二十二條  
第二十五條ニ記載スル所ノ主刑處分ノ例ハ此刑法ニ於テ之ヲ適用ス

第二十七條 陸軍法衙ニ於テ普通刑法ニ依リ罰金科料ニ處スル者限内納完セヌ禁錮拘留ニ  
換フル時ハ更ニ裁判ヲ用ヒス理事ノ求メニ因リ裁判長之ヲ命ス

第二十八條 剝奪公權ハ普通刑法第三十一條ニ記載スル所ノ權ヲ剝奪ス

第二十九條 重罪ノ刑ニ處スル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス終身公權ヲ剝奪ス

第二十條 剝官ハ宣告シテ將校ノ官職ヲ褫奪ス  
下士上等卒軍屬其他ノ官吏此刑法ノ罪ヲ犯シ將校ニ在テ剝官ヲ附加スル刑ニ該ル時ハ別  
ニ宣告ヲ用ヒス其官職ヲ失フ

第三十一條 禁錮ニ處スル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其刑期間公權ヲ行フコトヲ停止ス

第三十二條 普通刑法第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條  
第四十條第四十一條第四十二條第四十三條第四十四條ニ記載スル所ノ附加刑處分ノ例ハ此刑法ニ於  
テ之ヲ適用ス

第三十三條 下士上等卒ハ此刑法及ヒ普通刑法若クハ海軍刑法ニ依リ禁錮ニ處シ官職ヲ失  
フト雖モ兵役ヲ免セス其失フ所ノ官職ハ主刑終ルノ日ヨリ六月ヲ經過スルノ後行政ノ處  
分ヲ以テ之ヲ復スルコトヲ得

第三十四條 下士諸卒ハ此刑法及ヒ普通刑法海軍刑法ノ輕罪ヲ犯シ監視ニ付シ若クハ主刑  
ヲ免シテ止メ監視ニ付ス可キ時ト雖モ監視ニ付セヌ

第三十五條 普通刑法第四十九條第五十條第五十一條第五十二條第五十三條第五十四條第

五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條ニ記載スル所ノ刑期計算假出獄期滿免除復權ノ例ハ此刑法ニ於テ之ヲ適用ス

第三章 加減例

第三十六條 此刑法ニ於テ刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ後ノ數條ニ掲クル所ノ例ニ照シテ加減ス但加ヘテ死刑ニ入ルコトヲ得ス

第三十七條 第八十七條第八十八條第八十九條第二百一十一條ニ掲クル所ノ重罪ノ刑加減ス可キ時ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

- 一 死刑
- 二 無期徒刑
- 三 有期徒刑
- 四 重懲役
- 五 輕懲役

第三十八條 第二編第一章第二章第三章第四章第七章第八章及ヒ第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十三條第八十六條ニ掲クル所ノ重罪ノ刑加減ス可キ時ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

- 一 死刑

二 無期徒刑

三 有期徒刑

四 重禁獄

五 輕禁獄

第二十九條 輕懲役ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

輕禁獄ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

第四十條 重罪ノ刑ヲ減輕シテ禁錮ニ處スル時將校ハ剝官ヲ附加ス

第四十一條 禁錮ニ該ル者加重ス可キ時ハ其刑期四分ノ一ヲ加フルヲ以テ一等ト爲ス其減輕ス可キ時亦四分ノ一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲ス

禁錮ノ刑ハ加ヘテ重罪ニ入ルコトヲ得ス但シ加ヘテ七年ニ至リ減シテ十日以下ニ降スコトヲ得其減シ盡ス時ト雖モ仍ホ一日以上十日以下ノ禁錮ニ處ス

若シ減輕シテ十日以下ニ處スル時ハ重禁錮ト雖モ定役ニ服セス

第四十二條 禁錮ヲ加減スルニ因テ其期限ニ零數ヲ生シ一日ニ滿サル者ハ之ヲ除棄ス

第四十三條 剝官ハ其主刑ヲ減輕スル時ト雖モ仍ホ之ヲ附加ス但十日以下ノ禁錮ニ處スル時ハ此限ニ在ラス

第四十四條 普通刑法第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第

八十一條第八十二條第八十五條第八十九條第九十條第九十一條第九十二條第九十四條第九十五條第九十七條第九十八條第九十九條ニ記載スル所ノ不諭罪減輕再犯加重加減順序ノ例ハ此刑法ニ於テ之ヲ適用ス但刑法ニ特例アル者ハ此限ニ在ラス

第四十五條 再犯加重ハ再ヒ此刑法ノ罪ヲ犯スニ非サレハ之ヲ論スルコトヲ得ス  
第四章 數罪俱發

第四十六條 二罪以上俱ニ發スル時若クハ一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經餘罪後ニ發スル時ハ普通刑法第百條第百一條第百二條第百三條ニ記載スル所ノ數罪俱發ノ例ヲ適用ス但此刑法剝官ヲ附加セサル禁錮ノ罪ト剝官ヲ附加スル禁錮及ヒ海軍刑法剝官ヲ附加スル禁錮若クハ普通刑法ノ禁錮ノ罪ト俱ニ發シ剝官ヲ附加セサル禁錮ニ處スル時ト雖モ將校ハ仍ホ剝官ヲ附加シ下士上等卒軍屬其他ノ官吏ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其官職ヲ失フ

第五章 數人共犯

第四十七條 軍人二人以上共ニ此刑法ノ罪ヲ犯ス時ハ普通刑法第百四條第百五條第百六條第百七條第百八條第百九條第百十條ニ記載スル所ノ數人共犯ノ例ヲ適用ス但第六十七條第七十七條第七十八條第八十一條第八十三條第八十四條第八十五條第百十九條ニ掲クル所ノ罪ヲ論スル時從犯ハ首魁ニ非サル正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス

第四十八條 軍人ト軍人ニ非サル者ト共犯ニ係ル時軍人ハ此刑法ニ依リ處斷スト雖モ軍人ニ非サル者ハ普通刑法ニ照シテ其罪ヲ論ス但第十二條第十三條ニ依リ此刑法ヲ以テ處斷

ス可キ者ハ此限ニ在ラス

第六章 未遂犯罪

第四十九條 此刑法ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ普通刑法第百十一條第百十二條第百十三條ニ記載スル所ノ未遂犯罪ノ例ヲ適用ス

第二編 重罪輕罪

第一章 反亂

第五十條 軍人黨ヲ結ヒ擅ニ兵器ヲ執リ反亂ヲ爲ス者首魁教唆者及ヒ群衆ノ指揮ヲ爲シ若クハ樞要ノ職務ニ從事スル者ハ死刑ニ處ス其指揮ヲ爲シ樞要ノ職務ニ從事スト雖モ情狀輕キ者ハ無期流刑ニ處ス  
諸般ノ職務ヲ司リ若クハ兵器彈藥其他軍需ノ物品ヲ資給スル者ハ有期流刑ニ處シ其情狀輕キ者ハ重禁獄ニ處ス

附和シテ其事ニ服行スル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第五十一條 軍人反亂ヲ爲スコトヲ謀リ兵器彈藥其他軍需ノ物品ヲ劫掠スル者ハ前條ノ刑ニ同シ

第五十二條 軍人前二條ノ罪ヲ犯スニ因リ故ヲニ鎮撫ノ官吏ヲ殺ス者ハ死刑ニ處ス

第五十三條 軍人敵ヲ利スル爲メ部下ノ兵隊若クハ軍事ニ關スル土地家屋船舶及ヒ兵器彈藥其他軍需ノ物品ヲ敵ニ付スル者ハ死刑ニ處ス

第五十四條 軍人敵ヲ利スル爲メ土地道路ノ要害險夷ヲ指示シ若クハ攻守ノ用ニ供ス可キ圖書及ヒ暗號記號ヲ開示シ其他軍機軍情ヲ漏洩スル者ハ死刑ニ處ス

第五十五條 軍人敵國ヲ受クルノ地ニ於テ其司令官ヲ要シ敵ニ降ラシメントシテ黨ヲ爲ス者ハ死刑ニ處ス

第五十六條 軍人敵前ニ在テ隊兵ノ潰走ヲ誘起シ若クハ其連絡集合ヲ妨害スル者ハ死刑ニ處ス

第五十七條 軍人敵ノ爲メニ兵ヲ募ル者ハ死刑ニ處ス

第五十八條 軍人敵ヲ利スル爲メ軍事ニ關スル家屋船舶及ヒ壘柵兵器彈藥其他軍需ノ物品若クハ戰鬪ノ用ニ供ス可キ道路橋梁森林瀋車電線ヲ毀壞シ若クハ火ヲ放テ之ヲ燒燬スル者ハ死刑ニ處ス

第五十九條 軍人敵ヲ利スル爲メ兵器彈藥其他軍需物品ノ缺乏ヲ致ス者ハ死刑ニ處ス

第六十條 軍人敵ヲ利スル爲メ叫呼喧噪シ若クハ造言飛語ヲ爲ス者ハ死刑ニ處ス

第六十一條 軍人敵ノ間諜ヲ誘導助成隱匿シ若クハ敵ヲ利スル爲メ俘虜降人ヲ逃走セシメ及ヒ劫奪スル者ハ死刑ニ處ス

敵ヲ利スル爲メ音信ヲ敵ニ通スル者亦同シ

第六十二條 軍人前數條ニ掲クル所ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者及ヒ其豫備ヲ爲ス者ハ各本條ニ照シ一等ヲ減ス

其陰謀ヲ爲シ未タ豫備ニ至ラサル者ハ二等ヲ減ス

第六十三條 軍人前數條ニ掲クル所ノ罪ヲ犯サントシテ其豫備若クハ陰謀ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ自首スル者ハ本刑ヲ免シ六月以上二年以下ノ監視ニ付シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第六十四條 軍人情ヲ知テ前數條ニ掲クル所ノ犯人集會ノ爲メ家屋ヲ貸ス者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第六十五條 軍人此章ノ罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第二章 抗命

第六十六條 軍人命令ヲ下ス可キ權アル者ノ命令ニ抗シ若クハ服從セサル者敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス  
其他ノ地ニ在テハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第六十七條 軍人二人以上共ニ前條ノ罪ヲ犯ス者敵前ニ在テハ皆死刑ニ處ス  
軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ首魁ハ重禁錮ニ處シ其他ノ犯人ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス  
其他ノ地ニ在テハ首魁ハ輕禁錮ニ處シ其他ノ犯人ハ二年以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將

校ハ剝官ヲ附加ス

第六十八條 軍人暴行ヲ爲スニ當リ上官之ヲ制止シ其命ニ從ハサル者ハ二月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第三章 擅權

第六十九條 司令官講和ノ告示若クハ停戰ノ命令ヲ受ケ仍ホ戰鬪ノ所爲ヲ止メサル者ハ死刑ニ處ス

第七十條 司令官命令ニ背キ若クハ權外ノ事ニ於テ已ムコトヲ得サルノ理由ナクシテ擅ニ兵隊ヲ進退スル者ハ死刑ニ處ス

第七十一條 司令官擅ニ人ヲ募リ部伍ニ充ル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス

第四章 辱職

第七十二條 要塞司令官若クハ要塞特命司令官其盡ス可キ所ヲ盡サスシテ敵ニ降リ若クハ所轄ノ地ヲ敵ニ付スル者ハ死刑ニ處ス

堡砦ノ地ニ於テ其司令官之ヲ犯ス者亦同シ

第七十三條 司令官野戰ノ時ニ在テ隊兵ヲ率ヒ敵ニ降ル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス

若シ其盡ス可キ所ヲ盡サスシテ降ル者ハ死刑ニ處ス

第七十四條 將校敵前ニ在テ盡ス可キ所ヲ盡サスシテ遁走スル者ハ死刑ニ處ス

第七十五條 將校其部下ノ兵徒黨犯罪ノ事アルニ當リ鎮定ノ方ヲ盡サ、ル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス

第五章 暴行

第七十六條 軍人上官ニ對シ暴行ヲ爲ス者ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第七十七條 軍人二人以上共ニ前條ノ罪ヲ犯ス者首魁ハ重禁獄ニ處シ其他ノ犯人ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第七十八條 軍人上官ノ公務ヲ行フニ當リ前二條ノ罪ヲ犯ス者ハ各一等ヲ加フ

第七十九條 軍人上官ニ對シ兵器若クハ兇器ヲ用ヒ暴行ヲ爲ス者ハ死刑ニ處ス

第八十條 上官ノ軍務ヲ行フニ當リ之ニ對シ暴行ヲ爲ス者亦同シ

第八十一條 其兵器若クハ兇器ヲ用フル者ハ有期流刑ニ處ス

第八十二條 軍人二人以上共ニ前條ノ罪ヲ犯ス者首魁ハ重禁獄ニ處シ其他ノ犯人ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用フル者首魁ハ死刑ニ處シ其他ノ犯人ハ有期流刑ニ處ス

首魁自ラ兵器若クハ兇器ヲ用ヒスト雖モ指示シテ之ヲ用ヒシムル時ハ死刑ニ處ス

第八十二條 軍人同等若クハ下等ノ者軍務ヲ行フニ當リ之ニ對シ暴行ヲ爲ス者ハ三月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用フル者ハ重禁獄ニ處ス

第八十三條 軍人二人以上共ニ前條ノ罪ヲ犯ス者首魁ハ輕禁獄ニ處シ其他ノ犯人ハ三月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用フル者首魁ハ有期流刑ニ處シ其他ノ犯人ハ重禁獄ニ處ス

首魁自ラ兵器若クハ兇器ヲ用ヒスト雖モ指示シテ之ヲ用ヒシムル時ハ有期流刑ニ處ス

第八十四條 軍人多衆相集リ暴行ヲ爲ス者首魁ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ其他ノ犯人ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第八十五條 軍人多衆結合シテ相鬪毆スル者首魁ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ其他ノ犯人ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第八十六條 軍人俘虜降人ヲ劫奪シ若クハ暴行脅迫ヲ以テ其逃走ヲ助クル者ハ重禁獄ニ處ス

第八十七條 軍人戰場ニ於テ創傷人ノ衣服財物ヲ褫奪スル者ハ重懲役ニ處シ因テ殺傷スル者ハ死刑ニ處ス

第八十八條 軍人軍用ノ工廠船舶及ヒ軍需ノ物品ヲ貯藏スル倉庫若クハ現ニ戰鬪ノ用ニ供

スル家屋壘柵橋梁瀛車電線ヲ毀壞スル者ハ重懲役ニ處シ火ヲ放テ之ヲ燒燬スル者ハ死刑ニ處ス

第八十九條 軍人敵前軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テ火ヲ放チ露積スル所ノ兵器彈藥軍糧陣營具被服ヲ燒燬スル者ハ死刑ニ處ス

其他ノ地ニ在テハ重懲役ニ處ス

第九十條 軍人兵器彈藥軍糧陣營具被服ヲ棄毀シ若クハ軍用ノ馬匹ヲ殺傷スル者ハ一月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其官給ニ係ル物品ヲ棄毀スル者ハ十一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第九十一條 哨兵衛兵安リニ銃砲ヲ發スル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第九十二條 軍人操練ノ際若クハ禮砲號砲ヲ發スル時瓦石等ヲ裝填シテ發射スル者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

此條ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第六章 侮辱

第九十二條 軍人上官ヲ罵詈若クハ侮慢スル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス  
上官ノ公務ヲ行フ時ニ於テスル者ハ一等ヲ加フ

第九十四條 軍人文書圖書ヲ流布シ若クハ多衆ヲ會シ演說ヲ爲シテ上官ヲ誹毀スル者ハ二



月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第九十五條 軍人哨兵ヲ罵詈若クハ侮慢スル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第九十六條 軍人同等若クハ下等ノ者軍務ヲ行フニ當リ之ニ對シ罵詈若クハ侮慢スル者ハ十一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第七章 違令

第九十七條 軍人哨兵ニ對シ哨令ヲ犯ス者敵前ニ在テハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ一年以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス  
其他ノ地ニ在テハ一年以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第九十八條 軍人擅ニ哨令ヲ變更シ若クハ之ニ違フ者敵前ニ在テハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ一年以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス  
其他ノ地ニ在テハ一年以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第九十九條 哨兵擅ニ其守地ヲ離ル、者敵前ニ在テハ死刑ニ處ス  
軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ一年以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス  
其他ノ地ニ在テハ一年以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第一百條 哨兵睡眠若クハ酩酊シテ事ヲ省セサル者敵前ニ在テハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

ニ處ス

軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ一年以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス  
其他ノ地ニ在テハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第一百一條 軍人現ニ軍務ニ服シ擅ニ其地ヲ離ル、者敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス  
其他ノ地ニ在テハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス  
長官之ヲ犯ス時ハ各一等ヲ加フ

第一百二條 軍人戰時軍中若クハ合圍ノ地ニ在テ急呼ノ號報アル時故ナク來會セサル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第一百三條 軍人戰時軍中若クハ合圍ノ地ニ在テ兵器彈藥軍糧ノ運搬支給ヲ掌リ故ナク其缺乏ヲ致ス者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第一百四條 司令官ノ命令ニ從フヲ得サル時部署若クハ其命セラル、所ノ事ヲ變更シ直チニ之ヲ申報セサル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

其事變ニ因リ暗號記號ヲ改メ直チニ之ヲ申報セサル者亦同シ  
第一百五條 軍人職務ニ因リ與リ知ル所ノ軍事ノ機密ヲ漏洩スル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第一百六條 軍人允許ヲ得テ他方ニ赴キ故ナク歸着ノ期ニ後レ十日ヲ過ル者ハ二月以上一年

以下ノ輕禁錮ニ處ス

戰時ニ在テ五日ヲ過ル者ハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第七條 徵兵故ナク徵集ノ期ニ後レ十日ヲ過クル者ハ十一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ戰時ニ在テ五日ヲ過クル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者故ナク召集ノ期ニ後レ十日ヲ過クル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ戰時ニ在テ五日ヲ過クル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第八條 軍人前條ノ罪ヲ犯サシムル者ハ數人共犯ノ例ニ照シテ處斷ス

第九條 軍人反亂ノ罪ヲ犯サントスル者アルヲ知テ申告セサル者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第十條 軍人政治ニ關スル事項ヲ上書建白シ又ハ講談論說シ若クハ文書ヲ以テ之ヲ廣告スル者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第十一條 軍人敵前軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テ造言飛語ヲ爲ス者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第十二條 軍人俘虜降人ヲ逃走セシムル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

看守護送者之ヲ犯ス時ハ重禁錮ニ處ス

第十三條 軍人俘虜降人ヲ逃走セシムル爲メ兵器其他ノ器具ヲ給與シ若クハ逃走ノ方法

ヲ指示スル者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス  
看守護送者之ヲ犯ス時ハ輕禁錮ニ處ス

第十四條 軍人前二條ニ掲クル所ノ輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第十五條 軍人俘虜降人ヲ看守若クハ護送シ懈怠ニ因リ其逃走ヲ致ス者ハ十一日以上一月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第十六條 軍人逃走ノ俘虜降人タルヲ知テ之ヲ藏匿シ若クハ隱避セシムル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス但犯人ノ親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

第八章 逃亡

第十七條 軍人擅ニ職役若クハ屯營本隊ヲ離レ六日ヲ過クル者ハ逃亡ト爲シ二月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス新兵入營三月ニ滿サル者ハ一等ヲ減ス

戰時軍中若クハ合圍ノ地ニ在テ二日ヲ過クル者ハ逃亡ト爲シ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第十八條 軍人敵前ニ在テ擅ニ職役若クハ屯營本隊ヲ離ル、者ハ逃亡ト爲シ輕禁錮ニ處ス

第十九條 軍人四人以上共ニ逃亡ノ罪ヲ犯ス者首魁ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス戰時軍中若クハ合圍ノ地ニ在テハ輕禁錮ニ處シ敵前ニ在テハ死刑ニ

處ス

其他ノ犯人ハ第百十七條第百十八條ニ照シテ處斷ス

第百二十條 軍人敵ニ奔ル者ハ死刑ニ處ス

第九章 詐偽

第百二十一條 軍人糧食ノ支給ヲ掌リ健康ヲ害ス可キ食料飲料ヲ配付スル者ハ輕懲役ニ處シ因テ死ニ致ス者ハ有期徒刑ニ處ス

第百二十二條 軍人斥候偵察ノ命ヲ受ケ詐偽ノ報告ヲ爲シ若クハ傳令使命令ヲ詐リ傳フル者ハ五月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第百二十三條 陸軍醫官其職務ヲ以テ疾病傷痕及ヒ身體強弱ノ偽證ヲ爲ス者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス

第百二十四條 軍人疾病ヲ作爲シ身體ヲ毀傷シ兵役ヲ免ル、コトヲ圖ル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル戰時ニ於テ前項ノ所爲ヲ以テ召集ヲ免ル、コトヲ圖ル者亦同シ

第六十六 海軍刑法ヲ改正ス

十四年十二月二十八日 第七十號布告

海軍刑法別冊ノ通改定シ明治十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

右奉 勅旨布告候事

別冊

海軍刑法

第一編 總則

第一章 法例

第一條 此刑法ニ於テ罰ス可キ罪別テ二種ト爲ス

一 重罪

二 輕罪

第二條 此刑法ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホストコトヲ得ス

若シ所犯頒布以前ニ在テ未タ判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷ス

第三條 第九十二條第九十三條第九十八條第九十九條第百二條第百四條第百五條第百六條

第百七條第百八條第百二十七條第百二十八條第百二十九條第百三十條第百三十一條第百

三十二條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ軍人ニ非スト雖モ此刑法ニ依テ處斷ス

教唆若クハ幫助シテ第百三十三條第百三十四條第百三十五條ノ罪ヲ犯サシメタル者ハ軍

人ニ非スト雖モ亦軍人ト同シク論ス

第四條 敵前軍中ニ在テ第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條

第六十五條第六十七條第六十八條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ軍人ニ非スト雖モ此刑

法ニ依テ處斷ス但其豫備若クハ隱謀ニ止マル者ハ第六十九條第七十條ニ照シテ處斷ス  
第五條 此刑法ノ罪ヲ犯スニ因リ人ヲ殺傷シタル者ハ普通刑法第三編第一章ニ照シ重キニ  
從テ處斷ス但第五十八條第九十九條第百三十七條ニ記載シタル者ハ此限ニ在ラス  
第二章 刑例

第一節 刑名

第六條 刑ハ主刑及ヒ附加刑ト爲ス  
第七條 左ニ記載シタル者ヲ以テ重罪ノ主刑ト爲ス  
一死刑

- 二無期徒刑
  - 三有期徒刑
  - 四無期徒刑
  - 五有期徒刑
  - 六重懲役
  - 七輕懲役
  - 八重禁獄
  - 九輕禁獄
- 第八條 左ニ記載シタル者ヲ以テ輕罪ノ主刑ト爲ス

- 一重禁錮
- 二輕禁錮

第九條 左ニ記載シタル者ヲ以テ附加刑ト爲ス  
一剝奪公權  
二剝官  
三停止公權  
四禁治產  
五監視  
六沒收

第二節 主刑處分

第十條 主刑ハ之ヲ宣告ス  
第十一條 死刑ハ銃ヲ以テ射殺ス普通刑法ニ從ヒ海軍法衙ニ於テ死刑ニ處スル者亦同シ  
第十二條 海軍法衙ニ於テ死刑ニ處スル者ハ海軍卿ノ命令アルニ非サレハ之ヲ行フコト得  
ス  
若シ臨時死刑ヲ行フ權ヲ付與セラレタル者アル時ハ其命令ヲ以テ之ヲ行フコト得  
第十三條 前二條ニ記載シタルノ外死刑ノ處分ハ普通刑法第十四條第十五條第十六條ノ例  
ニ同シ

第十四條 徒刑流刑懲役禁獄及ヒ禁錮ハ普通刑法第十七條第十八條第十九條第二十條第二十一條第二十二條第二十三條第二十四條ノ例ニ同シ

第十五條 定役ニ服スル囚人ニ工錢ヲ分與スルノ法ハ普通刑法第二十五條ノ例ニ同シ

第三節 附加刑處分

第十六條 附加刑ハ此刑法ニ於テ其宣告スル者ト宣告セサル者トヲ定ム

第十七條 剝奪公權ハ普通刑法第三十一條第三十二條ノ例ニ同シ

第十八條 剝官ハ將校ノ刑トシ之ヲ宣告ス

軍屬其他ノ官吏剝官ヲ附加スル刑ニ該ル時ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其官職ヲ失フ

第十九條 將校重禁錮ニ處スル者ハ剝官ヲ附加ス輕禁錮ニ處スル者ハ各本條ニ記載シタルノ外之ヲ附加スルコトヲ得ス

其剝官ヲ附加スル者ハ主刑ヲ減輕スル時ト雖モ仍ホ之ヲ附加ス

第二十條 普通刑法及ヒ陸軍刑法ニ從ヒ禁錮ニ處スル者ト雖モ下士卒ハ其職役ヲ免セス

第二十一條 禁錮ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其刑期間公權ヲ行フコトヲ停止ス

第二十二條 禁治産ハ普通刑法第三十五條第三十六條ノ例ニ同シ

第二十三條 監視ハ普通刑法第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條ノ例ニ同シ

輕罪ノ刑ニ於テ監視ニ付シタル者及ヒ主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル者ハ普通刑法第

三十四條ノ例ニ同シ

第二十四條 下士卒ハ此刑法及ヒ普通刑法陸軍刑法ノ輕罪ヲ犯シ監視ニ付シ若クハ主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付ス可キ時ト雖モ監視ニ付セス

第二十五條 沒收ハ普通刑法第四十二條第四十四條ノ例ニ同シ

第四節 刑期計算

第二十六條 刑期計算ハ普通刑法第四十九條第五十條第五十一條第五十二條ノ例ニ同シ

第五節 假出獄

第二十七條 假出獄ハ普通刑法第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條ノ例ニ同シ

第六節 期滿免除

第二十八條 期滿免除ハ普通刑法第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條ノ例ニ同シ

第七節 復權

第二十九條 復權ハ普通刑法第六十三條第六十四條第六十五條ノ例ニ同シ

第三章 加減例

第三十條 此刑法ニ於テ刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ後ノ數條ニ記載シタル例ニ照シテ加減ス

但加ヘテ死刑ニ入ルコトヲ得ス

第三十一條 第九十九條第百四條第百五條第百六條第百七條第百三十七條ニ記載シタル重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

- 一死刑
- 二無期徒刑
- 三有期徒刑
- 四重懲役
- 五輕懲役

第三十二條 前條ニ記載シタル各條ノ外重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

- 一死刑
- 二無期流刑
- 三有期徒刑
- 四重禁獄
- 五輕禁獄

第三十三條 輕懲役ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

第三十四條 禁錮ニ該ル者減輕ス可キ時ハ各本條ニ記載シタル刑期四分ノ一ヲ減スルヲ以テ

テ一等ト爲シ其加重ス可キ時ハ亦四分ノ一ヲ加フルヲ以テ一等ト爲ス但加ヘテ重罪ニ入ルヲ得ス

禁錮ハ加ヘテ七年ニ至リ減シテ十日以下ニ降スヲ得其減シ盡ス時ト雖モ仍ホ一日以上十日以下ノ禁錮ニ處ス但重禁錮ト雖モ十日以下ニ處スル時ハ定役ニ服セス

第三十五條 禁錮ヲ加減スルニ因テ其期限ニ零數ヲ生シ一日ニ滿サル時ハ之ヲ除棄ス

第三十六條 重罪ノ刑ヲ減輕シテ禁錮ニ處スル時將校ハ剝官ヲ附加ス  
輕罪ノ刑ヲ減輕スル時ト雖モ本刑剝官ヲ附加スル者ハ仍ホ之ヲ附加ス但減シテ十日以下ノ禁錮ニ處スル時ハ此限ニ在ラス

第四章 不論罪及ヒ減輕  
第一節 不論罪及ヒ宥恕減輕

第三十七條 不論罪及ヒ宥恕減輕ハ普通刑法第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條ノ例ニ同シ

第三十八條 此節ニ記載シタルノ外特別ノ不論罪ハ各本條ニ於テ之ヲ記載ス  
第二節 自首減輕

第三十九條 自首減輕ハ普通刑法第八十五條第八十八條ノ例ニ同シ  
第三節 酌量減輕

第四十條 重罪輕罪ヲ分タス所犯情狀原諒ス可キ者ハ酌量シテ本刑ヲ減輕スルヲ得

此刑法ニ於テ本刑ヲ加重シ又ハ減輕ス可キ者ト雖モ其酌量ス可キ時ハ仍ホ之ヲ減輕スル  
ヲ得

其酌量減輕ス可キ者ハ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

第五章 再犯加重

第四十一條 再犯加重ハ普通刑法第九十一條第九十二條第九十四條第九十五條第九十七條  
第九十八條ノ例ニ同シ

第四十二條 再犯ハ初犯ノ罪此刑法ニ從ヒ處斷シタル者ニ非サレハ之ヲ論スルヲ得ス

第六章 加減順序

第四十三條 加減順序ハ普通刑法第九十九條ノ例ニ同シ

第七章 數罪俱發

第四十四條 數罪俱發ハ普通刑法第百二條第百三條ノ例ニ同シ

第四十五條 此刑法ノ罪ト普通刑法又ハ陸軍刑法ノ罪ト俱ニ發シタル時亦一ノ重キニ從テ  
處斷ス

第四十六條 此刑法ノ剝官ヲ附加セサル禁錮ニ該ル罪ト剝官ヲ附加スル禁錮及ヒ陸軍刑法  
ノ剝官ヲ附加スル禁錮若クハ普通刑法ノ禁錮ニ該ル罪ト俱ニ發シタル時ニ在テハ剝官ヲ  
附加セサル禁錮ニ處スルト雖モ仍ホ剝官ヲ附加シ軍屬其他ノ官吏ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其  
官職ヲ失フ

第八章 數人共犯

第四十七條 數人共犯ハ普通刑法第百四條第百五條第百六條第百七條第百八條第百九條第  
百十條ノ例ニ同シ但此刑法第八十七條第八十九條第九十條第九十三條第九十五條第九十  
六條第九十七條第百三十四條ニ記載シタル罪ヲ論スル時從犯ハ首魁ニ非サル正犯ノ刑ニ  
一等ヲ減ス

第四十八條 軍人ト軍人ニ非サル者ト共犯ニ係ル時軍人ハ此刑法ニ依リ處斷スト雖モ軍人  
ニ非サル者ハ普通刑法ニ照シテ其罪ヲ論ス但第三條第四條ニ依リ此刑法ヲ以テ處斷ス可  
キ者ハ此限ニ在ラス

第九章 未遂犯罪

第四十九條 未遂犯罪ハ普通刑法第百十一條第百十二條第百十三條ノ例ニ同シ

第十章 名稱例

第五十條 軍人ト稱スルハ將官及ヒ同等官上長官士官下士卒ヲ謂フ  
將校同等ノ軍人ハ總テ將校ニ同シ

第五十一條 軍屬ト稱スルハ海軍出仕ノ文官其他海軍ニ從事スル者ヲ謂フ  
軍屬及ヒ海軍所屬ノ生徒ハ總テ軍人ニ同シ

第五十二條 司令官ト稱スルハ數隻又ハ一隻ノ艦船數所又ハ一所ノ屯營ヲ指揮スル者及ヒ  
分遣ノ兵隊若クハ數隻ノ端舟ヲ指揮スル者ヲ謂フ

第十二類 軍事

第五十三條 上官ト稱スルハ官等ノ上ナル者ヲ謂フ同等ト雖モ命令ヲ下ス可キ權ヲ有スル者其部下ニ於テハ上官ニ同シ卒ニシテ臨時下士ノ職ヲ奉スル者其部下ニ於ル亦之ニ準ス

第五十四條 守兵ト稱スルハ儀仗若クハ警戒ノ爲メ守地ニ在ル者ヲ謂フ

第五十五條 親屬ト稱スルハ普通刑法第百十四條第百十五條ノ例ニ同シ

第二編 重罪輕罪

第一章 反亂

第五十六條 軍人黨ヲ結ヒ擅ニ兵器ヲ執リ反亂ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 首魁教唆者及ヒ群衆ノ指揮ヲ爲シ若クハ樞要ノ職務ニ從事シタル者ハ死刑ニ處ス其指揮ヲ爲シ樞要ノ職務ニ從事スト雖モ情狀輕キ者ハ無期流刑ニ處ス

二 諸般ノ職務ヲ司トリ若クハ艦船兵器彈藥其他軍需ノ物品ヲ資給シタル者ハ有期流刑ニ處シ其情狀輕キ者ハ重禁獄ニ處ス

三 附和シテ其事ニ服行シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第五十七條 軍人反亂ヲ爲スコトヲ謀リ艦船兵器彈藥其他軍需ノ物品ヲ劫掠シタル者ハ前條ノ刑ニ同シ

第五十八條 軍人前二條ノ罪ヲ犯スニ因リ故サラニ鎮撫ノ官吏ヲ殺シタル者ハ死刑ニ處ス

第五十九條 軍人敵ヲ利スル爲メ艦船兵隊港灣堡塞造船所造兵所武庫火藥庫兵器彈藥糧餉其他軍事ニ關スル土地家屋物件ヲ敵ニ付シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十條 軍人敵ヲ利スル爲メ軍事ニ關スル緊要ノ圖書ヲ敵ニ付シ若クハ土地道路ノ要害險夷ヲ指示シ又ハ暗號軍機軍情ヲ漏洩シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十一條 軍人敵ヲ利スル爲メ艦船屯營造船所造兵所兵器彈藥糧餉其他軍用ニ供ス可キ物件ヲ毀壞シ又ハ火ヲ放チテ之ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十二條 軍人敵ヲ利スル爲メ兵器彈藥糧餉其他軍需物品ノ缺乏ヲ致シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十三條 軍人敵ノ爲メニ兵ヲ募リタル者ハ死刑ニ處ス

第六十四條 軍人敵ヲ利スル爲メ音信ヲ敵ニ通シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十五條 軍人敵ノ間諜ヲ誘導助成隱匿シ若クハ敵ヲ利スル爲メ俘虏降人ヲ逃走セシメ又ハ劫奪シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十六條 軍人黨ヲ結ヒ司令官ヲ要シ敵ニ降ラシメントシタル者ハ死刑ニ處ス

第六十七條 軍人敵ヲ利スル爲メ艦船若クハ兵隊ノ聯絡集合ヲ妨害シ又ハ兵隊ノ潰走ヲ誘起シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十八條 軍人敵ヲ利スル爲メ叫呼喧噪シ若クハ造言飛語ヲ爲シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十九條 軍人前數條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者及ヒ其豫備ヲ爲シタル者ハ本條ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

其陰謀ヲ爲シ未タ豫備ニ至ラサル者ハ各二等ヲ減ス



第七十條 軍人前數條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ其豫備若クハ陰謀ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ自首シタル者ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第七十一條 軍人情ヲ知テ前數條ニ記載シタル所ノ犯人集會ノ爲メ家屋ヲ貸シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第七十二條 軍人此章ノ罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第二章 辱職

第七十三條 司令官猶ホ防守スルヲ得可キ時ニ於テ敵ニ降り又ハ其艦船若クハ守地ヲ敵ニ付シタル者ハ死刑ニ處ス

第七十四條 司令官戰爭ノ際ニ於テ其盡ス可キ所ヲ盡サスシテ艦船若クハ兵隊ヲ率ヒ遁走シタル者ハ死刑ニ處ス

第七十五條 司令官若クハ艦船ノ乘員其艦船ヲ破亡沈没シタル者ハ死刑ニ處ス其怠慢ニ出タル時ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第七十六條 司令官其艦船破亡沈没スル時ニ當リ故ナク衆ニ先タチテ其艦船ヲ退去シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス  
一敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

二軍中ニ在テハ有期流刑ニ處ス

三其他ノ場合ニ在テハ輕禁錮ニ處ス

第七十七條 司令官若クハ艦船ノ乘員其艦船ヲ擱岸坐礁其他危險ニ附シ之ヲ損壞シタル者ハ重禁錮ニ處ス其怠慢ニ出タル時ハ十一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第七十八條 司令官其艦船擱岸坐礁其他危險ノ時ニ當リ救護ノ方略ヲ盡サスシテ之ヲ沈没シ若クハ損壞シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第七十九條 司令官敵ノ船舶ヲ拿捕ス可キ時ニ於テ故ナク其事ヲ爲サ、ル者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス

敵前ニ在テ我船舶ヲ救援ス可キ時故ナク其事ヲ爲サ、ル者亦同シ

第八十條 司令官若クハ當直士官怠慢ニ因リ敵ヲシテ其艦船ニ乗入ラシメタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第八十一條 司令官船舶ヲ護衛スルノ命ヲ受ケ其船舶ヲ委棄シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

二軍中ニ在テハ重禁錮ニ處ス

三其他ノ場合ニ在テハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第八十二條 前條ノ所爲其怠慢ニ出タル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一敵前ニ在テハ一年以上四年以下ノ輕禁錮ニ處ス  
二軍中ニ在テハ三月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

三其他ノ場合ニ在テハ十一月以上二月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第八十三條 將校其部下ノ兵徒黨犯罪ノ事アルニ當リ鎮定ノ方ヲ盡サ、ル者ハ一月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス

第八十四條 軍人職務ニ因リ與リ知ル所ノ軍機若クハ軍事ニ關スル秘密ノ圖書ヲ漏洩シタル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第八十五條 司令官内外國ノ船舶擱岸坐礁其他危險ノ時救援ノ請求ヲ受ケ故ナク之ヲ肯セサル者ハ十一月以上三月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第三章 抗命

第八十六條 軍人命令ヲ下ス可キ權アル者ノ命令ニ抗シタル者若クハ服從セサル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

二軍中又ハ擱岸坐礁其他艦船救護ノ爲メ緊要ノ方略ヲ爲ス時ニ在テハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

三其他ノ場合ニ在テハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス  
第八十七條 軍人二人以上相黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

二軍中又ハ擱岸坐礁其他艦船救護ノ爲メ緊要ノ方略ヲ爲ス時ニ在テハ首魁ハ重禁獄ニ處ス其他ノ者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

三其他ノ場合ニ在テハ首魁ハ輕禁獄ニ處ス其他ノ者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第四章 暴行

第八十八條 軍人上官ニ對シ暴行ヲ爲シタル者ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第八十九條 軍人二人以上相黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者首魁ハ重禁獄ニ處ス其他ノ者ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第九十條 軍人上官ノ公務ヲ行フニ當リ前二條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ

第九十一條 軍人上官ニ對シ兵器若クハ兇器ヲ用ヒ暴行ヲ爲シタル者ハ死刑ニ處ス

戰場ニ於テ上官ノ公務ヲ行フニ當リ暴行ヲ爲シタル者亦同シ  
第九十二條 軍人守兵ニ對シ暴行ヲ爲シタル者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用ヒタル者ハ有期流刑ニ處ス

第九十三條 軍人二人以上相黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者首魁ハ重禁獄ニ處ス其他ノ者

ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用ヒタル者首魁ハ死刑ニ處シ其他ノ者ハ有期流刑ニ處ス

首魁自ラ兵器若クハ兇器ヲ用ヒスト雖モ指示シテ之ヲ用ヒシメタル時ハ死刑ニ處ス

第九十四條 軍人戰場ニ於テ同等若クハ下等ノ者ノ公務ヲ行フニ當リ暴行ヲ爲シタル者ハ三月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用ヒタル者ハ重禁獄ニ處ス

第九十五條 軍人二人以上相黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者首魁ハ輕禁獄ニ處ス其他ノ者ハ三月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用ヒタル者首魁ハ有期流刑ニ處シ其他ノ者ハ重禁獄ニ處ス

首魁自ラ兵器若クハ兇器ヲ用ヒスト雖モ指示シテ之ヲ用ヒシメタル時ハ有期流刑ニ處ス

第九十六條 軍人多衆相集リ暴行ヲ爲シタル者首魁ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ其他ノ者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第九十七條 軍人多衆結合シテ相闘毆シタル者首魁ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ其他ノ者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第九十八條 軍人俘虜降人ヲ劫奪シ若クハ暴行脅迫ヲ以テ其逃走ヲ助ケタル者ハ重禁獄ニ處ス

第九十九條 軍人戰場ニ於テ創傷人ノ衣服財物ヲ褫奪シタル者ハ重懲役ニ處シ因テ殺傷シ

タル者ハ死刑ニ處ス

第五章 侮辱

第一百條 軍人上官ヲ罵詈若クハ侮慢シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス上官ノ公務ヲ行フニ當リ罵詈若クハ侮慢シタル時ハ一等ヲ加フ

第一百一條 軍人文書圖書ヲ流布シ若クハ多衆ヲ會シ演說ヲ爲シテ上官ヲ誹毀シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第一百二條 軍人守兵ヲ罵詈若クハ侮慢シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第一百三條 軍人戰場ニ於テ同等若クハ下等ノ者ノ公務ヲ行フニ當リ罵詈若クハ侮慢シタル者ハ十一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第六章 燒燬毀壞

第一百四條 軍人火ヲ放テ艦船屯營造船所造兵所武庫火藥庫其他戰鬥ノ用ニ供スル屋舎若クハ軍用ニ供スルノ物品ヲ貯藏シタル倉庫ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス

第一百五條 軍人火ヲ放テ露積シタル兵器彈藥機械船具糧餉其他軍用ノ物品ヲ燒燬シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一敵前若クハ軍中ニ在テハ死刑ニ處ス

二其他ノ場合ニ在テハ重懲役ニ處ス

第一百六條 軍人火藥其他激發ス可キ物品又ハ蒸氣罐ヲ破裂セシメテ前二條ニ記載シタル物

件ヲ毀壞シタル者ハ前二條ノ例ニ照シテ處斷ス

第七條 軍人艦船屯營造船所造兵所武庫火藥庫其他戰闘ノ用ニ供スル屋舎若クハ軍用ニ供スル物品ヲ貯藏シタル倉庫ヲ破壊シタル者ハ重懲役ニ處ス

第八條 軍人兵器彈藥機械船具糧餉其他軍用ノ物品ヲ棄毀シタル者ハ一月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

第九條 軍人官給ノ物品ヲ棄毀シタル者ハ十一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第七章 擅權

第十條 司令官講和ノ告示若クハ停戰ノ命令ヲ受ケタル後仍ホ戰闘ノ所爲ヲ止メサル者ハ死刑ニ處ス

第十一條 司令官命令ニ背キ若クハ權外ノ事ニ於テ已ムコトヲ得サルノ理由ナク擅ニ艦船若クハ兵隊ヲ進退シタル者ハ死刑ニ處ス

第八章 違令

第十二條 司令官艦船若クハ兵隊ヲ率并故ナク其守地若クハ配置セラレタル地ヲ離去シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

二 軍中ニ在テハ一年以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス

三 其他ノ場合ニ在テハ二月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス

第十三條 將校艦船ノ直ニ在テ其直ヲ離レ若クハ守兵守所ヲ離レ其他軍人緊要ノ職務ニ服シ擅ニ其職務ヲ離レタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

二 軍中又ハ擱岸坐礁其他艦船救護ノ爲メ緊要ノ方略ヲ爲ス時ニ在テハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

三 其他ノ場合ニ在テハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第十四條 將校艦船ノ直ニ在テ睡眠若クハ酩酊シテ事ヲ省セサル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ニ在テハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

二 軍中又ハ航海中ニ在テハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第十五條 守兵守所ニ在テ睡眠若クハ酩酊シテ事ヲ省セサル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ニ在テハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

二 軍中ニ在テハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

三 其他ノ場合ニ在テハ十一月以上三月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第十六條 軍人艦船ノ擱岸坐礁其他危險ノ時ニ當リ司令官ノ命ヲ待タス其艦船ヲ退去シ又ハ其命ニ依リ艦船ヲ退去シタル後集合ノ場所ニ來ラス若クハ擅ニ其場所ヲ離去シタル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス